

2021 年 9 月

食料安全保障月報 (第 3 号)



令和 3 年 9 月 30 日

農林水産省

食料安全保障月報について

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

2 対象者

本月報は、2021年6月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみなさま、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報（生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等）について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

2021 年 9 月食料安全保障月報（第 3 号）

目 次

概要編

I	2021 年 9 月の主な動き	1
II	2021 年 9 月の穀物等の国際価格の動向	3
III	2021/22 年度の穀物需給（予測）のポイント	3
IV	2021/22 年度の油糧種子需給（予測）のポイント	3
V	今月の注目情報 明暗を分けた豪州とカナダの穀物等の生産・輸出動向	4

（資料）

1	穀物等の国際価格の動向	8
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	9
3	穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、品目別）	10
4	FAO 食料価格指数の推移	12
5	食品小売価格の動向	13

品目別需給編

I	穀物	
1	小麦	1
	＜米国＞	2021/22 年度の収穫はほぼ終了、2022/23 年度の作付けが開始
	＜カナダ＞	平原三州の干ばつ天候で生産量は減産見通し
	＜豪州＞	生産量は史上第 3 位の豊作
	＜EU＞	フランスで収穫はほぼ終了。普通小麦の品質は良好
	＜中国＞	天候に恵まれ生産量は史上最高の見通し
	＜ロシア＞	生産量は前年度を 15.1%下回る 72.5 百万トン
2	とうもろこし	8
	＜米国＞	収穫面積・単収上方修正で増産、輸出減の見通し
	＜ブラジル＞	2020/21 年度冬とうもろこし生産見通し下方修正
	＜アルゼンチン＞	増産見通しも輸出税継続
	＜中国＞	収穫面積増、単収上方修正で史上最高、消費量も史上最高の見通し
3	コメ	13
	＜米国＞	単収増加するも収穫面積の減少により生産量が減少
	＜インド＞	2019/20 年度以降の期末在庫を上方修正
	＜中国＞	前月予測から変更なくも生産量・消費量ともに史上最高
	＜タイ＞	2020/21 年度の輸出量が下方修正
	＜ベトナム＞	秋作コメの収穫がほぼ終了

Ⅱ 油糧種子	
大豆・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
＜米国＞ 収穫面積増、単収上方修正で増産、輸出減の見通し	
＜ブラジル＞ 収穫面積増で史上最高の見通し	
＜アルゼンチン＞ 収穫面積増で増産見通しも輸出税継続	
＜中国＞ 収穫面積減で減産見通し、輸入量は約1億トン	
＜カナダ＞ 西部での高温乾燥の影響で減産の見通し	

特別編

我が国の農産物輸入における海運事情（外航編）

【利用上の注意】

表紙写真：米国ポートランド港 第5ターミナル穀物エレベーター

出典：“Port of Portland” ホームページ

(<https://www.portofportland.com/Terminal5>)

※ ポートランド空港・港湾局の厚意により転載。

(photo courtesy of Port of Portland)

(概要編)

I 2021 年 9 月の主な動き

主要穀物等の需給・相場等について

主要穀物等の 2021/22 年度の作況については、北半球はほぼ確定しつつあるが、これから収穫・作付けが行われる南半球は今後も変動する可能性。

品目別にみると、小麦については、9 月の米国農務省 (USDA) の需給報告では、生産量は史上最高となるものの、飼料用需要の高まりで消費量が生産量を上回る予想。米国、カナダでの干ばつによる高たんぱく質小麦の減産見通し等から、国際相場も高い水準で推移しており今後も注視が必要。

一方、大豆・とうもろこしについては、生産量が消費量を上回ると予想され、相場も史上最高水準にまで迫った 5 月頃と比較すれば一段落した感があるものの、期末在庫は依然としてタイトな状況であり、南半球の状況を中心に引き続き注視していく必要。

FAO (国連食糧農業機関) が公表している食料価格指数については、本年 5 月まで 12 カ月連続で上昇して以降、2 カ月連続で下落していたが、最新値 (8 月) では 3 カ月ぶりに上昇。

また、海上運賃も引き続き高い水準で推移。

早期注意段階の継続について

現状において、我が国の食料の安定供給に懸念は生じていないものの、上記の状況を踏まえ、2021 年 7 月から適用を開始した、緊急事態食料安全保障指針に基づく「早期注意段階」については、9 月も引き続き適用。

【参考】早期注意段階について (農林水産省 HP)

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/soukichuui.html>



1 収穫期を迎える米国の状況

とうもろこし、大豆は、高温・乾燥の影響があったコーンベルト北西部を除き、おおむね順調に収穫期を迎えた。9月の米国農務省（USDA）の需給報告では、8月時点の見通しから単収がとうもろこし、大豆とも引き上げられたため、生産量は、それぞれ630万トン、100万トン上方修正され、それぞれ3億8,090万トン、1億1,900トンとなった。ともに前年度より増産となる見通し。期末在庫率はとうもろこしは9.5%、大豆は4.2%と前月より上方修正も、2年連続で一桁台となっている。

小麦は、冬小麦が前年度より増産となるも、春小麦が6月から7月にかけて主産地の米国北西部で生育期の高温・乾燥の影響を受け減産となったことから、小麦全体で4,620万トン（前年度比7.1%減）の見通しとなっている。期末在庫率は、前年度の40.0%から29.8%へ低下する見込み。

なお、8月29日に米国ガルフに上陸したハリケーン・アイダにより一部の穀物輸出施設が被害を受け、一時停電となったため、輸出が遅延している。

写真：ネブラスカ州のとうもろこし収穫
（9月16日撮影）

乾燥の影響で例年より生育が早かった



2 南米の作付状況

アルゼンチンでは、9月上旬に降雨があり、2021/22年度の生育中の小麦への乾燥の影響を緩和し、9月中旬には、とうもろこしの作付けが開始された。USDAの9月見通しによれば、小麦の生産量は2,000万トン（対前年度比13.3%増）、とうもろこしの生産量は5,300万トン（対前年度比6.0%増）と見込まれている。なお、降雨不足により低下していたパラナ川の水位は8月よりは上昇したものの、引き続き穀物等の輸出への影響に注視が必要である。

ブラジル南部で、9月中旬には降雨があり、2021/22年度の大豆の作付けが開始された。ブラジル食料供給公社の8月26日時点の見通しによれば、大豆の生産量は、史上最高を更新する1億4,130万トンとなり、世界最大の生産・輸出国の地位を維持すると見込まれている。一方、前年度が干ばつや霜害で冬作が影響を受け減産となったとうもろこしは、1億1,590万トンと大きく回復する見込みである。

3 ウクライナの収穫状況と輸出動向

USDAの9月見通しによれば、小麦は、春の降雨に恵まれ、作付けの大半を占める冬小麦は収穫が終了し、生産量は前年度（2,540万トン）より29.8%増の3,300万トンが見込まれている。とうもろこしは、天候に恵まれ、現在、成熟期を迎えており、干ばつ被害を受けた前年度（3,030万トン）より28.7%増の史上最高の3,900万トンが見込まれている。

一方、輸出量は、増産により小麦は2,350万トン、とうもろこしは3,200万トンと前年度より増加する見込み。なお、輸出規制に関しては、政府と穀物業界団体が7月に輸出上限数量の設定について合意しており、具体的な数量は8月にも公表されるとみられていたが、豊作見通しを受け公表が延期されている模様。

Ⅱ 2021 年 9 月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、8月末、250ドル/トン台後半で推移。9月に入り、ロシアやカナダでの減産による世界的な供給懸念から一時260ドル/トン台前半に値を上げたものの、ドル高やUSDAの9月需給報告で、世界の期末在庫量が上方修正されたことから、240ドル/トン台後半に値を下げた。その後は、フランスの生産量が減少見込みとなったことや、ロシアの冬小麦の作付けが減少する見通しから、値を上げ、9月下旬現在、250ドル/トン台後半で推移。

とうもろこしは、8月末、210ドル/トン台前半で推移。9月に入り、ドル高や8月末のハリケーン・アイダによる米国ガルフ地域の穀物輸出施設の損傷や停電の影響で輸出が停滞する懸念、USDAの9月需給報告で米国や中国の生産量が上方修正されたこと、米国が収穫期を迎えたこと等により値を下げ、9月下旬現在、200ドル/トン台半ばで推移。

コメは、8月末、420ドル/トン台半ばで推移。バーツ安やコンテナ不足による船積み遅延、労働力の不足等によりアフリカやアジアからの引き合いが弱いことから値を下げ、9月下旬現在、400ドル/トン台半ばで推移。

大豆は、8月末、470ドル/トン台後半で推移。9月に入り、ドル高や8月末のハリケーン・アイダによる米国ガルフ地域の穀物輸出施設の損傷や停電の影響で輸出が停滞する懸念、USDAの9月需給報告で米国の生産量が上方修正されたこと、米国中西部の降雨による作柄改善見込み、米国が収穫期を迎えたこと等により値を下げ、9月下旬現在、460ドル/トン台前半で推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場（期近物）、米はタイ国家貿易委員会価格

Ⅲ 2021/22 年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前月から1,640万トン上方修正され 27.9億トン。消費量は、前月から550万トン上方修正され 27.9億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

また、期末在庫率は前年度を下回り28.3%となる見込み（資料2参照）。

生産量は、前月予測から、小麦、とうもろこし、コメで上方修正され、穀物全体で上方修正され 27.9億トンの見込み。

消費量は、前月予測から、小麦、とうもろこしで上方修正、コメで下方修正され、穀物全体で上方修正され 27.9億トンの見込み。

貿易量は、前月予測から、小麦、とうもろこし、コメで上方修正され、5.0億トンの見込み。

期末在庫量は、7.9億トンと前月予測から上方修正、期末在庫率は前月から上方修正された。。

(注：数値は9月のUSDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による)

Ⅳ 2021/22 年度の油糧種子需給（予測）のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り 6.3億トン。消費量は前年度を上回り 6.2億トンとなり、生産量が消費量を上回る見込み。

なお、期末在庫率は前年度を上回り、17.8%となる見込み。

(注：数値は9月のUSDA「Oilseeds: World Markets and Trade」による)

V 今月の注目情報: 明暗を分けた豪州とカナダの穀物等の生産・輸出状況

2021/22年度の豪州の冬作物は生育期の降雨に恵まれ、前年度に引き続き、史上最高水準の豊作が見込まれている。一方、カナダの作物は、特に西部の平原州の生育期の干ばつの影響で大幅な減産が見込まれている。この結果、豪州産への需要が高まっている。明暗を分けた両国の生産・輸出動向の状況をまとめた。

1 豪州の生産・輸出動向

(1) 生産動向

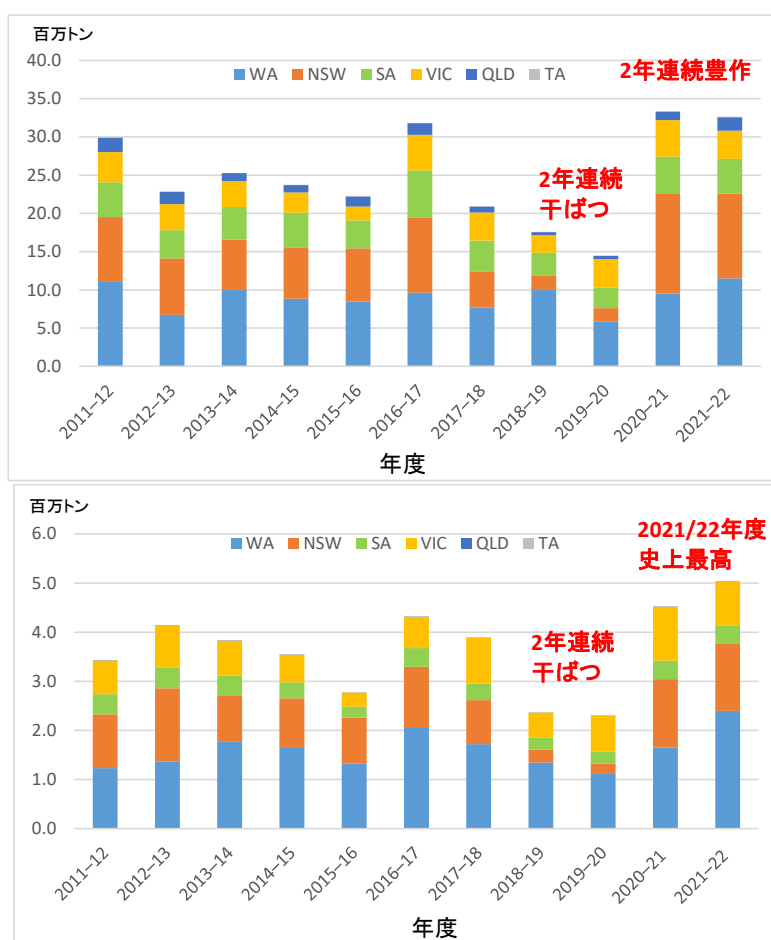
豪州農業資源経済科学局 (ABARES) が 9 月 7 日に公表した「Crop Report」によれば、2021/22 年度の冬作物は、生育期の降雨に恵まれ、史上最高の 2,320 万ヘクタールの作付面積となったことから、生産量は前年度よりは 2 % 下回るものの、過去 10 年平均を 32 % 上回る 5,480 万トンが見込まれている。

特に小麦は、前年度比 2 % 減ながら、過去 10 年平均を 35 % 上回る 3,260 万トンとなっている。大麦は、前年度比 5 % 減ながら 過去 10 年平均を 28 % 上回る 1,250 万トンとなっている。また、菜種は前年度比 11 % 増で史上最高の 500 万トンが見込まれている。

州別には、西オーストラリア (WA) 州では、9 月の降雨不足はあるものの、小麦の生産量が 1,150 万トン、菜種の生産量が 240 万トンとなるなど、冬作物全体で前年度比 20 % 増の史上最高の 2,030 万トンが見込まれている。ニューサウスウェールズ (NSW) 州では、過去最高の前年度には及ばないものの、小麦の生産量が過去 10 年平均を 65 % 上回る 1,110 万トンとなる等、豊作の見通しとなっている。11 月以降、冬作物は収穫期を迎えるとみられる。

一方、2021/22 年度のコメやソルガム等の夏作物は、今後、作付期を迎えるが、降雨に恵まれ、灌漑用水の割当ての増加等から作付面積は前年度より増加すると見込まれている。コメの生産量は、対前年度比 44 % 増の 66 万トン (もみベース)、ソルガムの生産量は同 15 % 増の 170 万トンが見込まれている。

図1 豪州の小麦 (上)、菜種 (下) の州別生産量の推移



資料: ABARES「Crop Report」(2021. 9)

WA: 西オーストラリア、NSW: ニューサウスウェールズ

QLD: クイーンズランド、VIC: ビクトリア、

SA: 南オーストラリア、TA: タスマニア

(2) 輸出動向

小麦や菜種などの冬作物は、2年連続の豊作が見込まれていることから、輸出量も高水準が見込まれている。米国農務省（USDA）の9月の穀物等需給報告によれば、2021/22年度の輸出量について、小麦は前年度並みの2,300万トン、大麦は前年度比3%減の700万トンと2年連続の高水準を維持し、菜種は前年度比31%増の400万トンの見込みである。

輸出量の増加に伴い、以前の2年連続の不作の際にロシアやウクライナに奪われた東南アジア市場でのシェア回復に加え、ロシア等の輸出規制により他の輸出先へも市場を拡大するとみられる。

2 カナダの生産・輸出動向

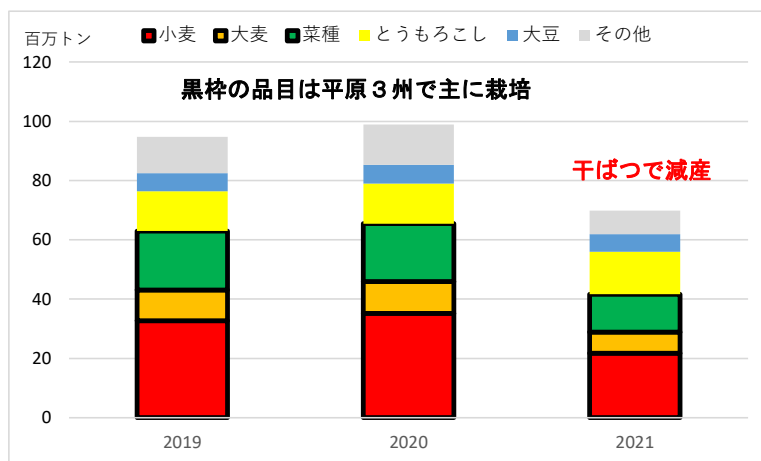
(1) 生産動向

カナダ統計局が9月14日に公表した「Model-based principal field crop estimates, August 2021」によれば、カナダ西部の7月の深刻な干ばつにより、2021/22年度の穀物等の生産量は、西部のプレーリーと言われる平原三州（アルバータ州、サスカチュワン州、マニトバ州）で栽培されている小麦や菜種などを中心に大幅な減産が見込まれている。

特に小麦は、前年度比38%減の2,170万トン、うち、春小麦は、同41%減の1,530万トン、デュラム小麦は同46%減の350万トンとなっている。大麦は、前年度比34%減の710万トンであり、菜種は同34%減の1,280万トンと2010/11年度以来の低水準となっている。

一方、オンタリオ州やケベック州などカナダ東部では、西部と異なり生育期に降雨があった。そのため、東部で主に栽培されている大豆は、前年度比7%減の590万トンとなるも、とうもろこしは1,440万トンと前年度より6%増産が見込まれている。

図2 カナダの穀物等生産量の推移



資料：カナダ統計局「Model-based principal field crop estimates」(2021.9)

(2) 輸出動向

米国農務省（USDA）の9月の穀物等需給報告によれば、2021/22年度の小麦や菜種の輸出量については、干ばつによる減産に伴い、小麦は前年度比36%減の170万トン、菜種は前年度比45%減の580万トンの見込みである。

一方、大豆については、カナダ東部が主産地であることから減産度合が小麦や菜種と比べ小さいため、同年度の輸出量は400万トンと前年度比12%減にとどまると見込まれている。

3 我が国の穀物輸入への影響

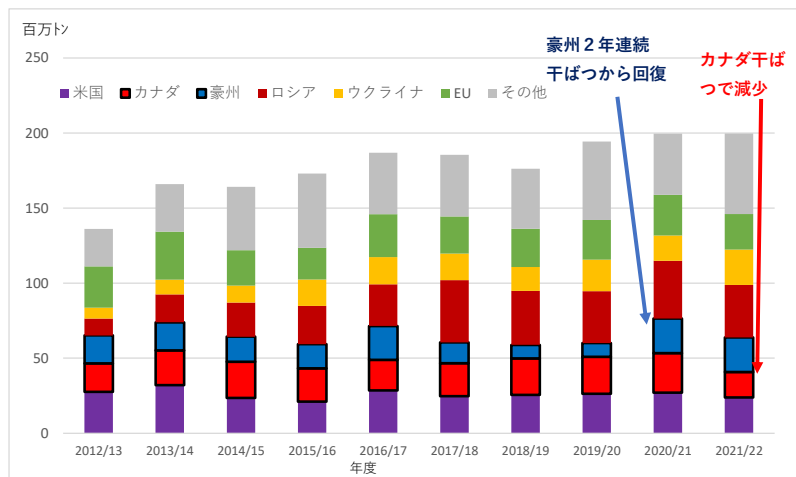
カナダの小麦、菜種の減産に関し、特にカナダの輸出シェアの高いデュラム小麦や菜種については、国際需給に影響を与える見通しである。デュラム小麦に関しては、EUの増産見通しにより緩和されるものの、米国の減産も加わり、需給はタイトになる見通しである。小麦全体でも、豪州やウクライナの豊作により緩和されるものの、カナダの減産は、高品質小麦を中心に世界の需給に影響を与えるとみられる。

また、カナダの輸出シェアが世界貿易の6割を占めている菜種については、豪州の豊作により一部は緩和されるものの、需給がタイトとなる見通しである。

ここ数か月、中国の小麦や大豆の輸入に関し、高水準ではあるものの、前年同月を下回っており、落ち着いた動きを見せている。しかし、小麦の輸入については、高品質のカナダ産、豪州産、米国産の輸入量が増加しており、特に7月は豪州産の輸入が増加した。

このようなことから、小麦や菜種、大麦等に関し、豊作見通しの豪州産への需要が高まることが予想される。特に、我が国の輸入に関して言えば、豪州の輸出可能数量や、輸出港の取扱能力にも限度があることから、穀物輸入船のスロット枠の確保が困難となり、輸送コストの上昇や、積出しの遅延など支障が出るとみられる。豪州が見通し通り豊作となっても、我が国の穀物の手当てが厳しくなり、輸入価格が上昇するなどの影響を与える可能性をはらんでいる。

図3 世界の小麦の国別輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2021.9)を農林水産省で加工

図4 中国の最近2年の主要国別小麦輸入量(2021年は7月まで)

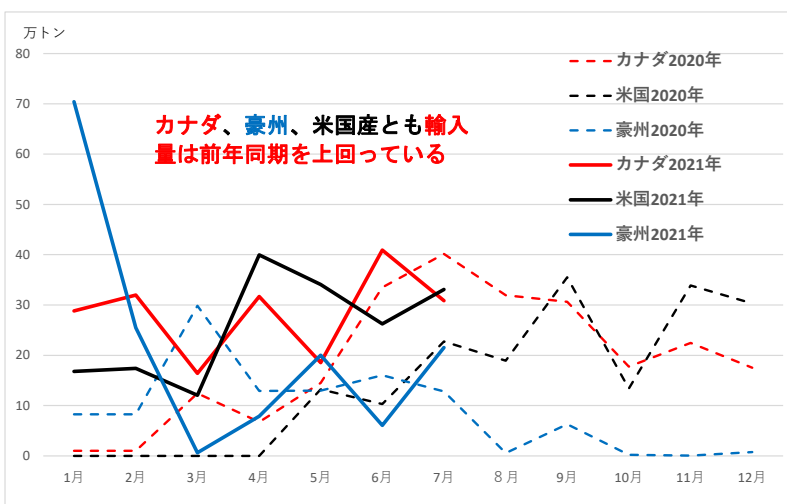
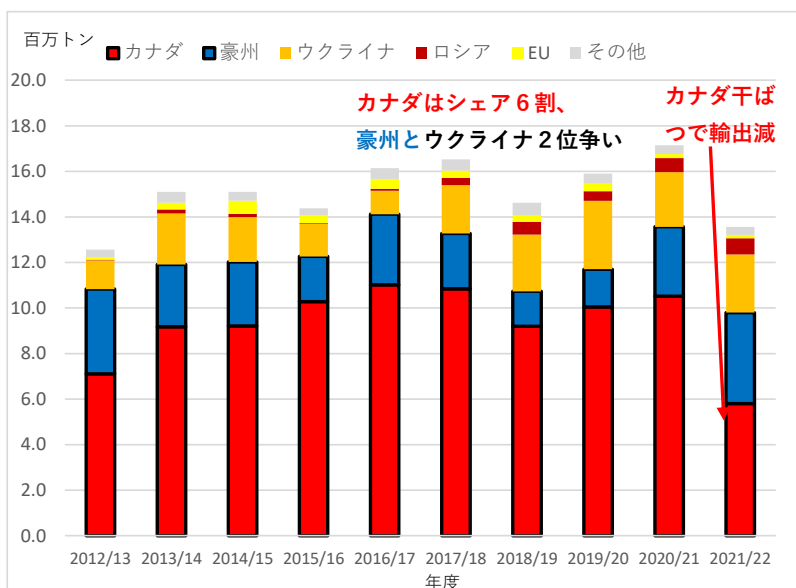


図5 世界の菜種の国別輸出量の推移

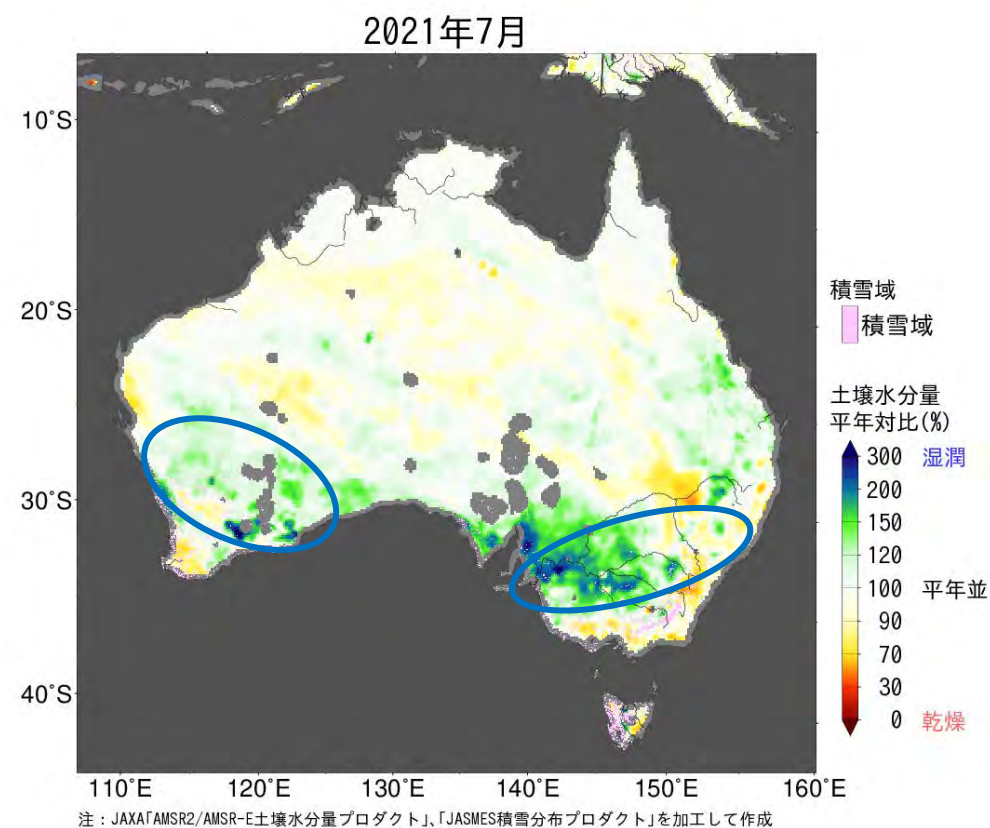
資料：中国海関統計



資料：USDA「PS&D」(2021.9)を農林水産省で加工

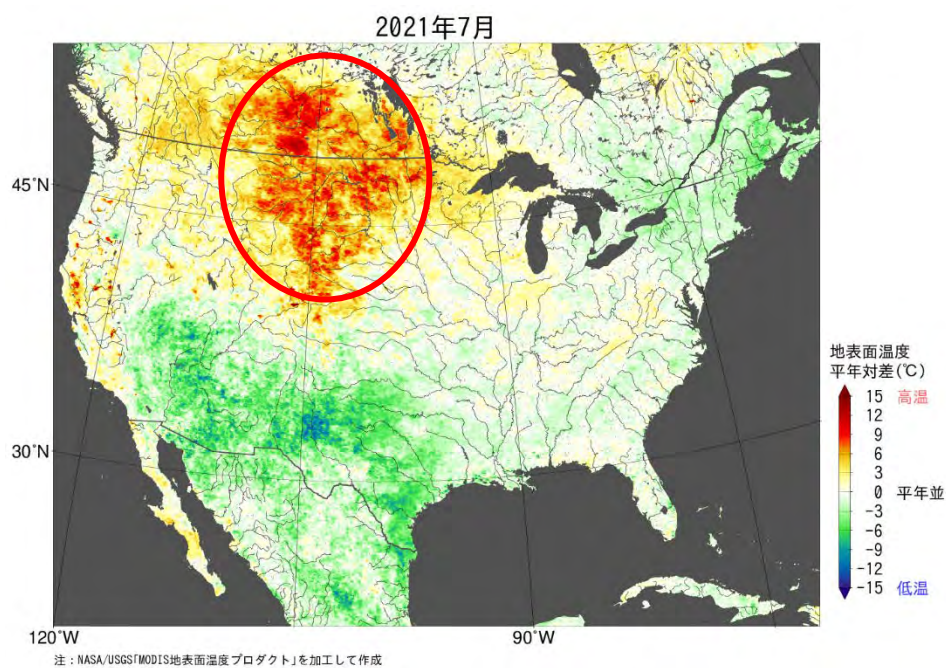
図6 (1) JASMAI **豪州の土壌水分量**平年対比 (2021 年 7 月)

穀物主産地 (青丸) の土壌水分量は平年並またはそれ以上となった。



(2) JASMAI **北米の地表面温度**平年対差 (2021 年 7 月)

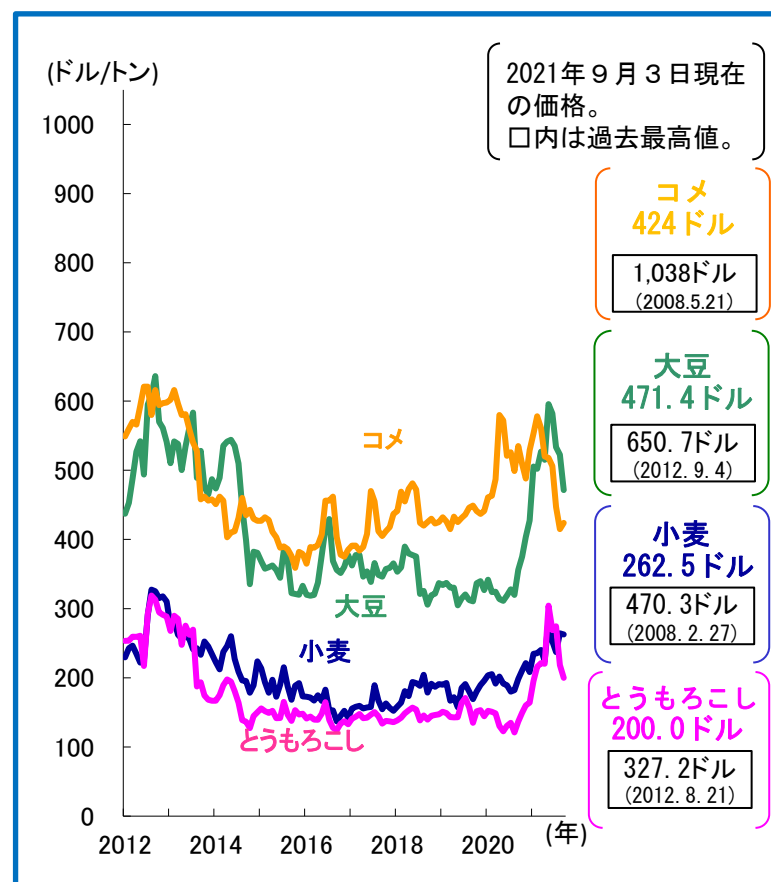
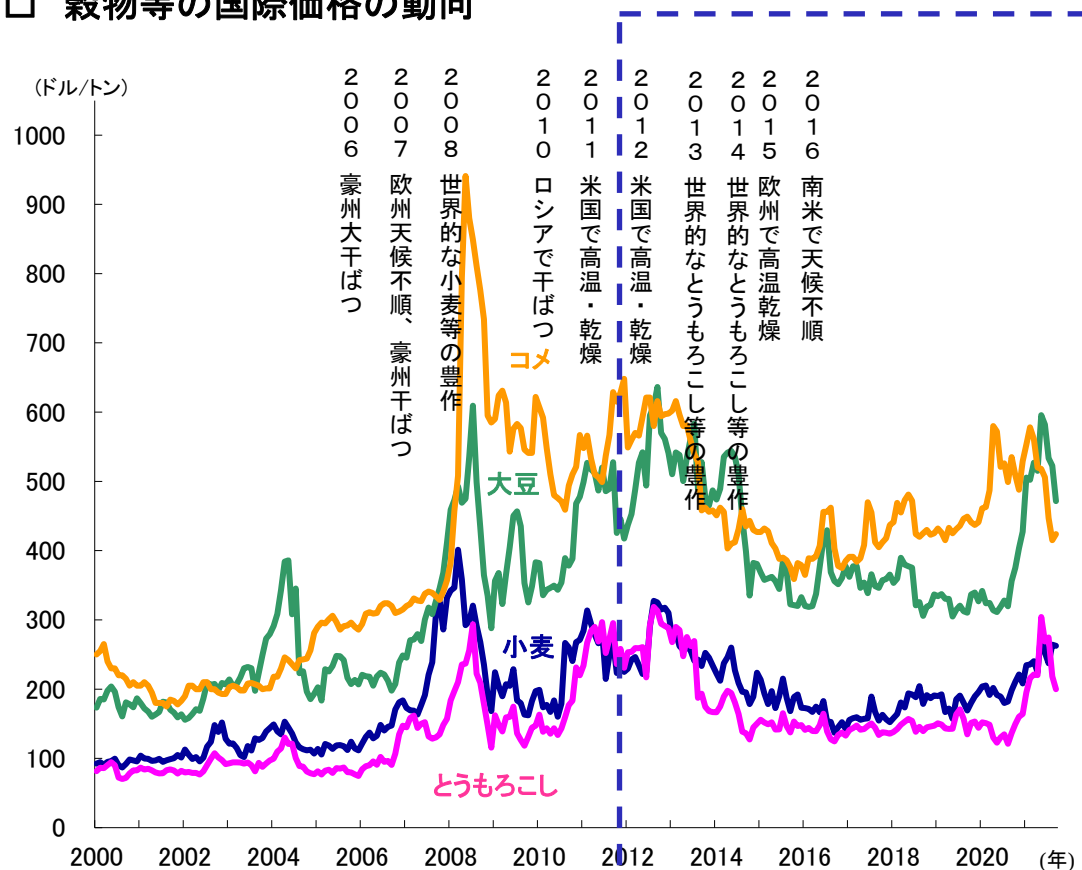
米国北部からカナダ西部 (赤丸) にかけて平年より 10℃を超える高温となった。



資料 1 穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

- とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2017年以降ほぼ横ばいで推移も、2020年後半から南米の乾燥懸念、中国の輸入需要の増加等により、大豆、とうもろこしを中心に上昇。コメは、2013年以降低下も2020年ベトナムの輸出枠設定や2021年初頭のコンテナ不足等で一時的に上昇。2021年2月半ばから海外需要低迷で低下。
- なお、穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要により、2008年以前を上回る水準で推移している。

□ 穀物等の国際価格の動向



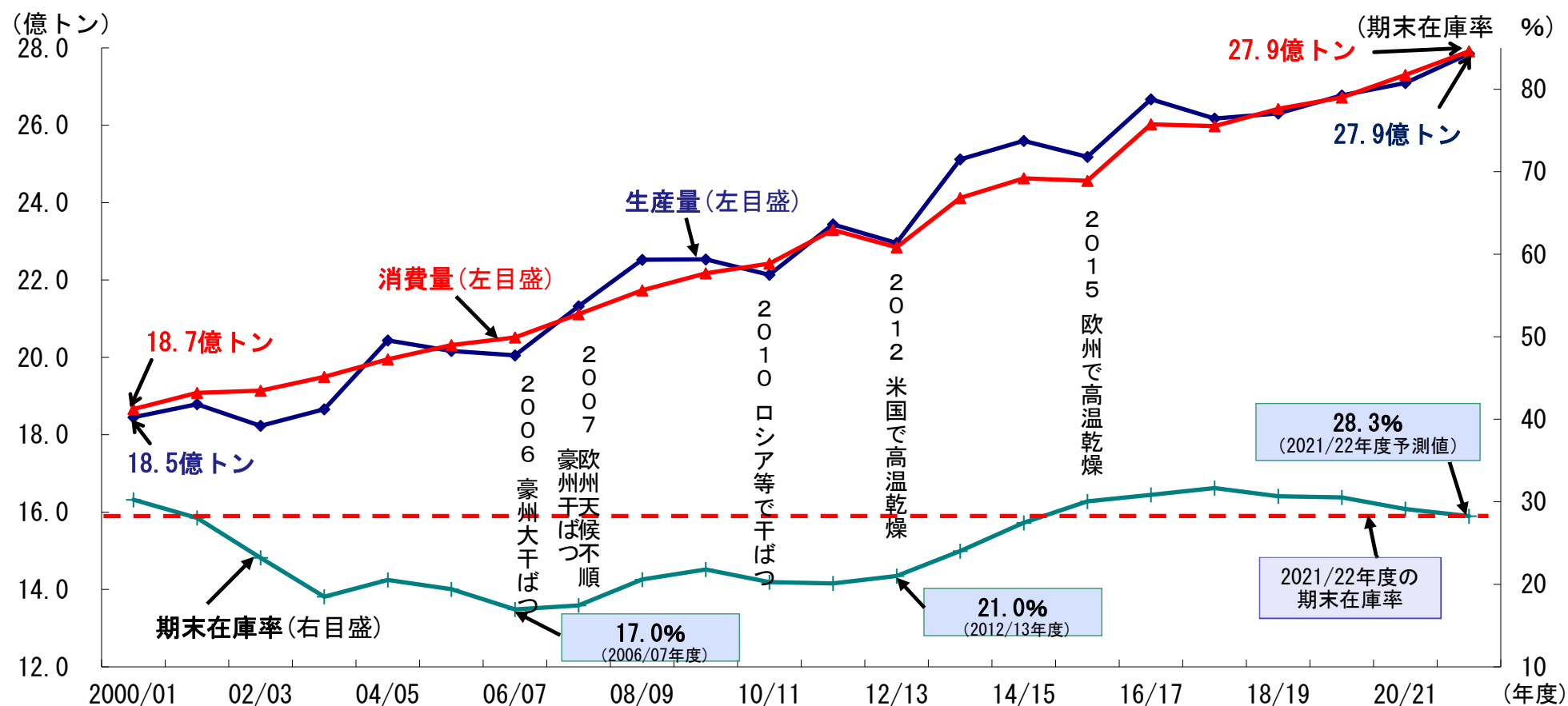
注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格（セツルメント）である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2021/22年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2021/22年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回り、前年度より低下し、28.3%。直近の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移

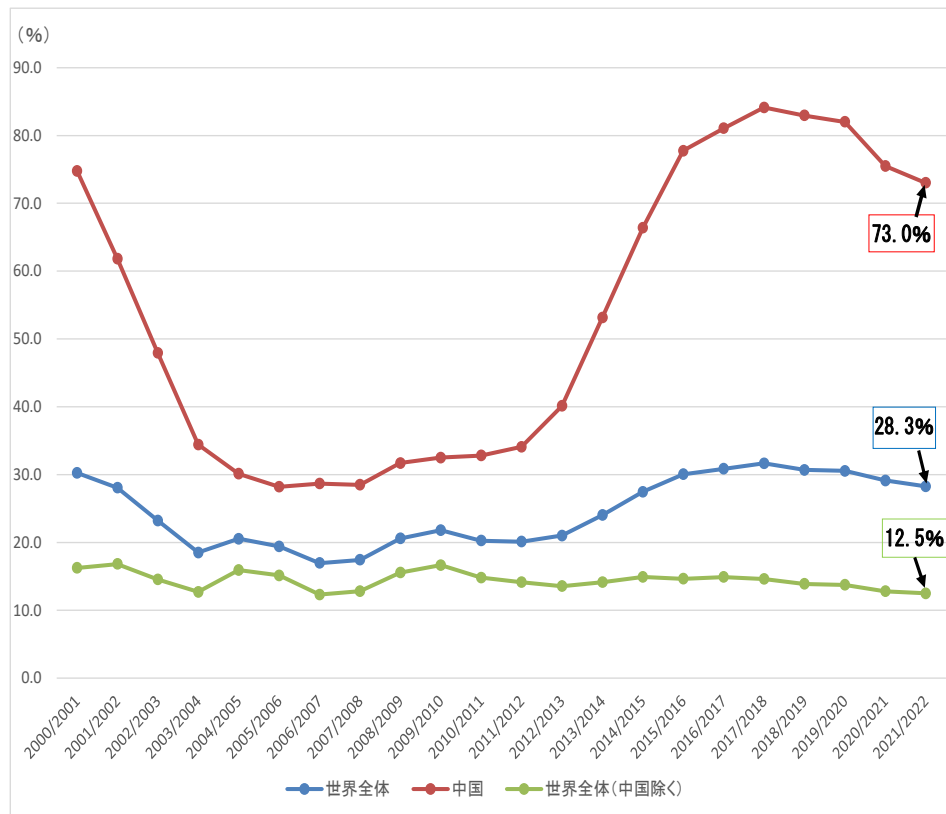


資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(September 2021)、「PS&D」

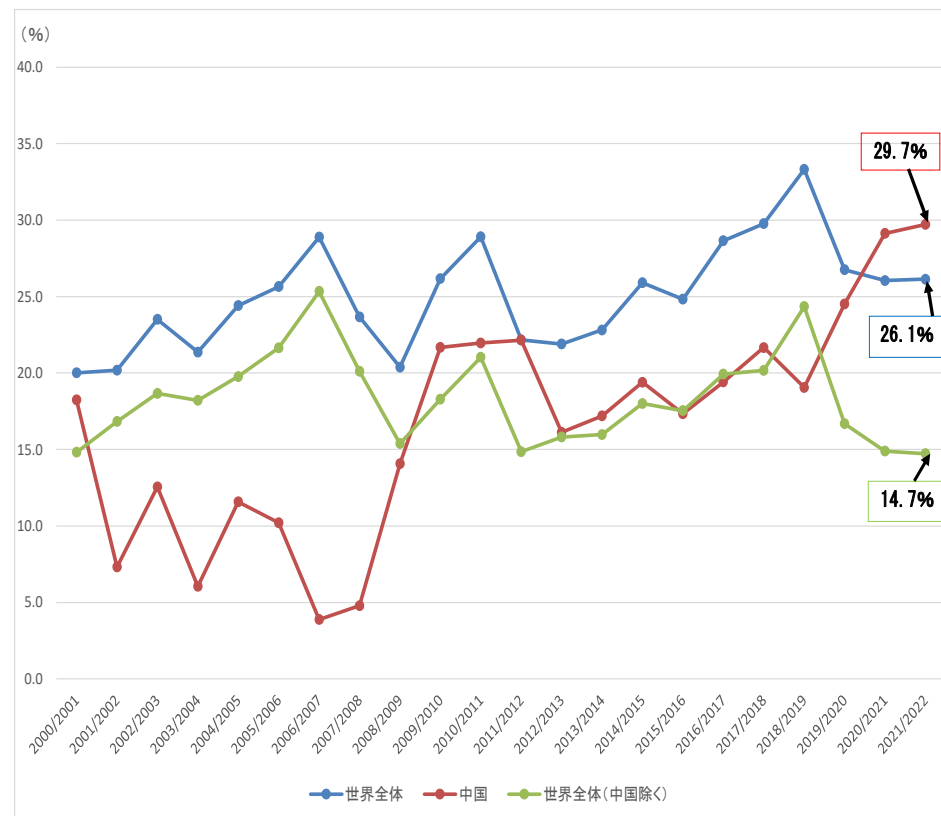
(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料：米国農務省「PS&D」(September 10, 2021)

注：1) 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。

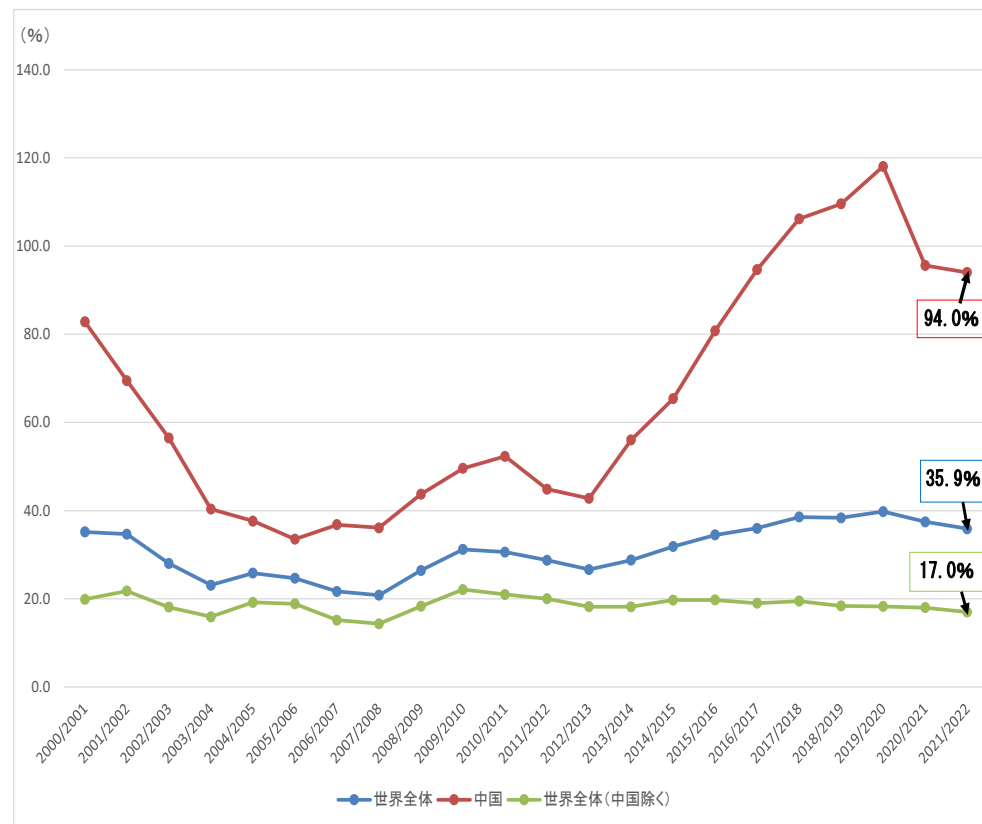
2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / 消費量 × 100

3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

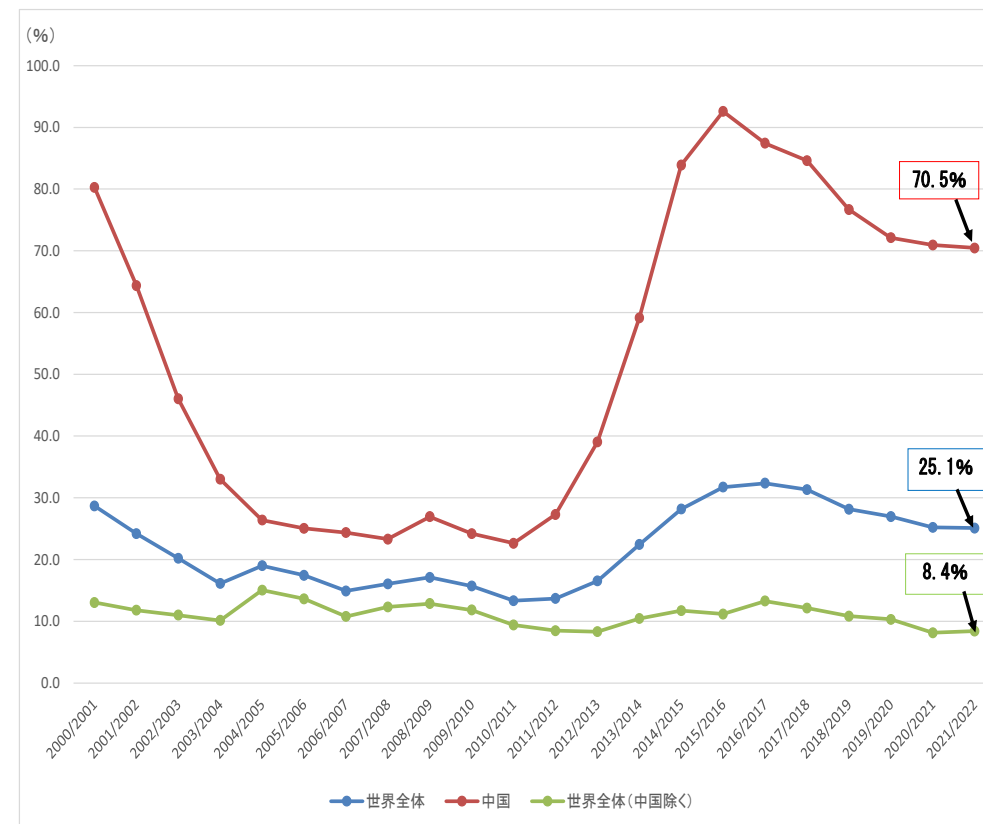
4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(September 10, 2021)

注: 1)小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

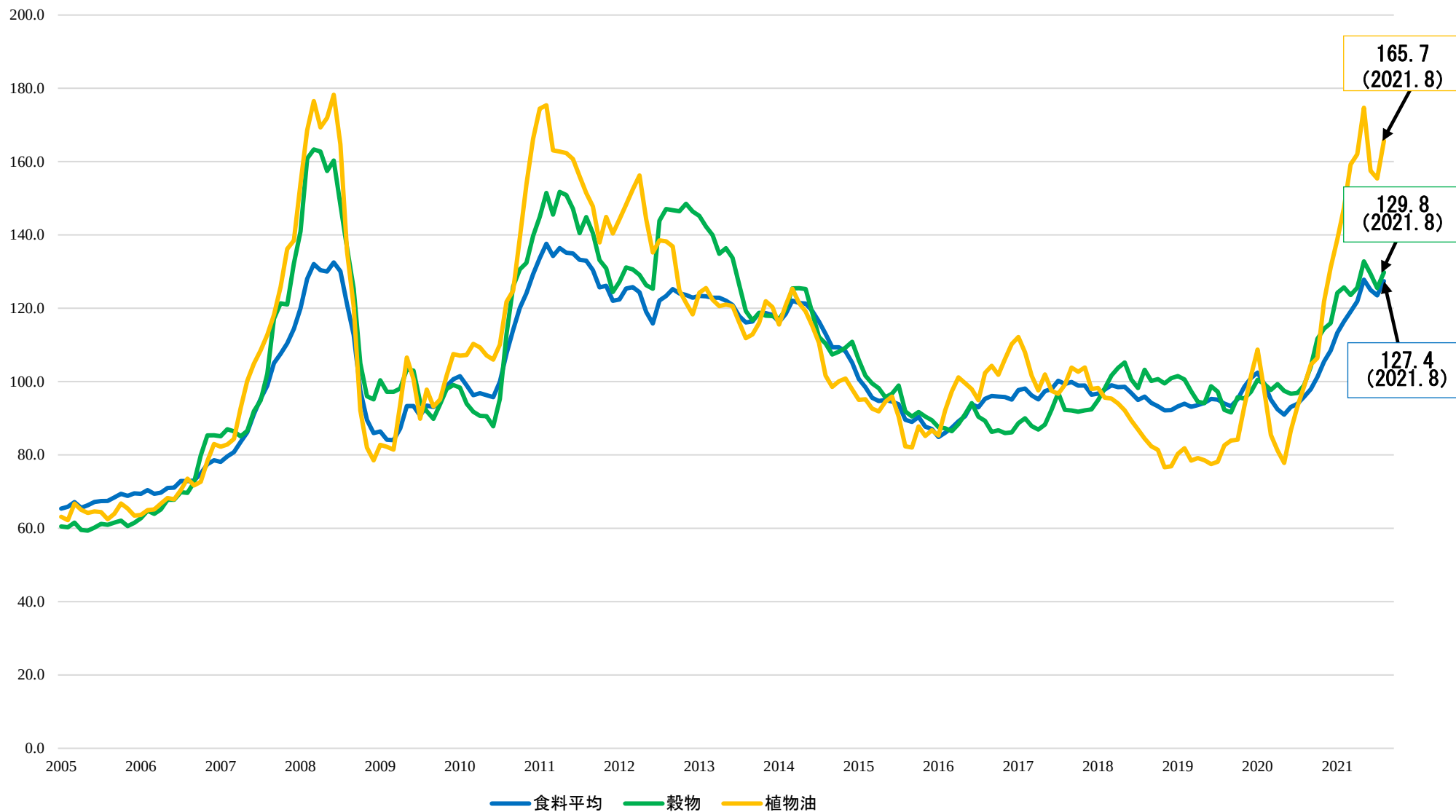
2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100

3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100

4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

資料 4 FAO食料価格指数

(2014-16平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2021.08)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

資料5 食品小売価格の動向

○ 国内の加工食品の小売価格については大きな値動きはなし。

消費者物価指数（総務省） （令和3年3月～令和3年8月）

	H28	H29	H30	H31 (R元)	R2	R3						
品目	平均	平均	平均	平均	平均	3月	4月	5月	6月	7月	8月	上昇率 (前年 同月比)
食パン	99.9	99.6	100.2	101.1	100.0	98.7	99.2	98.3	99.0	99.3	99.4	-0.2%
即席めん	96.2	95.7	95.3	98.5	100.0	100.1	101.1	99.7	99.0	100.4	100.2	0.9%
豆腐	98.1	98.6	98.8	99.1	100.0	100.9	100.9	101.0	100.8	101.0	100.8	0.8%
食用油 (キャノーラ油)	106.3	102.7	101.5	100.9	100.0	98.1	98.7	99.4	102.3	103.9	107.9	8.6%
みそ	97.1	96.9	97.4	99.1	100.0	100.1	99.9	100.0	98.6	99.5	98.9	-1.4%
チーズ	97.7	97.3	100.9	101.3	100.0	99.5	100.3	97.9	96.5	98.7	100.6	0.0%
バター	99.0	99.3	99.5	99.9	100.0	99.8	99.8	99.9	99.9	99.9	99.8	-0.5%
マヨネーズ	103.8	102.3	100.8	100.7	100.0	100.5	99.7	100.6	100.0	108.6	110.2	11.3%
生鮮食品を 除く食料	96.1	97.0	97.9	99.0	100.0	99.9	99.8	100.0	100.0	100.1	100.1	0.3%

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

【参考】

食品価格動向調査（農林水産省） （令和3年3月～令和3年9月）

	H28	H29	H30	H31 (R元)	R2	R3								
品目	平均	平均	平均	平均	平均	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)
食パン	99.0	97.6	97.9	101.3	100.0	99.7	98.6	98.0	98.4	97.8	97.5	98.8	1.3%	-0.9%
即席めん	92.8	92.6	92.4	97.9	100.0	99.6	99.6	99.6	99.6	99.0	99.0	99.0	0.0%	-0.6%
豆腐	102.2	100.8	100.1	100.9	100.0	99.0	98.5	99.4	100.3	100.3	101.1	105.0	3.9%	6.1%
食用油 (キャノーラ油)	99.6	97.9	97.9	103.5	100.0	96.9	98.8	98.2	100.1	100.7	106.1	109.0	2.7%	9.9%
みそ	90.3	91.9	96.6	100.4	100.0	99.4	98.4	99.4	99.8	98.1	99.0	102.7	3.7%	3.1%
チーズ	95.5	95.2	98.6	100.9	100.0	100.0	99.1	98.6	93.1	99.5	99.1	103.0	3.9%	2.0%
バター	98.2	98.8	99.0	99.5	100.0	100.2	99.7	99.5	99.7	99.5	99.5	99.5	0.0%	-0.7%
マヨネーズ	99.9	99.1	97.9	103.1	100.0	98.7	97.7	97.7	99.0	104.5	105.9	106.6	0.7%	8.4%

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

注2: 調査は原則、各都道府県10店舗で実施。平成30年9月までは週1回、同年10月以降は月1回実施。

注3: 調査結果は調査期間中の平均値で算出。

注4: 令和2年4～5月、令和3年1～3月、同5～9月については、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の対象都道府県においては調査を中止。そのためそれぞれ前月の値とは接続しない。

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2021/22 年度

生産量 前年度比 前月比

・カナダ等で下方修正も、豪州、中国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

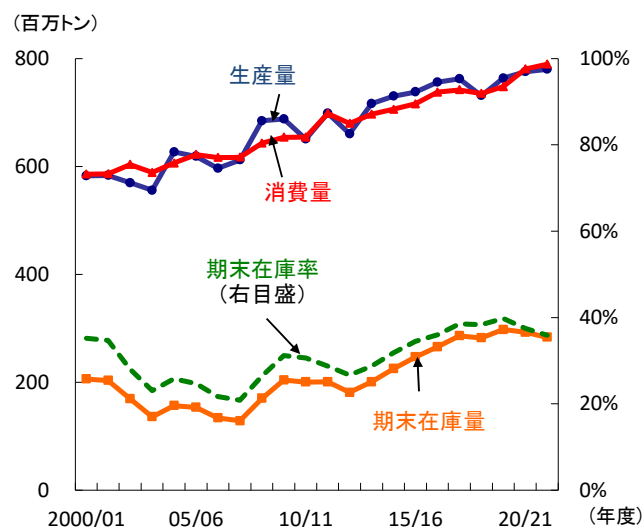
消費量 前年度比 前月比

・中国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

・カナダ等で下方修正も、豪州等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料:USDA「PS&D」(2021. 9. 10) をもとに農林水産省で作成

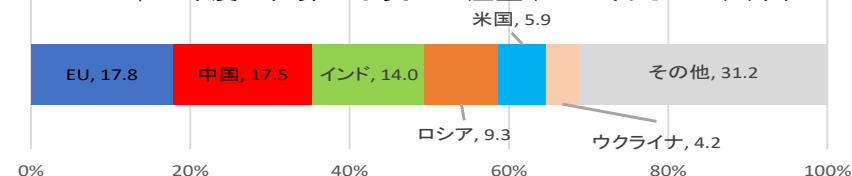
◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

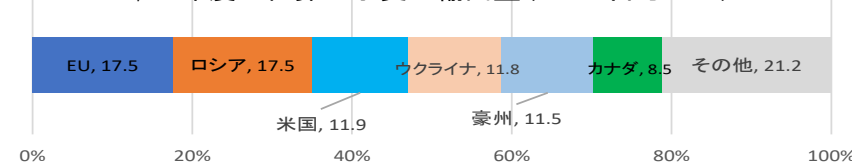
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	763.6	775.8	780.3	3.4	0.6
消 費 量	748.0	780.9	789.6	3.0	1.1
うち飼料用	139.0	157.6	159.2	1.8	1.0
輸 出 量	194.3	199.6	199.7	1.5	0.1
輸 入 量	187.4	194.5	197.1	0.6	1.3
期末在庫量	297.6	292.6	283.2	4.2	▲ 3.2
期末在庫率	39.8%	37.5%	35.9%	0.4	▲ 1.6

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 September 2021)

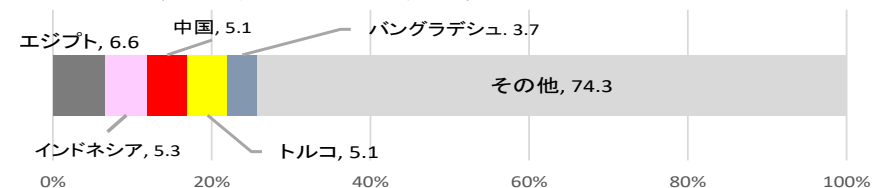
○ 2021/22年度の世界の小麦の生産量(780.3百万トン)(単位: %)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸出量(199.7百万トン)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸入量(197.1百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 > 2021/22 年度の収穫はほぼ終了、2022/23 年度の作付けが開始。

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度に比べ 7.1 %減の 46.2 百万トン。

同「Crop Production」(2021.9.10)によれば、前年度に比べ単収が上昇し、収穫面積が増加することから、冬小麦の生産量予測は前年度(31.9 百万トン)を 13%上回る 35.9 百万トン。また、前年度に比べ単収が低下し、収穫面積も減少することから、春小麦、デュラム小麦の生産量予測は、それぞれ、前年度(1.9 百万トン)を 50%下回る 0.9 百万トン、前年度(15.9 百万トン)を 41%下回る 9.3 百万トンとなる見込み。

同「Crop Progress」(2021.9.6～9.20)によれば、冬小麦の収穫は、8月上旬でほぼ終了し、春小麦の収穫は、8月5日時点で、収穫進捗率(主要生産6州)が90%に達し終盤となり、9月上旬にはほぼ終了した。一方、9月上旬には、2022/23年度の冬小麦の播種が開始され、9月19日時点の播種進捗率は、21%と前年度(19%)、5年平均(18%)を上回っている。また、同日時点の発芽進捗率は、3%(前年度3%、5年平均2%)。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、前月予測に比べ、食用等が 0.1 百万トン上方修正され 32.3 百万トン。ハード・レッド・ウインター(HRW)が増加する一方で、新型コロナ感染拡大時にパスタ用として需要が高まったデュラム小麦は、低調な輸入ペースと高価格から減少し、例年の需要水準に戻る見込み。

同年度の輸入量は、前月予測に比べ 0.3 百万トン下方修正され 3.7 百万トンの見込み。品種別には、ハード・レッド・スプリング(HRS)とデュラム小麦が前月に比べ減少した。HRS 及びデュラム小麦は、主産地である大平原北部地域の干ばつにより生産量が減少し価格が上昇したものの、主要輸入先国であるカナダでも干ばつにより生産量が減少したことから、6月及び7月の同国からの輸入が限定された。

同年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、23.8 百万トン。8月の輸出先国は、メキシコ(15.8%)、フィリピン(14.7%)、中国(12.8%)、日本(11.6%)の順。

小麦－米国(冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	52.6	49.7	46.2	-	▲ 7.1
消費量	30.4	30.5	32.3	0.1	6.0
うち飼料用	2.6	2.7	4.4	-	64.2
輸 出 量	26.4	27.0	23.8	-	▲ 11.8
輸 入 量	2.8	2.7	3.7	▲ 0.3	38.5
期末在庫量	28.0	23.0	16.7	▲ 0.3	▲ 27.2
期末在庫率	49.3%	40.0%	29.8%	▲ 0.6	▲ 10.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	15.13	14.87	15.42	-	3.7
単収(t/ha)	3.47	3.34	2.99	-	▲ 10.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(10 September 2021)

表 米国の種類別小麦の生産量、収穫面積、単収(2021/22年度、2020/21年度)

	生産量(百万トン)		前年度比 (%)	収穫面積(百万ha)		前年度比 (%)	単収(t/ha)		前年度比 (%)
	2021/22年度	2020/21年度		2020/21年度	2021/22年度		2021/22年度	2020/21年度	
冬小麦	35.9	31.9	12.6	10.30	9.32	10.5	3.49	3.42	1.9
デュラム小麦	0.9	1.9	-49.6	0.58	0.67	-13.1	1.61	2.78	-42.0
春小麦	9.3	15.9	-41.4	4.54	4.88	-7.0	2.06	3.27	-37.0
合 計	46.2	49.7	-7.1	15.4	14.9	3.7	2.99	3.34	-10.4

資料: USDA「Crop Production」(2021.9.10)をもとに農林水産省で作成

表 米国の小麦輸出先国別輸出量(輸出検証高)

(万トン)

2021年8月			2021年1月～8月			2020年1月～12月		
国名	検証高	シェア(%)	国名	累積検証高	シェア(%)	国名	累積検証高	シェア(%)
メキシコ	32.2	15.8	メキシコ	269.1	15.7	フィリピン	329.8	13.0
フィリピン	30.1	14.7	フィリピン	214.5	12.5	メキシコ	287.3	11.3
中国	26.1	12.8	中国	199.3	11.6	日本	255.6	10.1
日本	23.6	11.6	日本	167.2	9.8	中国	210.3	8.3
韓国	11.5	5.6	韓国	138.5	8.1	韓国	140.2	5.5
その他	69.4	34.0	その他	725.2	42.3	その他	1,311.9	51.7
合計	204.2	100.0	合計	1713.8	100.0	合計	2,535.2	100.0

注1. 8月の輸出検証高は、8月12、19、26、9月2日の合計値

注2. 2021年累積輸出検証高は、2021年1月7日～9月2日の合計

注3. 2020年の累積輸出検証高は、2020年1月2日～12月31日の合計

資料: USDA Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals (2021年9月11日)より作成。

＜ カナダ ＞ 平原三州の干ばつ天候で生産量は減産見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、主要産地の平原三州で干ばつにより単収が低下することから、2021/22年度の生産量は、前月予測から1.0百万トン下方修正され、23.0百万トンと前年度に比べ34.6%減少し、2008/09年度以降最低となる見込み。

平原三州では、8月の降雨で春小麦の収穫が遅延した。この降雨は今年度の春小麦の品質の低下に繋がる可能性があるものの、来年度に向けて土壌水分量の補充となった。

カナダ統計局「Model-based Production of principal field crops, August 2021」(2021.9.14)によれば、2021/22年度は、とうもろこしに作付がシフトし小麦の収穫面積が減少し、加えて、降雨不足、高温天候による土壌水分の低下が単収に大きな影響を与えた。このため、単収は前年度に比べ32.6%減少の2.37トン/ヘクタール、収穫面積は同8.5%減少の9.19百万ヘクタール、生産量は同34.8%減少の21.7百万トンの見込み。

各州政府の報告によれば、アルバータ州では、9月10日時点の春小麦の収穫進捗率が54%(前年度14%)。品質は、地域によって異なるものの、春小麦、デュラム小麦とも平均を下回っている。なお、8月上旬からの降雨で土壌水分は改善した。サスカチュワン州では、生長に重要な段階での干ばつが単収を大きく減少させた。6日時点で単収は、前年度に比べ春小麦で45%、デュラム小麦で54%低下する見込み。また、9月上旬までの降雨により一部地域で収穫が遅れたものの、16日時点の収穫進捗率は、冬小麦は100%、春小麦は83%(前年度55%)、デュラム小麦は89%である。なお、土壌水分量は降雨があったが、不十分な状況である。マニトバ州では、14日時点で、春小麦の収穫進捗率は90%(前年度82%)である。また、8月上旬までの降雨で、土壌水分量は改善した。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、干ばつによる生産減から、前月に比べ0.5百万トン下方修正され、2012/13年度以降最低の17.0百万トン。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2020/21年度の輸出量総計は、普通小麦が19.6百万トンで、中国(15.6%)、インドネシア(11.6%)、デュラム小麦は6.1百万トンで、イタリア(24.6%)、アルジェリア(19.6%)の順。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	32.7	35.2	23.0 (20.2)	▲ 1.0	▲ 34.6
消 費 量	9.3	9.1	8.0 (8.6)	-	▲ 12.3
うち飼料用	4.2	3.9	2.8 (4.5)	-	▲ 28.6
輸 出 量	24.6	26.4	17.0 (14.1)	▲ 0.5	▲ 35.7
輸 入 量	0.7	0.6	0.7 (0.2)	-	25.0
期末在庫量	5.5	5.7	4.4 (2.6)	1.4	▲ 22.8
期末在庫率	16.2%	16.1%	17.6% (11.4%)	5.8	1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.66	10.02	9.20 (8.80)	-	▲ 8.2
単収(t/ha)	3.38	3.51	2.50 (2.29)	▲ 0.11	▲ 28.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(20 August 2021)

表 カナダ産普通小麦及びデュラム小麦の輸出先国(輸出検証高、シェア)
2021年7月及び2020/21年度(2020年8月～2021年7月)の8月～7月

(普通小麦)

	2021年7月			2020年8月～2021年7月		
	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
1	中国	20.5	17.6	中国	306.9	15.6
2	コロンビア	19.8	17.0	インドネシア	223.2	11.4
3	ペルー	14.0	12.1	ペルー	177.2	9.0
4	日本	13.2	11.3	日本	163.4	8.3
5	インドネシア	9.4	8.0	コロンビア	159.1	8.1
6	その他	39.6	34.0	その他	933.1	47.5
計		116.4	100.0	計	1962.9	100.0

(デュラム小麦)

	2021年7月			2020年8月～2021年7月		
	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
1	アルジェリア	22.7	51.3	イタリア	149.0	24.6
2	米国	6.6	14.8	アルジェリア	118.8	19.6
3	モロッコ	3.8	8.5	モロッコ	110.5	18.2
4	トルコ	3.1	7.0	チュニジア	33.8	5.6
5	イタリア	2.4	5.5	ベルギー	30.4	5.0
6	その他	5.7	12.9	その他	163.3	27.0
計		44.2	100.0	計	605.8	100.0

注1: Canadian Grain Commissionが認可したエレベーターから輸出された小麦(Licensed)のみのデータ。

注2 普通小麦の品種はNO.1-3 Canada Western Red Spring No.1 Canada Western Red Winter

No.2 Canada Eastern Red Spring No.2 Canada Eastern Oter, デュラムはCanada Western Amber Durum Others

資料: Canadian Grain Commission「Export of Canadian Grain and Wheat Flour」をもとに作成。

< 豪州 > 生産量は史上第3位の豊作

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、収穫面積が減少するものの、単収が上昇することから、前月予測から1.5百万トン上方修正され、31.5百万トンと前年度に比べ4.5%減少するものの、史上第3位の豊作となる見込み。

豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian Crop Report(2021.9.7)」によれば、2021/22年度の生産量は、史上最高の前年度に比べ2%減少も、5年平均(23.6百万トン)を上回る32.6百万トン。作付面積が1%増加したものの、単収が3%減少した。

主要生産州別では、西オーストラリア州(WA州)では、単収が史上最高の2.35トン/ヘクタール、作付面積が前年度に比べ3%増加して4.9百万ヘクタールと10年平均を5%上回り、生産量は前年度に比べ21%増加し11.5百万トンとなる見込み。ニューサウスウェールズ州(NSW州)では、単収と作付面積の減少から、生産量は史上最高の前年度を15%下回り11.1百万トンとなる見込み。単収は、3.0トン/ヘクタールに低下するものの、10年平均を46%上回り、作付面積は菜種等へのシフトから、前年度に比べ3%減少の3.7百万ヘクタールとなるものの、10年平均を19%上回っている。

豪州では、作付時から、豊富な降雨量で生育は順調に進んだが、6月、7月は、殆どの生産地で平均から平均を上回る降雨に恵まれ、土壌水分が十分となり、生長が促された。8月は、ニューサウスウェールズ州(NSW州)の一部を除き、降雨量の減少と暖かな天候から土壌水分が低下した。

【貿易情報・その他】ABARESによれば、2021/22年度の輸出量予測は23.0百万トンと、高輸出量となった前年度を3%下回るものの、10年平均を37%上回る見込み。カナダ、米国の高タンパク小麦の減産のため、同国等と競合する豪州産は価格競争力が上昇し需要を伸ばすと見られている。豪州統計局によれば、2021年7月の輸出量は1.9百万トンと5月の2.8万トンを下回った。輸出先国は、インドネシア(34.4%)、中国(13.5%)、ベトナム(7.7%)の順。USDAによれば、ロシアの輸出税賦課や小麦価格の高騰等から、小麦輸入が増加しているバングラデシュ向け豪州産の輸出が増加すると見られている。

小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

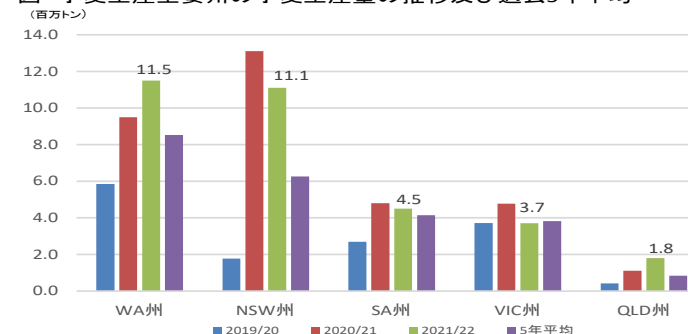
(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	14.5	33.0	31.5	(30.1)	1.5	▲ 4.5
消費量	8.0	8.5	8.2	(8.7)	0.2	▲ 3.5
うち飼料用	4.5	5.0	4.7	(5.0)	0.2	▲ 6.0
輸 出 量	9.1	23.0	23.0	(21.7)	1.0	-
輸 入 量	0.9	0.2	0.2	(0.4)	-	-
期末在庫量	2.7	4.4	4.9	(4.5)	0.3	11.4
期末在庫率	15.6%	13.9%	15.6%	(14.9%)	0.4	1.7
(参考)						
収穫面積(百万ha)※	9.86	13.00	13.10	(13.1)	▲ 0.10	0.8
単収(t/ha)	1.47	2.54	2.40	(2.30)	0.13	▲ 5.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)

IGC 「Grain Market Report」(26 August 2021)

図 小麦生産主要州の小麦生産量の推移及び過去5年平均



資料: 豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Crop Report」(2021.9.7)をもとに農林水産省で作成

表 豪州の小麦輸出先国別輸出量

(万トン)

2021年7月			2021年1月～7月		
国名	輸出量	シェア(%)	国名	累積輸出量	シェア(%)
インドネシア	67.2	34.4	インドネシア	392.8	23.1
中国	26.4	13.5	ベトナム	206.8	12.1
ベトナム	15.0	7.7	フィリピン	126.1	7.4
フィリピン	14.6	7.5	中国	109.4	6.4
イエメン	10.8	5.5	タイ	85.7	5.0
その他	61.5	31.5	その他	782.0	45.9
合計	195.5	100.0	合計	1,702.8	100.0

資料: 豪州統計局のデータをもとに農林水産省で加工

< EU > フランスで収穫はほぼ終了。普通小麦の品質は良好。

【生育・生産状況】EU 委員会「EU Cereals Production Area and Yield」(2021.8.26)によれば、2021/22 年度の EU27 ヶ国の生産量は、前月予測から 0.3 百万トン下方修正され、136.2 百万トン。農業市場情報システム (AMIS)「Market Database Supply and Demand Overview」(2021.9.3)によれば、英国の同年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 14.9 百万トン。EU27 ヶ国と英国の合計生産量は 151.6 百万トンの見込み。

EU 委員会の品種別の生産量は、普通小麦が前月に比べ 0.5 百万トン下方修正され、128.2 百万トンと前年度を 8.5%上回る見込み。国別には、ドイツ、ラトビア等で下方修正されたものの、フランス等で上方修正された。

一方、デュラム小麦は、前月に比べ 0.3 百万トン上方修正され 8.0 百万トンと同 10.7%上回る見込み。国別にはイタリア、フランス等で上方修正された。カナダ、米国でパスタ原料であるデュラム小麦は減産の一方で、新型コロナウイルス感染による巣ごもり需要でパスタ需要が増加した。そのため、パスタ原料のデュラム小麦を輸入しているパスタ主要生産国のイタリア等では、デュラム小麦の需給がひっ迫している。

「FranceAgriMer」(2021.8.13)によれば、収穫は、8 月下旬にほぼ終了した。収穫された普通小麦のうち、検査対象となった平均タンパク質含有量は 11.9%である。また、英国農業園芸開発公社(AHDB)(2021.9.10)によれば、9 月上旬に収穫進捗率は 90%に達し、5 年平均を僅かに上回った。

なお、USDA によれば、フランスで 8 月中旬以降乾燥状態が続き、イタリアで夏の降雨量が平年の半分以下となる等、2022/23 年度の冬作物の作付に向け土壌水分不足が懸念されている。一方、ドイツでは 8 月下旬に降雨があり乾燥状態は解消に向かった。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度(2020 年 7 月～2021 年 6 月)の輸出量は、前月予測からわずかに上方修正され 35.7 百万トン。EU 委員会によれば、2020/21 年度の輸出量は、普通小麦が前年度同期を 28.0%下回る 25.8 百万トンで、デュラム小麦が同 42.6%下回る 0.7 百万トンであった。

小麦－EU (冬小麦を主に栽培)

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	154.3	135.6	154.0 (152.2)	0.4	13.6	
消費量	122.6	117.9	124.2 (124.4)	-	5.3	
うち飼料用	52.9	48.1	53.7 (51.4)	-	11.7	
輸 出 量	41.4	30.1	35.7 (35.0)	0.0	18.7	
輸 入 量	7.3	8.6	7.4 (6.8)	-	▲ 13.9	
期末在庫量	15.3	11.5	13.0 (12.1)	1.4	13.0	
期末在庫率	9.3%	7.8%	8.1% (7.6%)	▲ 0.1	0.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	26.16	24.47	25.68 (25.34)	-	4.9	
単収(t/ha)	5.90	5.54	6.00 (6.01)	0.33	8.2	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)
IGC 「Grain Market Report」(26 August 2021)

表内及び () 内のデータは EU27 国+英国のデータ

表 EU の普通小麦、デュラム小麦の輸出先国及び輸出量

(普通小麦)

	2021年6月			2020年7月-2021年6月			2019年7月-2020年6月		
	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
1	アルジェリア	27.07	29.6%	アルジェリア	589.98	22.8%	アルジェリア	607.13	16.9%
2	イラン	12.93	14.2%	ナイジェリア	229.21	8.9%	サウジアラビア	335.64	9.4%
3	ナイジェリア	9.38	10.3%	モロッコ	227.32	8.8%	モロッコ	263.20	7.3%
4	タイ	6.19	6.8%	サウジアラビア	183.98	7.1%	エジプト	229.45	6.4%
5	アンゴラ	3.71	4.1%	中国	177.39	6.9%	中国	222.00	6.2%
6	キューバ	3.38	3.7%	エジプト	107.67	4.2%	ナイジェリア	152.33	4.2%
	その他	28.63	31.4%	その他	1,068.00	41.3%	その他	1,779.79	49.6%
	総計	91.29	100%	総計	2,583.54	100%	総計	3,589.54	100%

(デュラム小麦)

	2021年6月			2020年7月-2021年6月			2019年7月-2020年6月		
	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)
1	トルコ	1.32	23.8%	チュニジア	16.69	23.7%	チュニジア	38.60	31.4%
2	コートジボワール	0.81	14.6%	コートジボワール	9.77	13.9%	トルコ	20.82	16.9%
3	チュニジア	0.66	12.0%	トルコ	8.41	11.9%	モロッコ	11.92	9.7%
4	キューバ	0.42	7.5%	サウジアラビア	4.40	6.2%	コートジボワール	9.95	8.1%
5	マリ	0.40	7.2%	アルジェリア	4.11	5.8%	モリタニア	4.72	3.8%
6	スイス	0.33	6.0%	マリ	4.04	5.7%	マリ	4.61	3.7%
	その他	1.60	28.9%	その他	23.14	32.8%	その他	32.36	26.3%
	総計	5.54	100%	総計	70.57	100%	総計	122.99	100%

資料：EC(欧州委員会)、Cereals exports and imports(2021.8.22)

< 中国 > 天候に恵まれ生産量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】中国糧油情報センター(2021.9.5)によれば、2021/22 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 2.1%増の 137.1 百万トンと史上最高の見込み。内訳は、冬小麦が前年度比 1.9%増の 129.3 百万トン、春小麦は同 4.9%増の 7.8 百万トン。中国中央气象台(2021.9.3)によれば、冬小麦はほぼ収穫が終了。春小麦も青海省、新疆自治区等の一部を除き収穫は終了した。

【貿易情報・その他】中国糧油情報センターによれば、2021/22 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 1.2%減少の 145.5 百万トン(飼料用は同 5.3%減少の 36.0 百万トン)の見込み。一方、USDA によれば、同年度の消費量は、前月に比べ、飼料用途が 1.0 百万トン上方修正(36.0 百万トン)され、前年度を 0.7%下回る 149.0 百万トンとなる見込み。なお、小麦ととうもろこしの価格差は、2021 年 5 月より減少しているものの、小麦は飼料原料としては価格競争力がある。

国家糧食和物資儲備局(2021.9.8)によれば、2021 年度の主産地の冬小麦累計買付数量は 52.6 百万トンである(9 月 5 日現在)。

中国糧油情報センターによれば、2021/22 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 23.3%減少の 8.0 百万トンの見込み。中国海関統計によれば、2021 年 1 月から 7 月の小麦輸入量は前年同時期(4.1 百万トン)の 51.2%増の 6.2 百万トンとなった。同期間の輸入先国は、カナダ(32.0%)、米国(28.9%)、豪州(24.4%)の順で、この 3 カ国で全体の 85.3%を占めている。なお、輸入先国は、4 月から米国が増加傾向、一方、前年度 1 位であったフランスは、5 月から 7 月の間は実績がない。

中国農産品供需形勢分析月報(7 月)によれば、新穀小麦品質の良好さに下支えされ上昇したものの、一部主産地で洪水被害により保管が難しくなり、国内流通業者の小麦販売意欲が高まったことや、とうもろこし価格の下落で小麦の飼料用消費が抑えられたことから、7 月の国内小麦価格は安定した。国内小麦粉消費はオフシーズンに入っているため小麦粉加工企業の稼働率は低く、今後の小麦価格は安定する見通し。

小麦—中国(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	133.6	134.3	136.9 (136.0)	0.9	2.0
消費量	126.0	150.0	149.0 (145.1)	1.0	▲ 0.7
うち飼料用	19.0	40.0	36.0 (32.0)	1.0	▲ 10.0
輸 出 量	1.1	0.8	1.0 (1.3)	-	31.6
輸 入 量	5.4	10.6	10.0 (9.6)	-	▲ 5.8
期末在庫量	150.0	144.1	141.0 (127.4)	▲ 0.6	▲ 2.2
期末在庫率	118.1%	95.6%	94.0% (87.0%)	▲ 1.0	▲ 1.6

(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.73	23.38	23.80 (23.8)	0.80	1.8
単収(t/ha)	5.63	5.74	5.75 (5.71)	▲ 0.16	0.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)
IGC 「Grain Market Report」(26 August 2021)

図 中国の飼料用等の消費量と飼料用等を除く消費量の推移

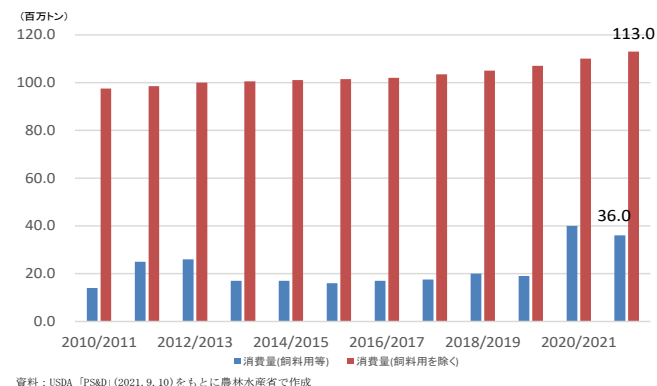


表 中国の小麦輸入先国(2021年6月、2021年1月～2021年6月、2020年1月～2020年12月)

	2021年7月			2021年1月～2021年7月			2020年1月～2020年12月		
	国名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	米国	33.1	37.5	カナダ	199.3	32.0	フランス	238.3	29.2
2	カナダ	30.9	35.0	米国	179.6	28.9	カナダ	229.7	28.2
3	豪州	21.5	24.4	豪州	152.0	24.4	米国	178.4	21.9
4	カザフスタン	2.6	2.9	フランス	65.4	10.5	豪州	109.0	13.4
5	ロシア	0.2	0.2	カザフスタン	15.6	2.5	リトアニア	33.3	4.1
6	フランス	0.0	0.0	リトアニア	6.6	1.1	カザフスタン	19.2	2.4
7	リトアニア	0.0	0.0	ロシア	4.0	0.6	ロシア	7.2	0.9
計		88.2	100.0		622.6	100.0		815.2	100.0

出典: 中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< ロシア > 生産量は前年度を 15.1%下回る 72.5 百万トン

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量(クリミア分は含まない)は、前月予測からの変更はなく、前年度に比べ15.1%減少の72.5百万トンの見込み。

品種別の生産量の内訳は、冬小麦は前月予測からの変更はなく50.5百万トン、春小麦も前月予測からの変更はなく22.0百万トンの見込み。

ロシア気象センターによれば、8月は、ロシア・ヨーロッパ部(※)では一部の地域で降雨が多く、収穫作業が度々中断された。沿ボルガ連邦管区やウラル連邦管区では全体的に降雨量が少なく、収穫作業は進展したものの、2022/23年度の冬作物の作付に向けて土壌水分は不十分な状態。シベリア地域では十分な降雨があり、収穫作業が滞ることもあったが、十分な土壌水分となった。

地域別の収穫状況は、9月10日時点で、ロシア・ヨーロッパ部はほぼ終了、ウラル連邦管区、シベリア地域で収穫進捗率が50%から60%、極東連邦管区では約50%である。ロシア農業省の速報値によれば、9月15日現在、作付面積28.71百万ヘクタールのうち、24.50百万ヘクタールで収穫が終了し、収穫量は70.8百万トンであった。

ロシア穀物品質評価センターによれば、本年度の小麦の品質は高水準となった。9月6日までに収穫された60.4百万トンの43.4%にあたる26.2百万トンを検査したところ、1及び2等は0.11%、3等は43.9%、4等は42.8%、飼料用の5等は13.2%と、1～4等の比率は前年同日時点の71.7%を大きく上回る86.8%となった。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、35.0百万トンの見込み。ロシア輸出税関によれば、2021年7月の輸出量は前年度同時期(2.3百万トン)を21%下回る1.8百万トン。

現地輸送会社及び情報会社によれば、低水準だった7月に比べ8月の輸出量(速報値)は5.1百万トンに増加した。これは、EUの収穫量が大雨で減少する見込みから、同地域からの輸入も多いトルコ、サウジアラビア、イランの需要が伸びたことや、輸出関税が上昇する前の駆け込み輸出が増加したためである。

小麦ーロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培) (単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	73.6	85.4	72.5 (75.0)	-	▲ 15.1
消費量	40.0	42.5	40.0 (41.7)	-	▲ 5.9
うち飼料用	17.0	19.0	17.0 (17.3)	-	▲ 10.5
輸 出 量	34.5	38.5	35.0 (34.1)	-	▲ 9.1
輸 入 量	0.3	0.4	0.5 (0.3)	-	25.0
期末在庫量	7.2	12.0	10.0 (12.3)	0.1	▲ 16.7
期末在庫率	9.7%	14.8%	13.3% (16.2%)	-	▲ 1.5

(参考)
 収穫面積(百万ha) 27.31 28.68 28.00 (28.0) - ▲ 2.4
 単収(t/ha) 2.70 2.98 2.59 (2.68) - ▲ 13.1
 資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「World Agricultural Production」(10 September 2021)
 IGC 「Grain Market Report」(26 August 2021)

図 ロシアの最近3カ年の月別小麦輸出の推移

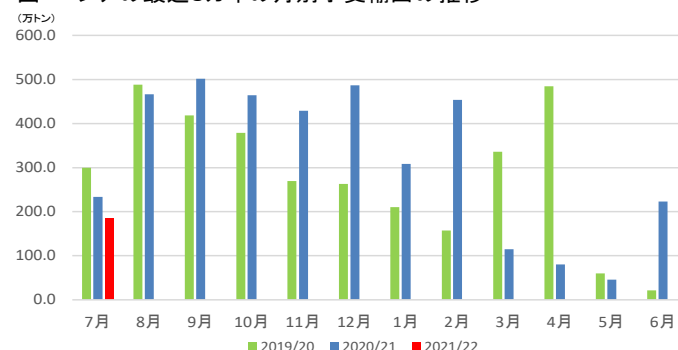


表 ロシアの小麦輸出先国(2021年7月、2020年7月～2021年6月、2019年7月～2020年6月)

	2021年7月			2020年7月～2021年6月			2019年7月～2020年6月		
	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	トルコ	45.0	24.4	エジプト	813.5	21.4	トルコ	794.2	23.6
2	エジプト	33.8	18.3	トルコ	698.7	18.4	エジプト	623.1	18.5
3	非公表	31.0	16.8	非公表	205.4	5.4	バングラデシュ	229.8	6.8
4	タンザニア	8.4	4.5	バングラデシュ	182.1	4.8	アゼルバイジャン	131.5	3.9
5	ナイジェリア	8.1	4.4	パキスタン	157.0	4.1	スーダン	114.3	3.4
6	その他	58.1	31.5	その他	1,747.3	45.9	その他	1,469.7	43.7
計		184.3	100.0		3,804.0	100.0		3,362.6	100.0

資料: ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成 (注)2020/21年度は、2020年7月から2021年6月

※ロシア・ヨーロッパ部: 北西、中央、沿ボルガ、南、北カフカス連邦管区

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ロシア等で下方修正も、米国、中国、アルゼンチン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

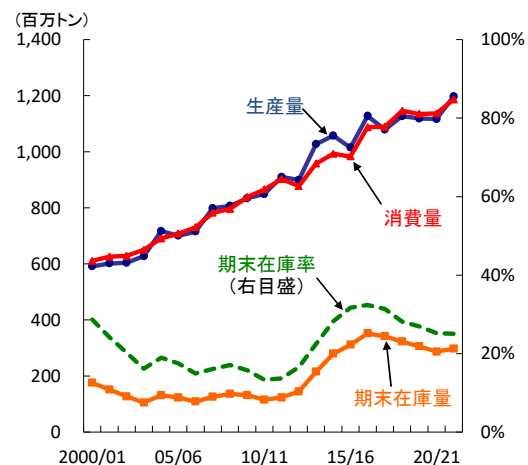
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・米国、カナダ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・アルゼンチン、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2021.9.10）をもとに農林水産省にて作成

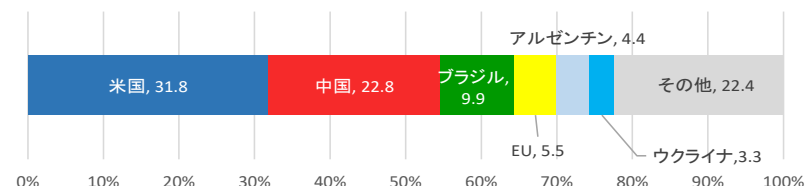
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

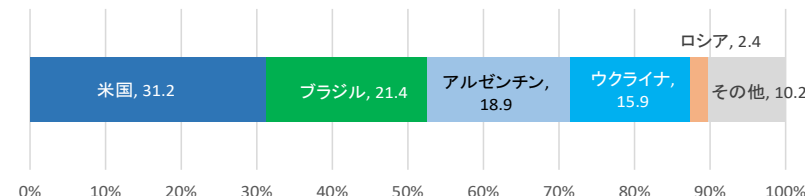
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	1,118.7	1,117.1	1,197.8	11.7	7.2
消 費 量	1,135.2	1,136.7	1,186.6	4.4	4.4
うち飼料用	715.9	725.4	749.2	5.4	3.3
輸 出 量	172.4	179.6	201.3	3.4	12.1
輸 入 量	167.6	185.1	186.0	1.3	0.5
期末在庫量	306.1	286.5	297.6	13.0	3.9
期末在庫率	27.0%	25.2%	25.1%	1.0	▲ 0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（10 September 2021）

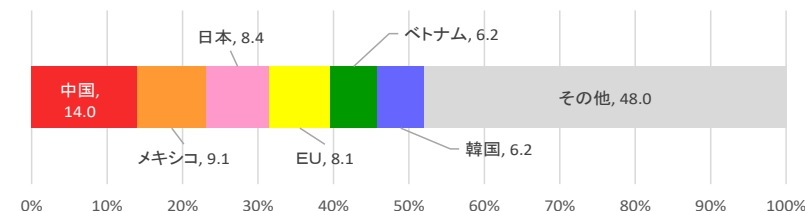
○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,197.8百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸出量(201.3百万トン)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸入量(186.0百万トン)



（２）国別のとうもろこしの需給動向

＜ 米国 ＞ 収穫面積・単収上方修正で増産、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、収穫面積及びミネソタ州、アイオワ州等の単収がともに前月予測から上方修正されたことから、前月予測から6.3百万トン上方修正され、前年度より5.7%増の380.9百万トンと2016/17年度に次ぐ史上第2位の見込み。「Crop Progress」(2021.9.20)によれば、主要18州におけるデント進捗率は、93%と前年度同期(94%)より遅れているものの、過去5年平均(89%)より進んでいる。成熟進捗率は57%と前年度同期(56%)及び過去5年平均(47%)より進んでいる。収穫進捗率は10%と前年度同期(8%)及び過去5年平均(9%)より進んでいる。作柄評価は、生育期のコーンベルト北西部の高温乾燥の影響により、良からやや良が59%と前年度同期(61%)を下回っている。

【需要動向】USDAによれば、2021/22年度の飼料用消費量は、生産量の上方修正及びとうもろこし価格の低下見込みにより前月予測から1.9百万トン上方修正されたものの、前年度より減少する見込み。一方、国内のワクチン接種の進展に伴い、自動車を運転する機会が増加することによる燃料用エタノールの需要増からエタノール向け需要は前年度より増加することから、消費量全体では前年度より1.1%増の313.1百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の上方修正に伴い、前月予測から1.9百万トン上方修正されたものの、他の輸出国との競争の増加等により、前年度より9.8%減の62.9百万トンの見込み。

USDAによれば、輸出検証高(2021年1月7日～9月2日)は、50.2百万トンであり、内訳は中国(15.9百万トン)、メキシコ(10.3百万トン)、日本(9.0百万トン)、韓国(3.1百万トン)の順である。なお、8月29日に米国ガルフに上陸したハリケーン・アイダにより一部の穀物輸出施設が被害を受け、一時停電となったため、輸出が遅延している。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、需要量より供給量の上方修正が大きかったため、前月予測から4.2百万トン上方修正され、前年度より18.6%増の35.8百万トンの見込み。なお、期末在庫率は9.5%で依然として低水準の見込み。

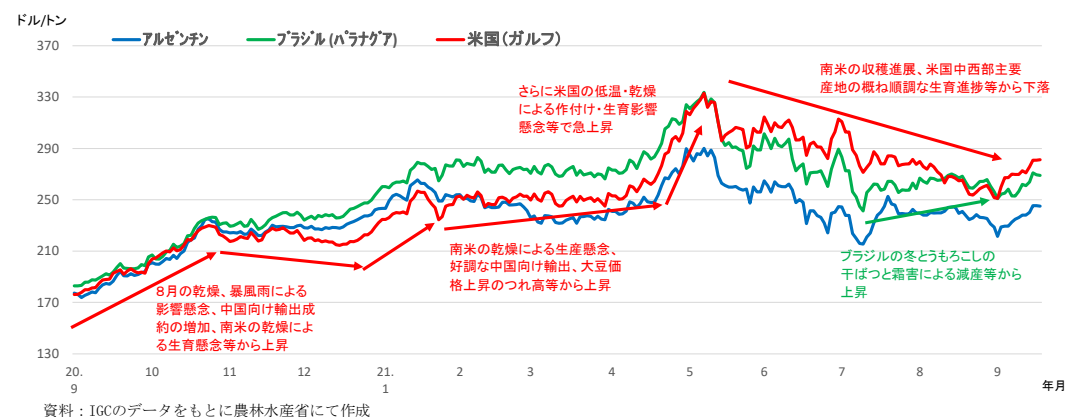
とうもろこしー米国

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	346.0	360.3	380.9	6.3	5.7
消費量	309.6	309.8	313.1	1.9	1.1
うち飼料用	149.9	145.4	144.8	1.9	▲ 0.4
エタノール用等	123.4	127.9	132.1	-	3.3
輸出量	45.1	69.7	62.9	1.9	▲ 9.8
輸入量	1.1	0.6	0.6	-	-
期末在庫量	48.8	30.2	35.8	4.2	18.6
期末在庫率	13.7%	7.9%	9.5%	1.0	1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	32.92	33.37	34.43	0.24	3.2
単収(t/ha)	10.51	10.79	11.06	0.10	2.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



< ブラジル > 2020/21 年度冬とうもろこし生産見直し下方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より 37.2%増の 118.0 百万トンとなり、史上最高の見込み。なお、2020/21 年度の実産量は、ブラジル食料供給公社（CONAB）報告を受けて、前月予測から 1.0 百万トン下方修正され、86.0 百万トンの見込み。

CONAB 月例報告（2021.9.9）によれば、2020/21 年度の夏とうもろこしの生産量は、乾燥による作付け遅延と生育期の乾燥の影響により、前年度比 3.7%減の 24.7 百万トンの見込み。一方、大豆収穫後に作付けされ、収穫中の冬とうもろこしの生産量は、4 月～5 月の南部の主産地での長引く乾燥天候に加え、6 月下旬から 7 月下旬にかけてのパラナ州等中南部の州の断続的な霜害の影響により、前月予測から 0.7 百万トン下方修正され、前年度比 20.7%減の 61.0 百万トンの見込み。合計では前年度比 16.4%減の 85.7 百万トンの見込み。（P.21 大豆－ブラジルのクロップカレンダー参照）。

南部のパラナ州では 9 月 20 日現在で 2020/21 年度の冬とうもろこしの収穫率は 98%。同州の 2021/22 年度の夏とうもろこしの作付進捗率は 45%となっている。

【需給状況】USDA によれば、2021/22 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加に伴い、前年度より 7.4%増の 73.0 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加により前年度より 95.5%増の 43.0 百万トンの見込み。なお、2020/21 年度の実輸出量は、生産量が 1.0 百万トン下方修正されたことに伴い、前月予測から 1.0 百万トン下方修正され、22.0 百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021 年 1～8 月の輸出量は 10.0 百万トンで、前年同期（13.5 百万トン）と比べ 25.9%減となっている。内訳は、1 位がイラン 1.5 百万トン、2 位がエジプト 1.2 百万トン、3 位がスペイン 1.1 百万トンとなっている。

とうもろこし－ブラジル

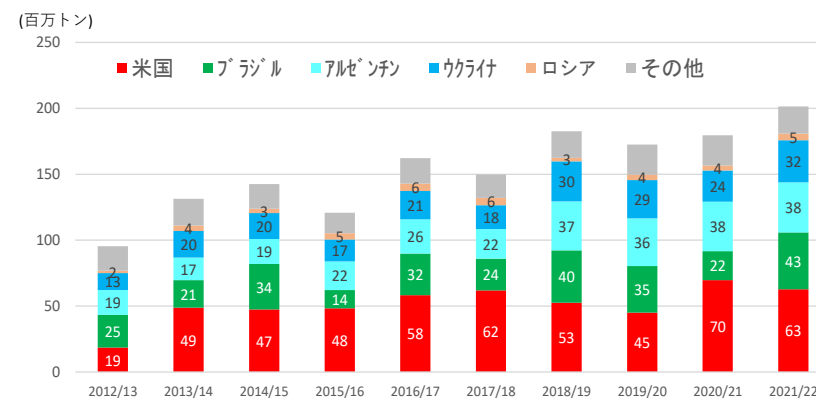
（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが 3/4 を占め、夏とうもろこしは 1/4）

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	102.0	86.0	118.0 (117.4)	-	37.2
消 費 量	68.5	68.0	73.0 (76.2)	-	7.4
うち飼料用	58.5	58.0	62.0 (55.7)	-	6.9
輸 出 量	35.2	22.0	43.0 (40.0)	-	95.5
輸 入 量	1.7	3.5	1.7 (0.5)	-	▲ 51.4
期末在庫量	5.2	4.7	8.4 (5.8)	-	78.2
期末在庫率	5.0%	5.3%	7.3% (5.0%)	-	2.0

（参考）
 収穫面積(百万ha) 18.50 19.83 20.80 (20.60)
 単収(t/ha) 5.51 4.34 5.67 (5.70)
 資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「World Agricultural Production」(10 September 2021)
 IGC 「Grain Market Report」(26 August 2021)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」 (2021. 9. 10) のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 増産見通しも輸出税継続

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、大豆より輸出税率が低いなど農家の収益性が高いことから収穫面積の上方修正により前月予測から2.0百万トン上方修正され、前年度より6.0%増の53.0百万トンと史上最高の見込み。なお、2020/21年度の生産量は、前月予測から1.5百万トン上方修正され、50.0百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2021.9.23）によれば、低温にも関わらず、作付けが加速し、作付進捗率は8.5%で、前年度同期より2.5ポイント遅れている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.6%増の14.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の上方修正に伴い前月予測から2.0百万トン上方修正され、前年度より1.3%増の38.0百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021年1～7月の輸出量は22.4百万トンで、前年同期（24.4百万トン）より7.9%減。内訳は、1位がベトナム3.7百万トン、2位がエジプト2.4百万トン、3位が韓国2.0百万トン。7月26日に180日間の渇水の緊急事態宣言が発令されたパラナ川の水位低下に伴うアルゼンチンの穀物等の輸出への影響に注視が必要である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019年12月14日、輸出税を約7%から12%へ引き上げ、その後継続している。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	51.0	50.0	53.0 (63.3)	2.0		6.0
消 費 量	13.5	14.0	14.5 (22.6)	-		3.6
うち飼料用	9.5	10.0	10.5 (17.6)	-		5.0
輸 出 量	36.3	37.5	38.0 (37.0)	2.0		1.3
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-		-
期末在庫量	3.6	2.1	2.6 (9.0)	0.2		24.1
期末在庫率	7.3%	4.1%	5.0% (15.1%)	0.2		0.9
(参考)						
収穫面積(百万ha)	6.30	6.40	6.50 (8.30)	0.25		1.6
単収(t/ha)	8.10	7.81	8.15 (7.63)	▲ 0.01		4.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)
IGC 「Grain Market Report」(26 August 2021)

< 中国 > 収穫面積増、単収上方修正で史上最高、消費量も史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、収穫面積増に加え、主産地の華北平原から東北地区にかけて生育期の降雨に恵まれたことから単収の上方修正により、前月予測から5.0百万トン上方修正され、前年度より4.7%増の273.0百万トンと史上最高の見込み。収穫作業は8月末から10月にかけて行われる。

中国糧油情報センター（2021.9.5）によれば、8月は産地の天候が温暖で適度な降雨があり、生長・成熟に有利となった。中国中央气象台（2021.9.3）によれば、9月上旬現在、東北地区の春とうもろこしはシルキング期から乳熟期、一部が成熟期に入っている。河南省等の夏とうもろこしは、シルキング期から成熟期に入っている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の飼料用消費量は、生産量の上方修正と国内価格の低下見込みから前月予測から3.0百万トン上方修正された。一方、工業用消費量がエタノール向け消費やとうもろこし加工製品輸出の減少見通しから同量下方修正されたことから、消費量計では前月予測からの変更はなく、前年度より3.2%増の294.0百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度と同じ26.0百万トンで史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～7月の輸入量は18.2百万トンで、前年同期の4.0倍となり、前年の年間輸入量の1.6倍。内訳は、米国産11.3百万トン（62%）、ウクライナ産6.7百万トン（37%）で、前年同期はウクライナ産が92%を占めたが、米国産の輸入が大幅に増加している。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報7月号」によると、7月の国内流通価格は、農家の余剰在庫はわずかとなっているものの、大量の輸入とうもろこしの継続的な到着、販売業者の在庫処分、とうもろこし加工業者の原料在庫の充足等により、2,760元/トンと引き続き下落した。一方、7月の外国産価格は2,840元/トンと上昇し、前年3月以降で初めて国内価格を上回った。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

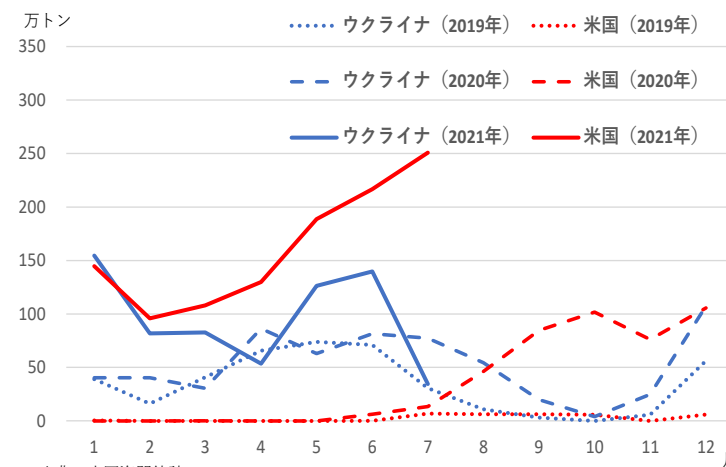
とうもろこしー中国

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	260.8	260.7	273.0	(272.8)	5.0	4.7
消費量	278.0	285.0	294.0	(297.7)	-	3.2
うち飼料用	193.0	203.0	214.0	(192.5)	3.0	5.4
輸 出 量	0.0	0.0	0.0	(0.1)	-	100.0
輸 入 量	7.6	26.0	26.0	(16.5)	-	-
期末在庫量	200.5	202.2	207.2	(182.4)	9.0	2.5
期末在庫率	72.1%	70.9%	70.5%	(61.2%)	3.1	▲ 0.5
(参考)						
収穫面積(百万ha)	41.28	41.26	42.00	(42.90)	-	1.8
単収(t/ha)	6.32	6.32	6.50	(6.36)	0.12	2.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)
IGC「Grain Market Report」(26 August 2021)

図：中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インド等で上方修正されたことから前月から上方修正された。史上最高の見込み。

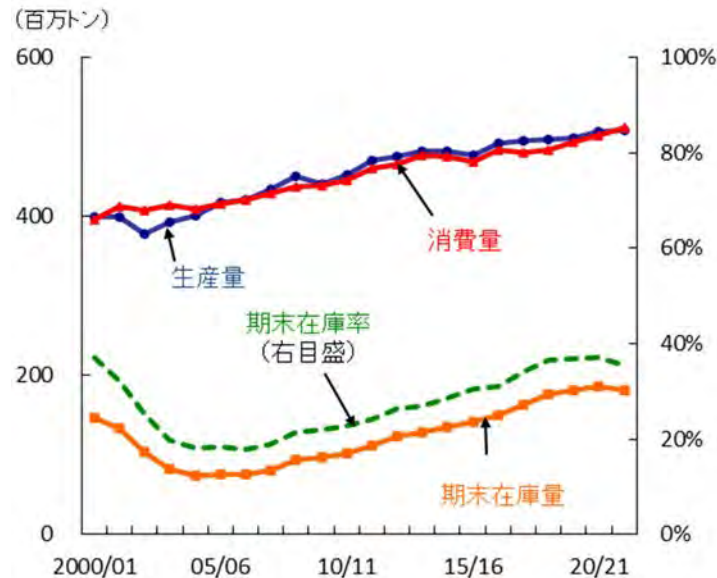
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・インド等で下方修正されたことから前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インド等で上方修正されたことから前月から上方修正された。史上最高の見込み

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2021.9.10）をもとに農林水産省にて作成

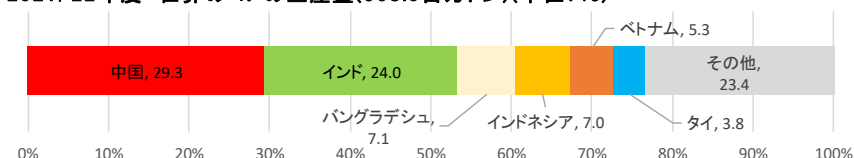
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

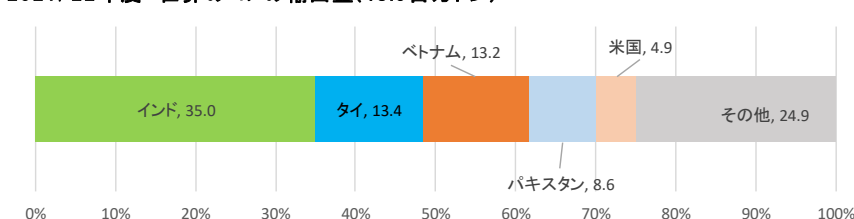
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	498.3	506.2	508.0	0.5	0.3
消費量	493.2	502.0	512.1	▲ 2.2	2.0
輸出量	43.4	48.5	48.5	0.9	0.1
輸入量	42.3	45.9	45.9	0.2	0.0
期末在庫量	181.8	186.0	181.9	11.7	▲ 2.2
期末在庫率	36.9%	37.0%	35.5%	2.4	▲ 1.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 September 2021)

○ 2021/22年度 世界のコメの生産量(508.0百万トン)(単位：%)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸出量(48.5百万トン)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸入量(45.9百万トン)



(2) 国別のコメの需給動向

< 米国 > 単収増加するも収穫面積の減少により生産量が減少

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、史上第3位の単収となったにもかかわらず、長粒種の産地であるルイジアナ州やミズーリ州、中・短粒種の産地であるカリフォルニア州において収穫面積が下方修正されたことにより、前月予測から0.2百万トン下方修正され、対前年度比16.3%減の6.1百万トンの見込み。中・短粒種の生産量はコメ全体の約19%を占める。

同「Crop Progress」(2021.9.20)によれば、9月19日時点の主要生産6州の収穫進捗率は51%で過去5年間平均(56%)より5ポイント遅れている。長粒種が多いアーカンソー州では47%、中・短粒種が多いカリフォルニア州では18%の進捗率となっている。主要6州の作柄評価は、良からやや良が76%と前年度同期(74%)より2ポイント上回っている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、消費量は前月予測から0.1百万トン下方修正され、対前年度比3.7%減の4.7百万トンの見込み。輸出量は前月予測から変更がなく、対前年度比3.0%減の2.9百万トンの見込み。輸入量は前月予測から変更がなく、対前年度比12.0%増の1.2百万トンで史上最高の見通し。

同「Rice Outlook」(2021.9.16)によれば、9月7日までの週の地中海向けカリフォルニア米(1等、碎米4%混入、国内精米)の価格は、2021/22年産の減産予測を反映し、8月10日までの週より25ドル/トン上昇し、2009年6月以来の高値である1,125ドル/トン。一方、9月7日までの週のイラク向け長粒種(2等、碎米4%混入)の価格については、7月20日までの週以降横ばいで600ドル/トンとなっている(P18の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)。

コメー米国

主に中・短粒種はカリフォルニア州、長粒種はミシシッピ川沿いで栽培
全米のコメ生産に占めるカリフォルニア州の生産シェアは約2割

(単位: 百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.9	7.2	6.1	▲ 0.2	▲ 16.3
消費量	4.6	4.9	4.7	▲ 0.1	▲ 3.7
輸出量	3.0	3.0	2.9	-	▲ 3.0
輸入量	1.2	1.1	1.2	-	12.0
期末在庫量	0.9	1.4	1.1	▲ 0.1	▲ 21.6
期末在庫率	12.0%	17.8%	14.4%	▲ 0.9	▲ 3.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	1.00	1.21	1.01	▲ 0.05	▲ 16.5
単収(もみt/ha)	8.38	8.54	8.55	0.10	0.1

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)

写真: アーカンソー州でのコメの収穫風景



アーカンソー州ではハリケーン「アイダ」の影響はほとんどなかった。
9月上旬、温暖で乾燥した天候が続きコメの収穫作業が本格化。

< インド > 2019/20 年度以降の期末在庫を上方修正

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22 年度の生産量は、単収が下方修正されるも収穫面積が上方修正されたことで、1.0 百万トン上方修正され対前年度比 0.2% 減少の 122.0 百万トンの見込み。2020/21 年度の生産量は、インド政府が 8 月に発表した第 4 期生産高予測に基づいて前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、122.3 百万トンと史上最高となる見込み。コメ生産量の約 85% を占め、9 月から 1 月にかけて収穫されるカリフ作は 104.4 百万トン、3 月から 6 月にかけて収穫されるラビ作は 17.9 百万トンになる見通し。

同「Weekly Weather and Crop Bulletin」（2021.9.8 及び 14）によれば、8 月下旬から 9 月上旬にかけて中部及び南部では降雨があり、9 月上旬から中旬にかけては東部でも降雨があったことからカリフ作の土壌水分が改善した。

インド農業・農民福祉省の「2021/22 年度第 1 回生産量推計」（2021.9.21）によると、2021/22 年度のカリフ作の生産量は 107.0 百万トンとなる見通しであり、104.4 百万トンであった 2020/21 年度より 2.5% 増産となる見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22 年度の消費量は前月予測から 3.0 百万トン下方修正され、対前年度比 2.3% 増の 105.0 百万トンで史上最高の見通し。2021/22 年度の輸出量は、期首在庫の上方修正やバングラデシュからの強い引き合いに基づき前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、対前年度比 10.5% 減の 17.0 百万トンの見通しも史上 2 番目の高水準。一方で、新型コロナウイルスの影響緩和のため 2019/20 年度に国民に対して無償又は低価格でコメの配給や販売を実施したものの、結果としてコメの消費量全体が 2019/20 年度に遡って下方修正され、2019/20 年度及び 2020/21 年度の期末在庫量が上方修正されたことにより、2021/22 年度の期末在庫量が前月予測から 11.6 百万トン上方修正され 34.5 百万トンになる見通し。

USDA「Rice Outlook」（2021.9.14）によれば、インド産米（碎米 5% 混入）の 9 月 7 日までの週の価格は 8 月 10 日までの週より 10 ドル下落し 370 ドル/トン（P18 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照）。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ（小麦）の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

（単位：百万精米トン）

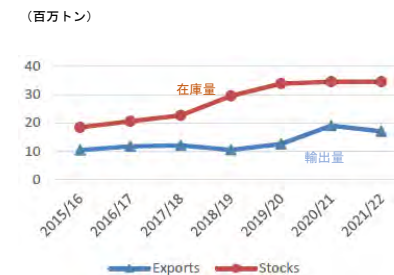
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() は IGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生 産 量	118.9	122.3	122.0	(123.8)	1.0	▲ 0.2
消 費 量	102.0	102.7	105.0	(107.6)	▲ 3.0	2.3
輸 出 量	12.5	19.0	17.0	(15.6)	1.0	▲ 10.5
輸 入 量	0.0	0.0	0.0	(0.0)	-	-
期末在庫量	33.9	34.5	34.5	(25.7)	11.6	-
期末在庫率	29.6%	28.4%	28.3%	(20.8%)	9.8	▲ 0.1

(参考)

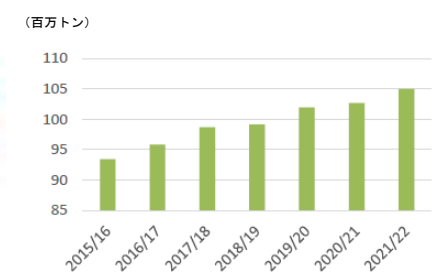
収穫面積(百万ha)	43.66	45.00	45.00	(44.75)	0.60	-
単収(もみt/ha)	4.08	4.08	4.07	(2.77)	▲ 0.02	▲ 0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（10 September 2021）
IGC「Grain Market Report」（26 August 2021）（単収は精米 t/ha）

グラフ：インドのコメ輸出量と在庫量の推移



グラフ：インドのコメ消費量の推移



資料：USDA「Grain：World Markets and Trade」（2021.9.10）

< 中国 > 前月予測から変更なくも生産量・消費量ともに史上最高

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の実生産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比0.5%増の149.0百万トンで史上最高の見込み。

中国中央气象台（2021.9.3）によれば、8月26日から9月1日の間に、二期作早稲は収穫を完了し、二期作晩稲は湖北、湖南、江西、広西、広東、海南等地域の大部分は分けつから節間伸長期に入っており、一部は穂孕み期に入っている。全国二期作晩稲の一、二類の苗の割合は20%と80%で、前年同期（10%と88%）比、一類は10ポイント向上し、二類は8ポイント低下している。また、一期作稲は江蘇、安徽、浙江等地域の大部分は節間伸長から出穂期に入っており、黒龍江、吉林、遼寧、湖北、四川、貴州、雲南等地域の大部分は出穂から乳熟期に入っている。全国の一期作稲の一、二類の苗の割合は33%と64%で、前年同期（26%、73%）比、一類は7ポイント向上し、二類は9ポイント低下している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の実消費量は前月予測からの変更はなく、対前年度比3.6%増の155.7百万トンで史上最高の見込み。

USDAによれば、2021/22年度の実輸出量は前月予測からの変更はなく、前年度比8.1%増の2.4百万トンの見込み。2021/22年度の実輸入量は前月予測からの変更はなく、対前年度比14.3%減の3.6百万トンの見込み。

同「Grain: World Markets and Trade」（2021.9.10）によれば、近年、中国の中粒種は、米国や豪州など競合国の3分の1程度の価格により、エジプトにとって特に中粒種の主要な輸入元国になっている。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報」（2021年7月）によれば、7月、夏場に入り、米の消費がオフシーズンに入ったことから加工業者の稼働率が下がり、国内米市場が低迷したためジャポニカ米の価格は小幅で下落した。一方で、市場に流通するインディカ米は前年産の古米が主となっているが、保管費用を含めた全体的なコストが高いことにより、古米の価格が支えられ横ばいとなった。2021年7月の全国平均品種別米卸売価格はそれぞれ早稲インディカ米 3,860 元/トン、晩稲インディカ米 4,240 元/トン、一期作ジャポニカ米 4,060 元/トンになっている。

※一類苗:生育が正常な苗、二類苗:通常の苗よりやや小さく弱まっている苗

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位:百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	146.7	148.3	149.0 (149.5)	-	0.5	
消 費 量	145.2	150.3	155.7 (150.0)	-	3.6	
輸 出 量	2.6	2.2	2.4 (2.6)	-	8.1	
輸 入 量	2.6	4.2	3.6 (3.0)	-	▲ 14.3	
期末在庫量	116.5	116.5	111.0 (110.3)	-	▲ 4.7	
期末在庫率	78.8%	76.4%	70.2% (72.3%)	-	▲ 6.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	29.69	30.08	30.00 (30.00)	-	▲ 0.3	
単収(もみt/ha)	7.06	7.04	7.10 (4.98)	-	0.9	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)

写真: 黒龍江省の水稲圃場



当該圃場の水稲は成熟期に入っており、前年と同様に9月20日前後に収穫予定。
生産量は前年並みの見込み。

< タイ > 2020/21 年度の輸出量が下方修正

【生育・生産動向】USDAによれば、2020/21 年度(2021 年 1 月～同年 12 月)の生産量は、前月予測から変更がなく 18.8 百万トンと対前年度比 6.2%の増加の見込み。一方、2021/22 年度(2022 年 1 月～同年 12 月)の生産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比 3.6%増の 19.5 百万トンの見込み。

同「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2021.9.8 及び 14)によれば、8 月下旬から 9 月上旬にかけて活発なモンスーンが降雨をもたらし、9 月上旬にはサイクロン「conson」に伴う降雨により、これから作付される乾季作向けに土壌水分が補給された。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 16.1%増の 6.5 百万トンの見込みとなり、ベトナムの輸出量(6.4 百万トン)を上回り、インドに次ぐ世界第 2 位のコメ輸出国となる見通し。2020/21 年度の輸出量は、フレート高により輸送コストが嵩んだことで前月予測から 0.2 百万トン下方修正され、対前年度比 1.8%減の 5.6 百万トンの見込み。タイ米輸出業協会によれば、2021 年 1 月から 7 月までの輸出量は、前年同期比 22.4%減少の 258.7 万トン。輸出先国は、南アフリカ(38.5 万トン)、米国(29.4 万トン)、中国(19.6 万トン)の順となっている。

USDA「Rice Outlook」(2021.9.14)によれば、9 月 6 日までの週のタイ産米(長粒、2 等丸米)の輸出価格は、サブサハラ・アフリカ地域からの引き合いやパーツ安により、8 月 9 日までの週より 9 ドル/トン上昇し 401 ドル/トンとなっている。

コメ・タイ

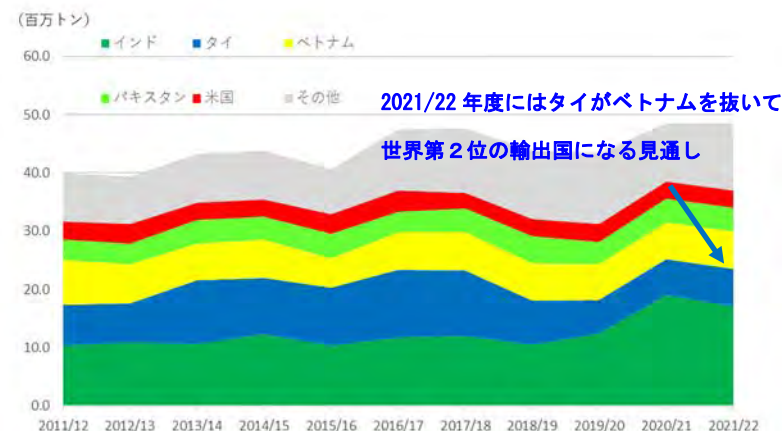
夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位：百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	17.7	18.8	19.5 (19.6)	-	3.6	
消 費 量	12.3	12.7	13.0 (11.9)	0.1	2.4	
輸 出 量	5.7	5.6	6.5 (7.7)	-	16.1	
輸 入 量	0.3	0.2	0.2 (0.3)	-	-	
期末在庫量	4.0	4.7	4.9 (7.3)	0.1	4.2	
期末在庫率	22.1%	25.7%	25.2% (37.3%)	0.4	▲ 0.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.89	10.40	10.50 (10.53)	-	1.0	
単収(もみt/ha)	2.70	2.74	2.81 (1.87)	-	2.6	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)
IGC「Grain Market Report」(26 August 2021) (単収は精米t/ha)

図：世界のコメの主要輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2021.8.12)をもとに農林水産省にて作成

< ベトナム > 秋作コメの収穫がほぼ終了

【生育・生産動向】USDAによれば、2020/21年度(2021年1月～2021年12月)の生産量は、前月予測から変更なく27.4百万トンと対前年度比1.1%増加の見込み。2021/22年度(2022年1月～2022年12月)の生産量は前月から変更はなく、対前年度比1.2%減少の27.1百万トンの見込み。夏秋作コメの収穫はほぼ終わりを迎えている。

ベトナム農業・農村開発省によれば、2021年の夏秋作の生産量は5.8百万トンの見通しであり、2020年の6.0百万トンより3.3%少ない見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比1.6%増の6.3百万トンの見込み。また2021/22年度の輸出量は前月予測から変更はなく、前年度比1.6%増の6.4百万トンの見込み。

ベトナム税関総局によれば、2021年1月から8月の間のコメの輸出量は398.6百万トンとなり、上位をフィリピン(154.3万トン)、中国(73.4万トン)、マレーシア(19.7万トン)が占めている。

USDA「Rice Outlook」(2021.9.14)によれば、ベトナム産米の価格は、新型コロナウイルス感染拡大防止に係る規制や都市封鎖による物流コストの上昇などにより、新規需要が乏しい中であってもこの一か月で上昇し、9月7日までの週の価格は8月10日までの週より15ドル/トン上昇し、395ドル/トンとなった。

ベトナム税関総局によれば、ジャポニカ米の2020年の輸出量は25.6万トンであり、2019年と比較して32.7%の下落。2021年も下落傾向が続き、2021年1月～7月の輸出量は8.6万トンになっている。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位：百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.1	27.4	27.1 (28.3)	-	▲ 1.2
消費量	21.3	21.2	21.3 (22.6)	-	0.5
輸出量	6.2	6.3	6.4 (6.4)	-	1.6
輸入量	0.4	1.2	0.5 (0.6)	-	▲ 58.3
期末在庫量	1.2	2.3	2.2 (3.2)	-	▲ 4.3
期末在庫率	4.3%	8.4%	8.0% (11.0%)	-	▲ 0.4

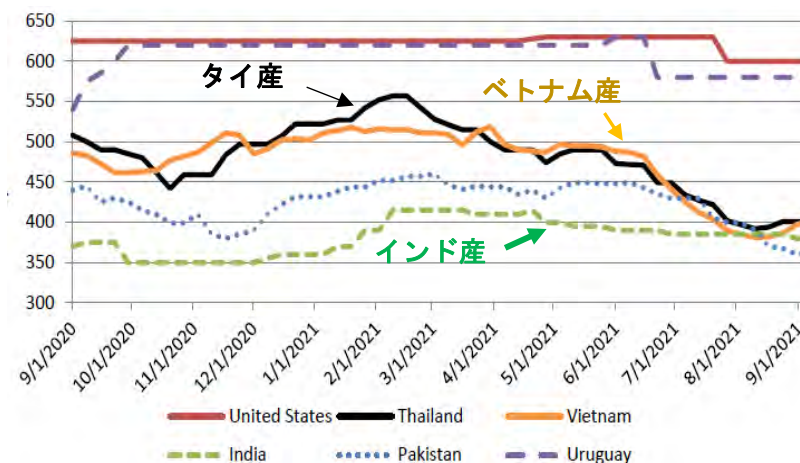
(参考)

収穫面積(百万ha)	7.38	7.36	7.35 (7.45)	-	▲ 0.1
単収(もみt/ha)	5.88	5.96	5.90 (3.80)	-	▲ 1.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)

IGC「Grain Market Report」(26 August 2021) (単収は精米t/ha)

図：長粒種のFOB価格の推移(タイとベトナムの輸出価格が同水準)



資料：USDA「Grain：World Markets and Trade」(2021.9.10)

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・カナダ等で下方修正も、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

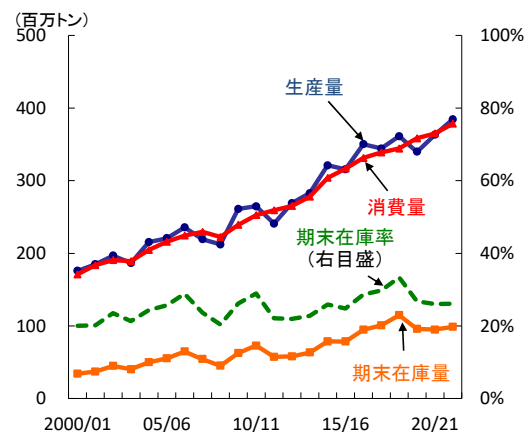
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・バングラデシュ等で上方修正も、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出力 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・米国で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2021. 9. 10）をもとに農林水産省で作成

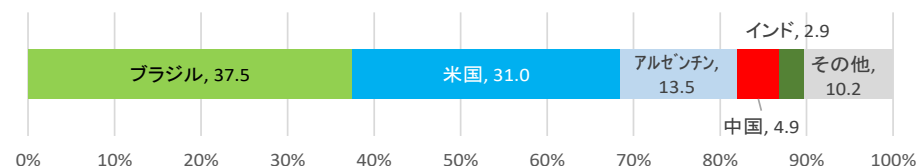
◎世界の大豆需給

(単位：百万トン)

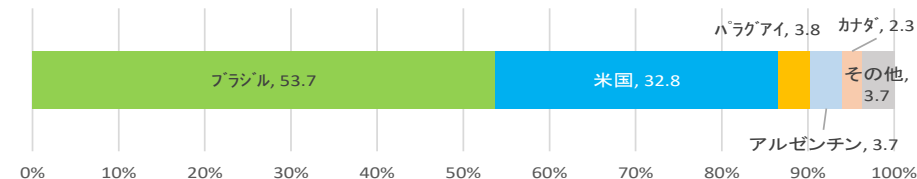
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率 (%)
生 産 量	339.7	363.3	384.4	0.8	5.8
消 費 量	358.4	365.1	378.4	▲ 0.2	3.6
うち搾油用	312.4	318.0	329.4	▲ 0.2	3.6
輸 出 量	165.1	165.7	173.2	0.8	4.5
輸 入 量	165.0	166.7	170.9	0.3	2.5
期末在庫量	95.9	95.1	98.9	2.7	4.0
期末在庫率	26.8%	26.0%	26.1%	0.7	0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（10 September 2021）

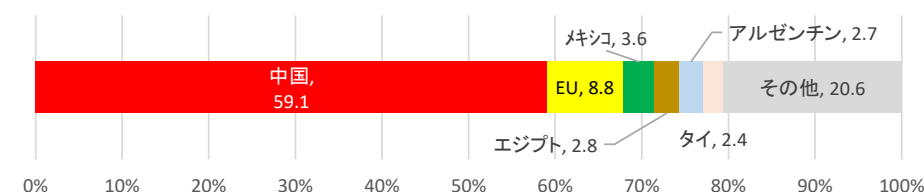
○ 2021/22 年度の世界の大豆の生産量 (384.4 百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸出力 (173.2 百万トン)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸入量 (170.9 百万トン)



（２）国別の大豆の需給動向

＜ 米国 ＞ 収穫面積増、単収上方修正で増産、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、アイオワ州、ミネソタ州等での単収の上方修正が収穫面積の下方修正を上回ったことから、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、前年度より 5.8%増の 119.0 百万トンの見込み。「Crop Progress」(2021.9.20)によれば、主要 18 州における落葉進捗率は、58%と前年度同期（56%）及び過去 5 年平均（48%）より進んでいる。収穫進捗率は、6%と前年度同期（5%）より進み、過去 5 年平均（6%）並みとなっている。作柄評価は、生育期のコーンベルト北西部の高温乾燥の影響により、良からやや良が 58%と前年度同期（63%）を下回っている。

【需要動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、飼料用向け大豆粕需要の下方修正から搾油用需要が前月予測から 0.7 百万トン下方修正された。なお、大豆由来のバイオ燃料需要の増加により前年度より搾油用需要を中心に増加することから、消費量は前年度より 2.4%増の 62.6 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の上方修正及び大豆価格の低下に伴い、前月予測から 1.0 百万トン上方修正されたものの、期首在庫の減少に伴う供給量の減少及び国内消費の増加に伴い、史上最高の輸出量となった前年度より 7.5%減の 56.9 百万トンの見込み。

USDAによれば、輸出検証高（2021年1月7日～9月2日）は、20.1 百万トンであり、内訳は中国（7.8 百万トン）、メキシコ（2.7 百万トン）、エジプト（1.4 百万トン）、インドネシア（1.3 百万トン）、日本（1.2 百万トン）の順。なお、8月29日に米国ガルフに上陸したハリケーン・アイダにより一部の穀物輸出施設が被害を受け、一時停電となったため、輸出が遅延している。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、前月予測から 0.8 百万トン上方修正され、前年度より 5.9%増の 5.0 百万トンの見込み。期末在庫率は 4.2%で依然として低水準の見込み。

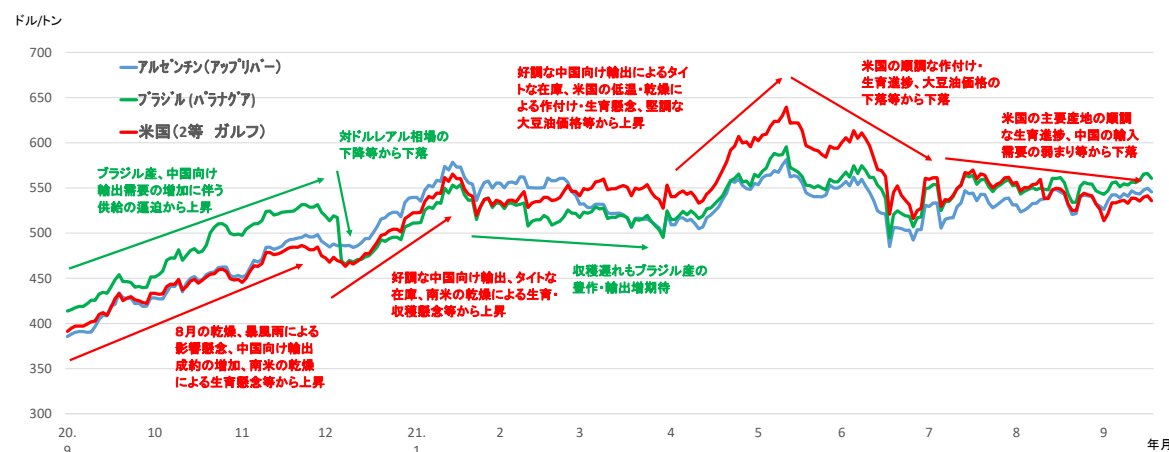
大豆－米国

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	96.7	112.6	119.0	1.0	5.8
消費量	61.9	61.1	62.6	▲ 0.7	2.4
うち搾油用	58.9	58.2	59.3	▲ 0.7	1.9
輸 出 量	45.7	61.5	56.9	1.0	▲ 7.5
輸 入 量	0.4	0.5	0.7	▲ 0.3	25.9
期末在庫量	14.3	4.8	5.0	0.8	5.9
期末在庫率	13.3%	3.9%	4.2%	0.7	0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.33	33.31	34.98	▲ 0.11	5.0
単収(t/ha)	3.19	3.38	3.40	0.04	0.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)

図：米国、ブラジル、アルゼンチン大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル > 収穫面積増で史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より5.1%増の144.0百万トンとなり、史上最高の見込み。2021/22年度の作付けは、9月から南部のパラナ州や中西部のマトグロッソ州などで開始されたものの、雨季のまとまった降雨を待って本格的に開始される。

また、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2021.9.9)によれば、2020/21年度の実産量は、前年度より8.9%増の135.9百万トンで史上最高の見込み。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用消費量の増加から、前年度より1.9%増の50.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加と世界的な需要増から前年度より13.4%増の93.0百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021年8月の輸出量は6.5百万トンで、前年同月(5.8百万トン)に比べ11.0%増。2021年1～8月の輸出量は72.7百万トンで、前年同期(74.6百万トン)に比べ2.5%減となっている。内訳は、1位が中国で50.1百万トン、2位がスペインで3.1百万トンとなっている。

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2021年2月以降大豆の収穫が行われ、その後、一部圃場で冬とうもろこしを栽培。

2020/21年度	2020年												2021年								
	1月	...	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
夏とうもろこし	リオグランデ・ド・スル州等												収穫 24.7(百万t)								
	作付 4.3(百万ha)												収穫夏冬計 85.7百万t								
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 19.9百万ha												作付 15.5(百万ha)								
	マトグロッソ州、パラナ州等												収穫 61.0(百万t)								
大豆	作付 38.5(百万ha)												大豆収穫後の一部圃場で冬とうもろこし播種								
													収穫 135.9(百万t)								

資料：CONAB穀物レポート(2021.9.9)

大豆—ブラジル

(単位：百万トン)

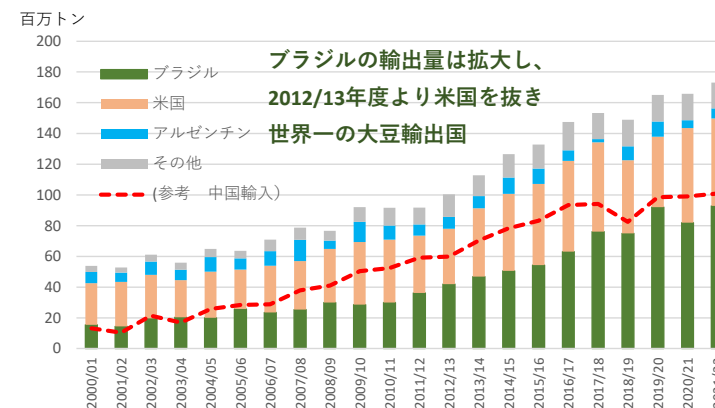
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	128.5	137.0	144.0 (141.5)	-	5.1	
消費量	49.4	49.4	50.4 (48.7)	-	1.9	
うち搾油用	46.7	46.8	47.7 (46.2)	-	2.0	
輸 出 量	92.1	82.0	93.0 (92.6)	-	13.4	
輸 入 量	0.6	1.0	0.7 (0.3)	-	▲ 35.0	
期末在庫量	20.0	26.6	27.9 (4.7)	0.5	4.9	
期末在庫率	14.1%	20.2%	19.5% (3.3%)	0.3	▲ 0.8	

(参考)

収穫面積(百万ha)	36.90	38.60	40.40 (39.90)	-	4.7
単収(t/ha)	3.48	3.55	3.56 (3.55)	-	0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)
IGC「Grain Market Report」(26 August 2021)

図：世界の大豆輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2021.9.10)のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ アルゼンチン ＞ 収穫面積増で増産見通しも輸出税継続

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より13.0%増の52.0百万トンの見込み。11月以降に作付けが本格的に開始される。なお、2020/21年度の収穫は7月下旬で終了した。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より4.9%増の50.4百万トンの見込み。なお、2020/21年度の消費量は、パラナ川の水位低下による大豆加工品の輸送への支障から、大豆の搾油コストが増加したことにより前月予測から0.7百万トン下方修正され、48.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より22.1%増の6.4百万トンの見込み。なお、2020/21年度の輸出量は、中国向け輸出の増加から前月予測から1.5百万トン上方修正され、5.2百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021年1～7月の輸出量は2.7百万トンで、前年同期（5.4百万トン）より49.1%減。内訳は、1位が中国153万トン、2位がエジプト60万トン、3位が米国5万トンとなっている。引き続き、7月26日に180日間の渇水の緊急事態宣言が発令されたパラナ川の水位低下に伴うアルゼンチンの穀物等の輸出への影響に注視が必要である。

アルゼンチンは、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2021年1月以降、輸出税を大豆33%、大豆粕及び大豆油31%に設定し、現在も継続中。

大豆－アルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	48.8	46.0	52.0 (49.0)	-	13.0
消費量	45.9	48.0	50.4 (47.6)	-	4.9
うち搾油用	38.8	40.8	43.0 (41.3)	-	5.4
輸出量	10.0	5.2	6.4 (6.5)	-	22.1
輸入量	4.9	5.1	4.7 (4.7)	-	▲ 7.8
期末在庫量	26.7	24.6	24.6 (6.9)	▲ 0.7	-
期末在庫率	47.8%	46.2%	43.4% (12.8%)	▲ 1.2	▲ 2.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.70	16.60	17.20 (16.50)	-	3.6
単収(t/ha)	2.92	2.77	3.02 (2.97)	-	9.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(10 September 2021)
IGC「Grain Market Report」(26 August 2021)

< 中国 > 収穫面積減で減産見通し、輸入量は約1億トン

【生産・生育状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.1%減の19.0百万トンの見込み。

中国糧油情報センター（2021.9.5）によれば、8月は産地の天候が温暖で適度な降雨があり、生長に有利となった。中国中央气象台（2021.9.3）によれば、黒竜江省等東北地区は、9月上旬現在、着莢期から子実肥大期に入っている。

【需給動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、過去10年間に比べて消費量の増加ペースはペースダウンするものの、前月予測からの変更はなく、前年度より4.6%増の117.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より2.0%増の101.0百万トンで史上最高の見込み。なお、2020/21年度の輸入量は、8月の旺盛な輸入を踏まえて前月予測から2.0百万トン上方修正され、99.0百万トンの見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～7月の輸入量は57.6百万トンと、前年同期比で4.5%増。内訳は、ブラジル産34.0百万トン（59%）、米国産21.6百万トン（38%）。なお、遅れていたブラジル産大豆の収穫・出荷の進展に伴い、7月の輸入量はブラジル産が7.9百万トンと91%を占めた。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報7月号」によると、7月、国産大豆の消費が引き続き弱まり、高温多湿の天候で大豆製品の保存が容易ではなかったことなどから大豆取引は低迷した。7月の国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）は前月からほぼ横ばいで、6,060元/トンで依然高水準である。一方、7月の国際価格（山東省の輸入大豆価格）は4,720元/トンと前月から下落し、内外価格差は拡大した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

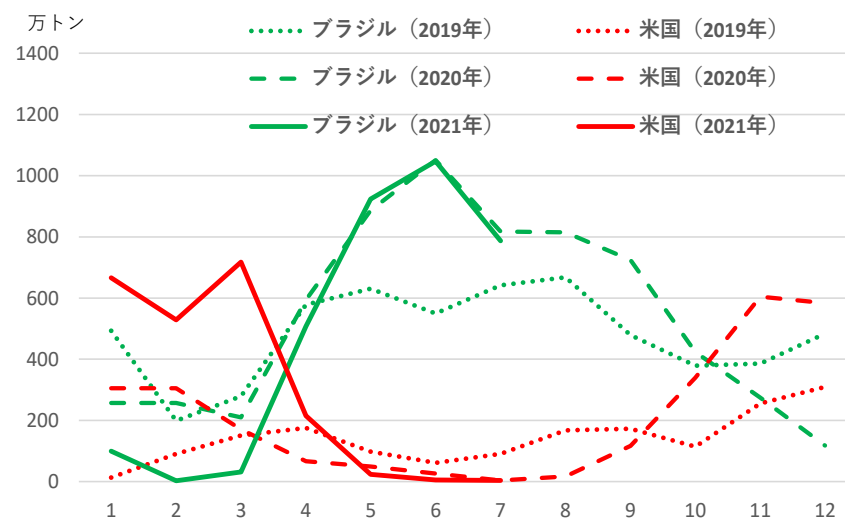
大豆－中国

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	18.1	19.6	19.0 (18.7)	-	▲ 3.1
消費量	109.2	112.5	117.7 (120.5)	-	4.6
うち搾油用	91.5	94.0	98.0 (101.5)	-	4.3
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	25.0
輸 入 量	98.5	99.0	101.0 (102.3)	-	2.0
期末在庫量	26.8	32.8	35.0 (34.5)	2.0	6.7
期末在庫率	24.5%	29.1%	29.7% (28.6%)	1.7	0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.30	9.87	9.60 (9.35)	-	▲ 2.7
単収(t/ha)	1.95	1.99	1.98 (1.99)	-	▲ 0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 September 2021)
IGC「Grain Market Report」(26 August 2021)

図：中国におけるブラジル、米国産大豆の輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

＜ カナダ ＞ 西部での高温乾燥の影響で減産の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、西部カナダでの乾燥の影響による単収の下方修正に伴い、前月予測から 0.2 百万トン下方修正され、前年度より 7.2%減の 5.9 百万トンの見込み。

なお、カナダ統計局「Model-based principal field crop estimates, August 2021」（2021.9.14）によれば、収穫面積は前年度より 4.8%増の一方、単収は西部カナダの乾燥の影響からマニトバ州等で大幅に減少することから、生産量は前年度より 7.4%減の 5.9 百万トンの見込み。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」（2021.9.21）によれば、大豆生産面積の約 7割を占める東部カナダのオンタリオ州、ケベック州では温暖で雨がちな天候となった。一方、西部カナダの平原 3州では、温暖で乾燥天候が広がった。

産地のマニトバ州クロップレポート（2021.9.21）によれば、収穫進捗率は 13%で、過去 5年平均（17%）より遅れている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、生産量の下方修正に伴い搾油用需要が前月予測から 0.1 百万トン下方修正され、前年度より 3.2%減の 2.4 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の下方修正に伴い前月予測から 0.1 百万トン下方修正され、前年度より 12.0%減の 4.0 百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会（Canadian Grain Commission）によれば、2020/21年度（2020年8月～2021年7月）の輸出量は 363.7 万トンで、国別では、イラン（86.3 万トン）、イタリア（38.6 万トン）、アルジェリア（35.6 万トン）の順。

写真：西部マニトバ州の大豆収穫中のほ場風景
（9月7日撮影）

大豆－カナダ

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.1	6.4	5.9 (6.0)	▲ 0.2	▲ 7.2
消費量	2.6	2.5	2.4 (2.4)	▲ 0.1	▲ 3.2
うち搾油用	1.8	1.6	1.7 (1.8)	▲ 0.1	0.5
輸出量	3.9	4.5	4.0 (4.1)	▲ 0.1	▲ 12.0
輸入量	0.3	0.5	0.5 (0.4)	0.1	▲ 3.1
期末在庫率	0.6	0.5	0.5 (0.4)	0.1	0.4
期末在庫率	9.7%	6.9%	7.5% (5.4%)	1.4	0.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	2.27	2.04	2.10 (2.15)	-	2.9
単収(t/ha)	2.71	3.12	2.81 (2.79)	▲ 0.09	▲ 9.9

資料：USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(10 September 2021)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(20 August 2021)



(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2021/22年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	21年6月～22年5月	21年9月～22年8月	21年8月～22年7月	21年9月～22年8月
カナダ	21年8月～22年7月			21年8月～22年7月
豪州	21年10月～22年9月		22年3月～23年2月	
EU	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		
中国	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月
ロシア	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		21年9月～22年8月
ブラジル		22年3月～23年2月	22年4月～23年3月	21年10月～22年9月
アルゼンチン	21年12月～22年11月	22年3月～23年2月		21年10月～22年9月
タイ			22年1月～12月	
インド	21年4月～22年3月		21年10月～22年9月	
ベトナム			22年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2021/22年度は、米国の小麦では2021年6月～2022年5月、ブラジルのとうもろこしでは2022年3月～2023年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

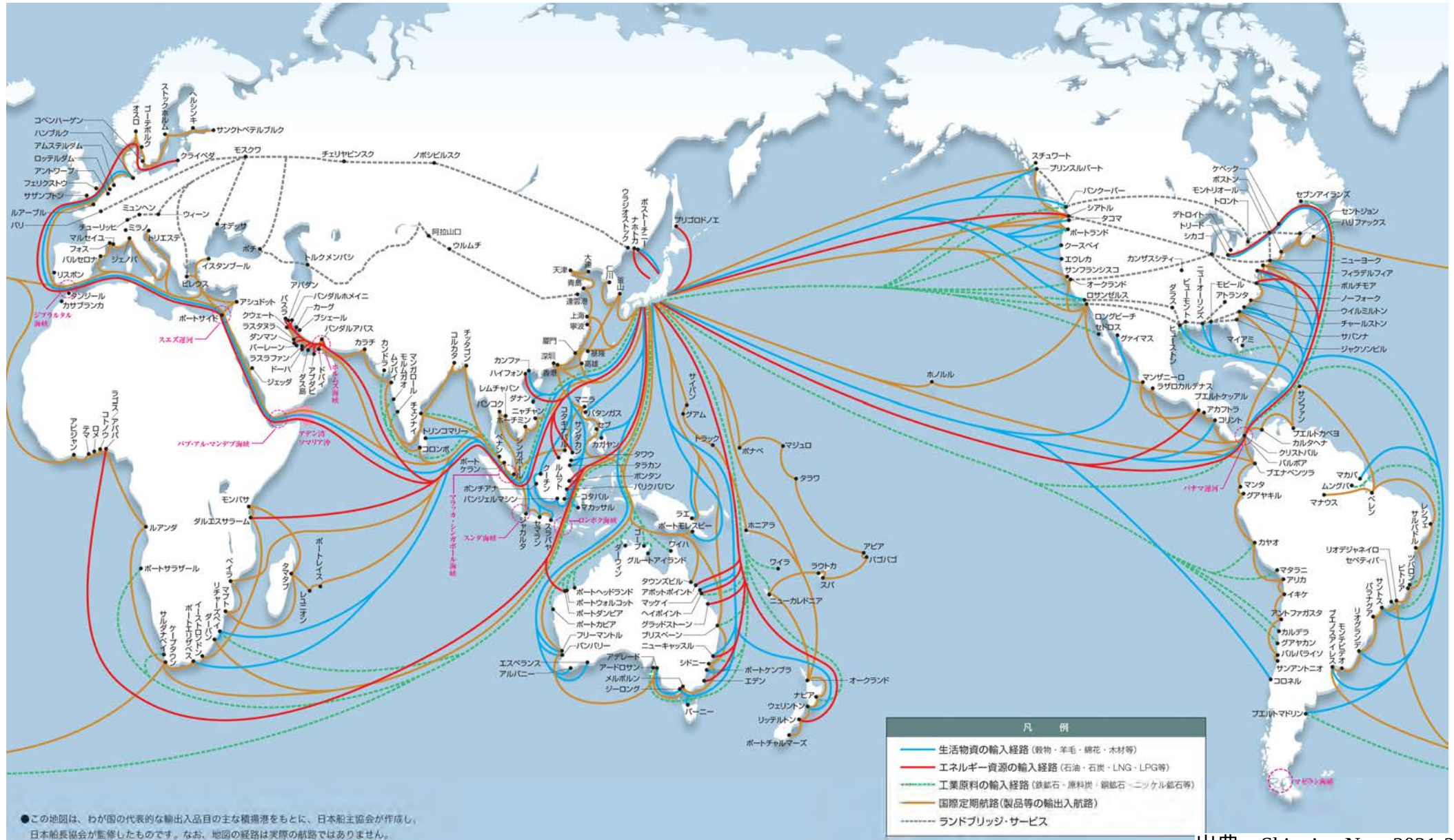
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

第3号特別分析トピック：我が国の農産物輸入における海運事情（外航編）

我が国の主要海運ルート

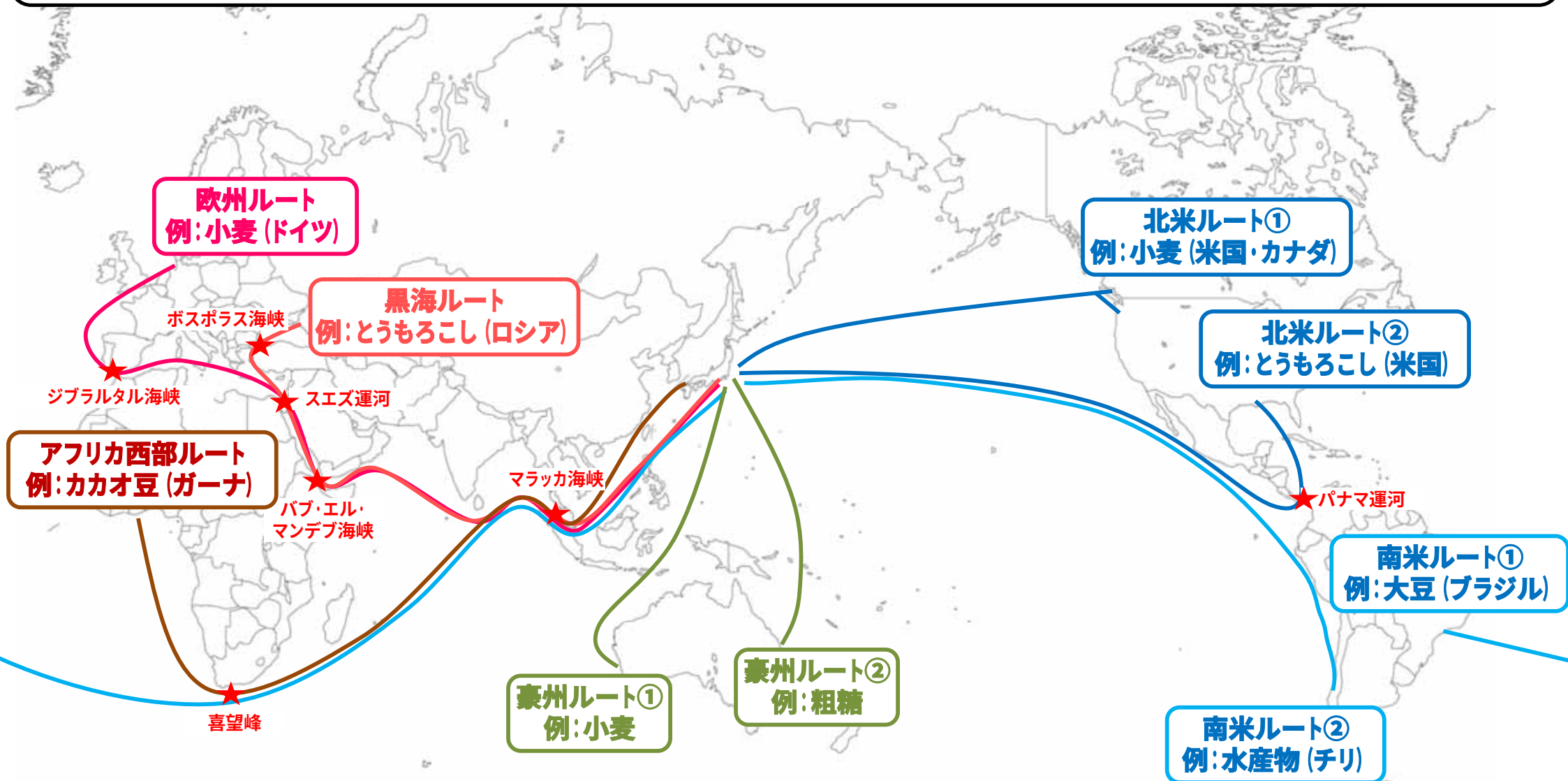
- 島国である我が国は、農産物や資源をはじめ、あらゆる商品の輸入の多くを海上輸送に依存している。
- 北南米や欧州からの輸入では、スエズ運河やパナマ運河等のチョークポイントも多く利用されている。

※ チョークポイント: 物資輸送ルートとして広く使われている狭い海峡。



海外から日本への主な農産物輸入ルート

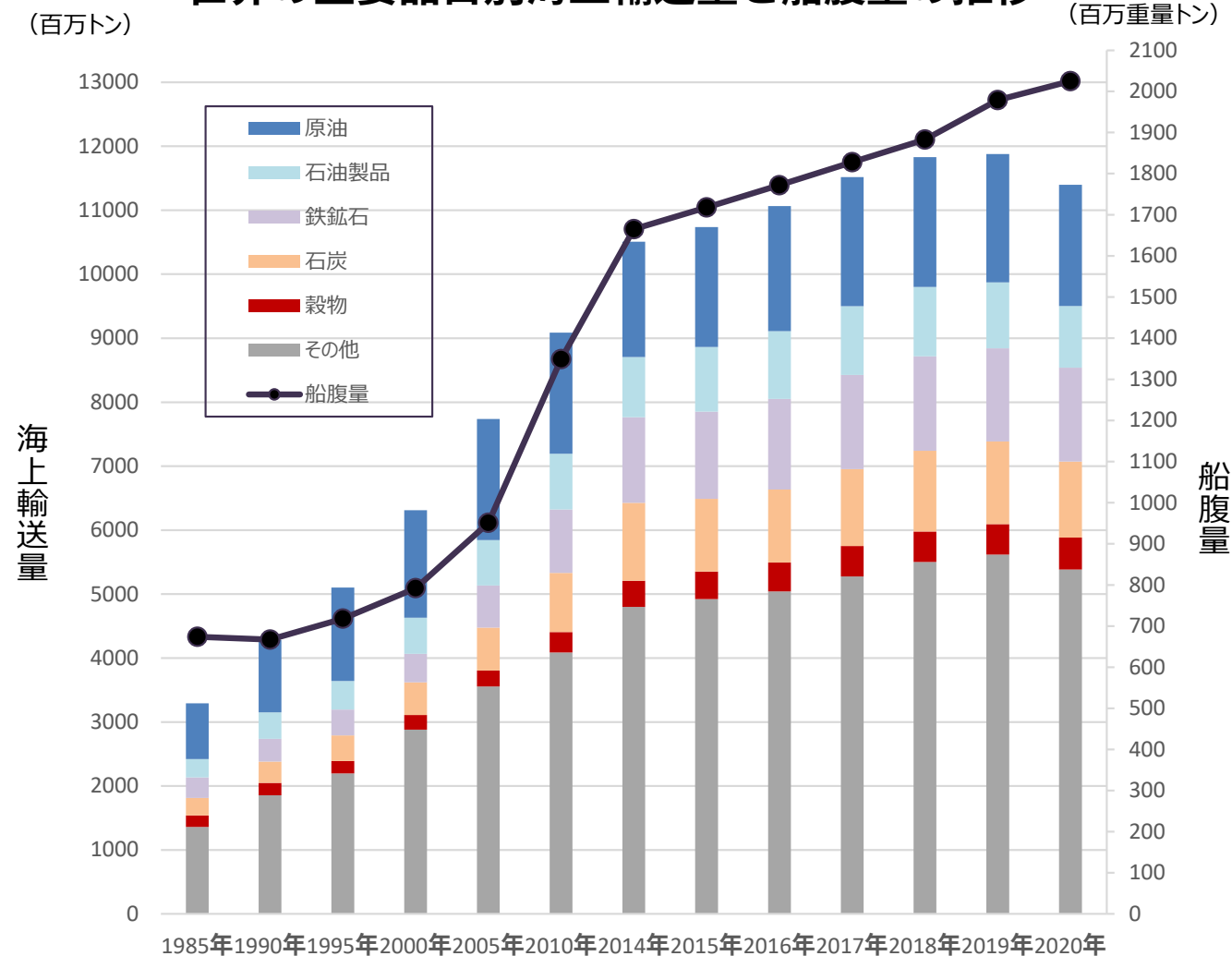
- 我が国は北南米・ユーラシア・豪州・アフリカの各大陸から様々な農産物を輸入している。
- 主な海路の殆どはチョークポイントを通過。欧州ルート・黒海ルートではスエズ運河やマラッカ海峡を、北米ルートではパナマ運河、南米（ブラジル）ルートでは喜望峰・マラッカ海峡を通過する。
- チョークポイントを全く経由しないのは北米西海岸、南米西海岸、豪州のみである。



世界の海上輸送における商品や船種の割合

- 海上輸送量の多い商品は、原油・鉄鉱石・石炭等のエネルギー資源となっており、穀物は全体の5%程度である。
- 船種別にみると、鉄鉱石や穀物を運搬するばら積乾貨物（ドライバルク）が34%、オイルタンカーが20%と多く、食品等様々な商品を運ぶコンテナ船も18%を占める。

世界の主要品目別海上輸送量と船腹量の推移



船種別船腹量(2020年)

順位	船種別	万総トン	構成比 (%)
1	ばら積乾貨物	48067	33.6
2	オイルタンカー	29157	20.4
3	コンテナ船	25283	17.7
4	旅客船・RORO船等	9546	6.7
5	液化ガス船	8589	6
6	ケミカル船	7615	5.3
7	一般貨物船	5782	4
8	油・貸兼用船	110	0.1
	その他	8814	6.2
	世界計	142963	100

出典：Clarksons「SHIPPING REVIEW DATABASE」、IHS「WORLD FLEET STATISTICS」、Lloyd's Register of Shipping「STATISTICAL TABLES」、Fearnleys「REVIEW」、日本海事広報協会 SHIPPING NOW 2021-2022

我が国の船舶登録数と船舶保有状況

- 我が国の船舶登録数は世界第10位で国別保有割合で2%である。ただし外国船籍割合が多い(84%)。
- 船会社の保有隻数でみた場合、我が国は世界シェアで11%であり、中国と並ぶ高い割合である。

船舶登録別船腹量(順位)

順位	国別	隻数	万総トン	国別保有割合(%)
	世界合計	123,488	142,963	100.0
1	パナマ	8,187	22,643	15.8
2	リベリア	3,948	18,753	13.1
3	マーシャル諸島	3,815	16,573	11.6
4	香港	2,596	12,891	9.0
5	シンガポール	3,100	8,822	6.2
6	マルタ	2,097	8,051	5.6
7	中国	6,927	6,203	4.3
8	バハマ	1,288	5,909	4.1
9	ギリシャ	1,319	3,716	2.6
10	日本	5,308	2,882	2.0
11	キプロス	1,057	2,330	1.6
12	デンマーク	652	2,216	1.6
13	インドネシア	10,312	2,084	1.5
14	ノルウェー	686	1,743	1.2
15	ポルトガル	610	1,710	1.2
16	イタリア	1,477	1,436	1.0
17	マン島	311	1,320	0.9
18	米国	3,051	1,294	0.9
19	韓国	5,725	1,194	0.8
20	イラン	1,102	1,184	0.8
	その他	59,920	20,009	14.0

出典：UNCTAD「REVIEW OF MARITIME TRANSPORT」(注)2020年1月の数値。

		隻数	船腹量(千載貨重量トン)			外国籍船割合(%)	世界シェア(%)	アジア主要国シェア(%)
			自国籍船	外国籍船	合計			
アジア主要国	日本	3,910	36,805	196,330	233,135	84.21	11.4	51.3
	中国	6,869	99,484	128,893	228,377	56.44	11.2	
	韓国	1,615	14,403	66,180	80,583	82.13	3.9	48.7
	香港	1,690	72,505	28,452	100,957	28.18	4.9	
	シンガポール	2,861	74,754	62,546	137,300	45.55	6.7	
	台湾	990	6,636	44,255	50,891	86.96	2.5	
	マレーシア	620	6,379	2,165	8,544	25.34	0.4	
	インド	1,042	16,800	9,035	25,836	34.97	1.3	
	インドネシア	2,208	22,301	1,604	23,906	6.71	1.2	
	ベトナム	1,060	8,391	2,357	10,748	21.93	0.5	
アジア主要国合計		22,865	358,458	541,817	900,277	60.18	44.0	100.0
アジア主要国以外		30,096	218,483	929,218	1,147,698	80.96	56.0	
世界合計		52,961	576,941	1,471,035	2,047,975	71.83	100.0	

[注] 対象船舶は1,000総トン以上の船舶である。

(注) ①中国には、香港及び台湾を含まない。

②各国の海外自治領、第二船籍制度については本国の船籍に含めた。

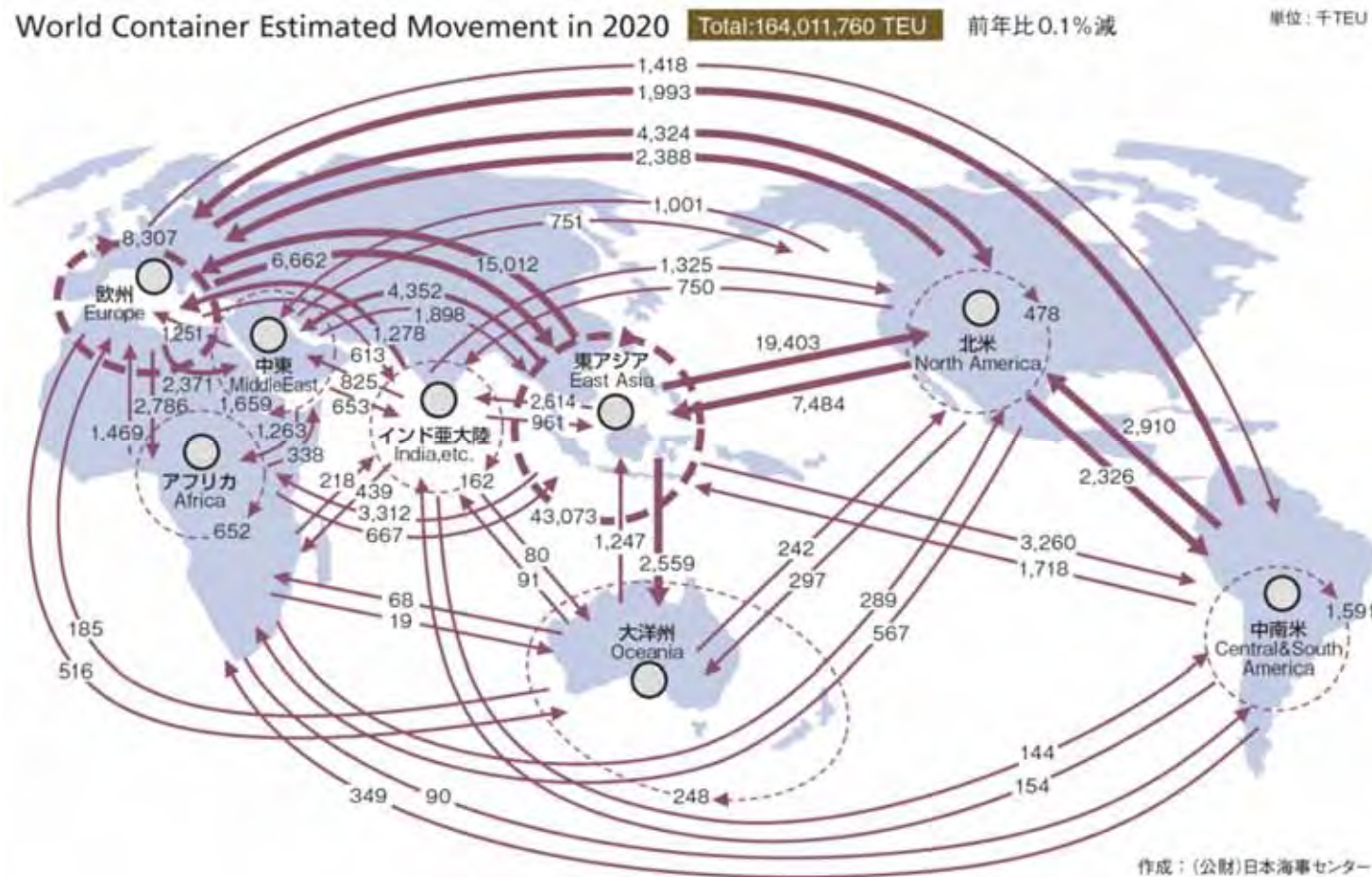
③2020年末の数値。

④端数処理のため、末尾の数字が合わない場合がある。

世界のコンテナの荷動きと主要港のコンテナ取扱量

- 世界でコンテナ取扱量が多いのは、上海・シンガポールなどアジア地域のハブ港湾である。
- 特に中国港湾の取扱量が多く、上位10位のうち8港湾が中国となっている。

世界のコンテナの荷動き



出典: SHIPPING NOW 2021-2022

世界主要港2019年コンテナ取扱量

順位	18年順位	港	国	取扱量 (千TEU)	前年比
1	1	上海	中国	43303	3.1
2	2	シンガポール	シンガポール	37196	1.6
3	3	寧波	中国	27530	4.5
4	4	深圳*	中国	25770	0.1
5	5	広州	中国	23236	6
6	6	釜山	韓国	21992	1.5
7	8	青島	中国	21010	8.8
8	7	香港	中国	18361	▲6.3
9	9	天津	中国	17264	8.1
10	11	ロッテルダム	オランダ	14811	2.1
11	10	ドバイ	アラブ首長国連邦	14111	▲5.6
12	12	ポートクラウン	マレーシア	13581	10.3
13	13	アントワープ	ベルギー	11860	6.8
14	14	厦門	中国	11122	3.9
15	15	高雄	台湾	10429	▲0.2
16	17	ロサンゼルス	米国	9338	▲1.3
17	19	ハンブルグ	ドイツ	9274	6.2
18	18	PTP (タンジュペラバス)	マレーシア	9100	1.6
19	16	大連	中国	8760	▲10.3
20	21	レムチャパン	タイ	8107	0.5
21	20	ロングビーチ	米国	7632	▲5.7
22	22	タンジュプリオク	インドネシア	7600	▲0.5
23	23	ニューヨーク・ニュージャージー	米国	7471	4.1
24	24	コロンボ	スリランカ	7228	2.6
25	25	ホーチミン	ベトナム	7220	9.6
26	32	ピレウス	ギリシャ	5648	15.1
27	26	営口	中国	5480	▲15.5
28	29	バレンシア	スペイン	5440	6.1
29	30	マニラ	フィリピン	5316	4.5
30	31	太倉	中国	5152	1.6

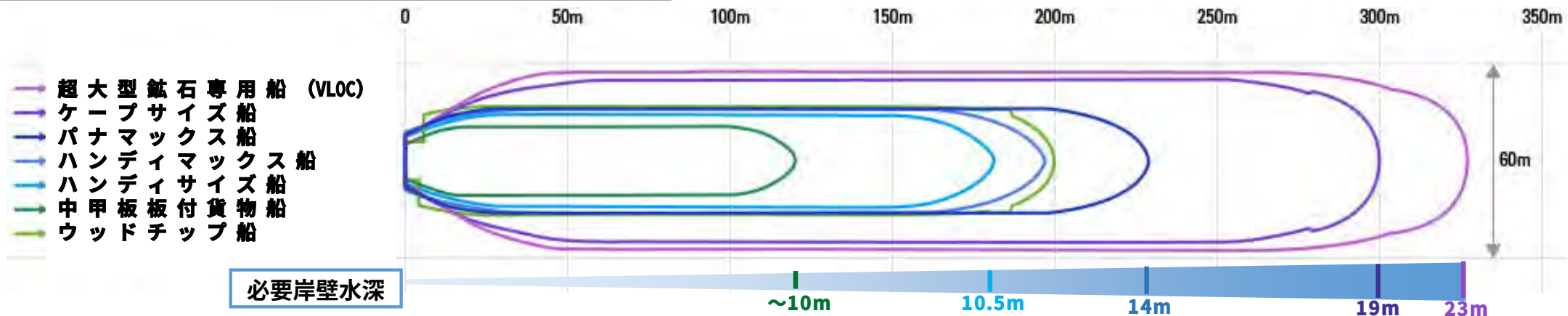
出典: Lloyd's List One Hundred Ports 2020

注: 確定値。取扱量単位は千TEU。* 深圳は赤湾、蛇口、塩田の3港の合計

バルク船の種類

- バルク船は大きさにより4～6分類。近年は輸送効率化のために大型化の傾向。
- 一方、大型化すると、パナマ運河やスエズ運河を通過できなくなり航路が限定される、水深不足により寄港地が制限される、などの課題がある。
- 鉄鉱石や石炭等の資源は大型船が利用されるが、穀物は主にハンディサイズ船やハンディマックス船など小・中型船が利用されている。

ドライバルク船の種類と大きさ

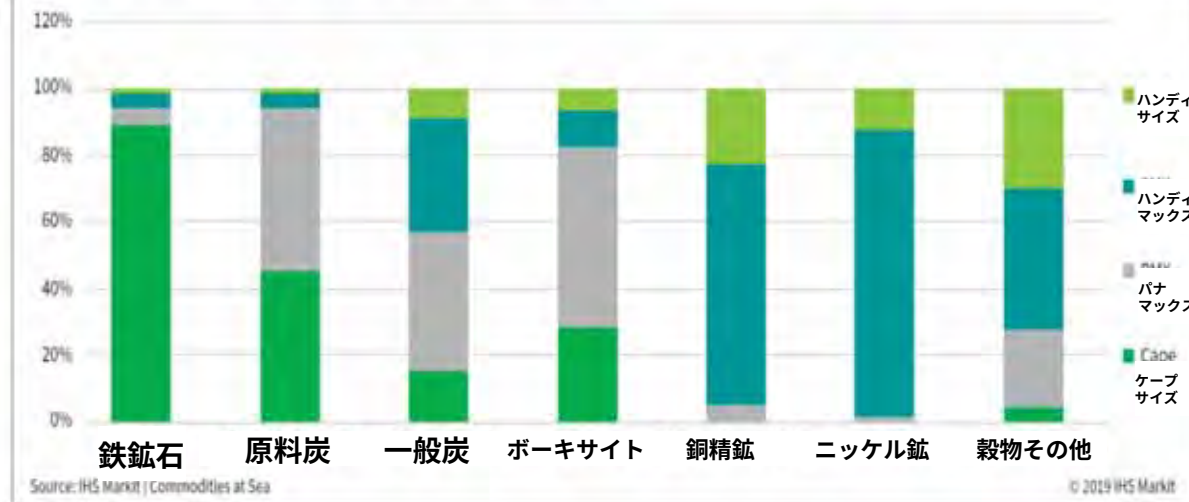


主なドライバルク船



1. ハンディサイズ船 (Handysize Ships)
 - 1.5～3.5万トン(※)を運搬可能。
 - 世界のドライバルク船の約34%を占める。
 - ※ 船の重量を含まない載貨重量トン(DWT)
2. ハンディマックス船・スープラマックス船 (Handymax Ships or Supramax Ships)
 - 4.5～5.9万トンを運搬可能。
 - 世界のドライバルク船の約37%を占める。
3. パナマックス船 (Panamax Ships)
 - 6.0～8.0万トンを運搬可能。
 - パナマ運河を航行可能な限界サイズ。
 - 世界のドライバルク船の約19%を占める。
4. ケープサイズ船 (Capesize Ships)
 - 10万トン以上を運搬可能。
 - パナマ運河は航行不可。
 - 世界のドライバルク船の約10%を占める。

商品ごとの主なドライバルク船の割合



出典: "Shipping and Freight Resource", "IHS Markit, Commodities at Sea", 「バルクキャリアの寄港実績と船型動向分析」

輸出国における穀物の輸送ルート

- 農家で収穫された穀物は、一旦農家で保管された後、各産地の穀物倉庫（エレベーター）に集約される。
- その後、①^{はしけ} 舢舨（バージ船）による河川輸送、②鉄道輸送、③トラック輸送、により輸出港のエレベーターに移送された後、検査などを経て輸出される。
- 北米のような長距離鉄道の場合、効率化の観点から、「マイルトレイン」（1マイル 1.6キロ）と呼ばれる長さ数キロに及ぶ貨車で運ばれることが多い。

鉄道輸送
貨車全体の長さ
約1～5.5km

圃場

トラック輸送
主に産地から
エレベーターへ輸送

輸出港

河川輸送
バージ船1つ分の長さ
60m（※通常複数を同時輸送）

○ 輸送手段の積載量の目安(6万t)



本船
 $\times 1 =$



バージ船
 $\times 40 =$



貨車
 $\times 600 =$

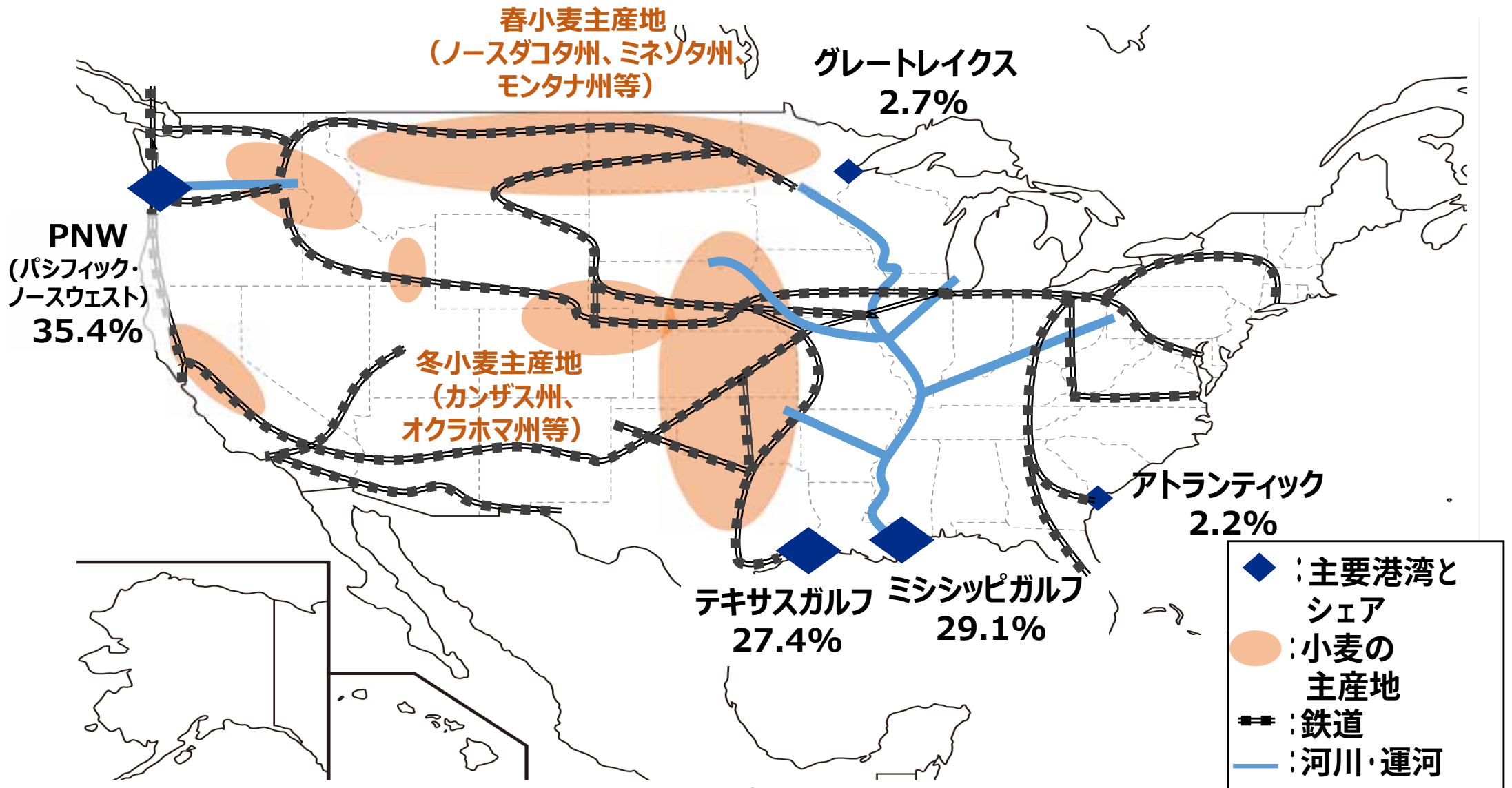


トラック
 $\times 2320$

出典：jill A Hough「LOGISTICS OF THE U.S.WHEAT INDUSTRY」

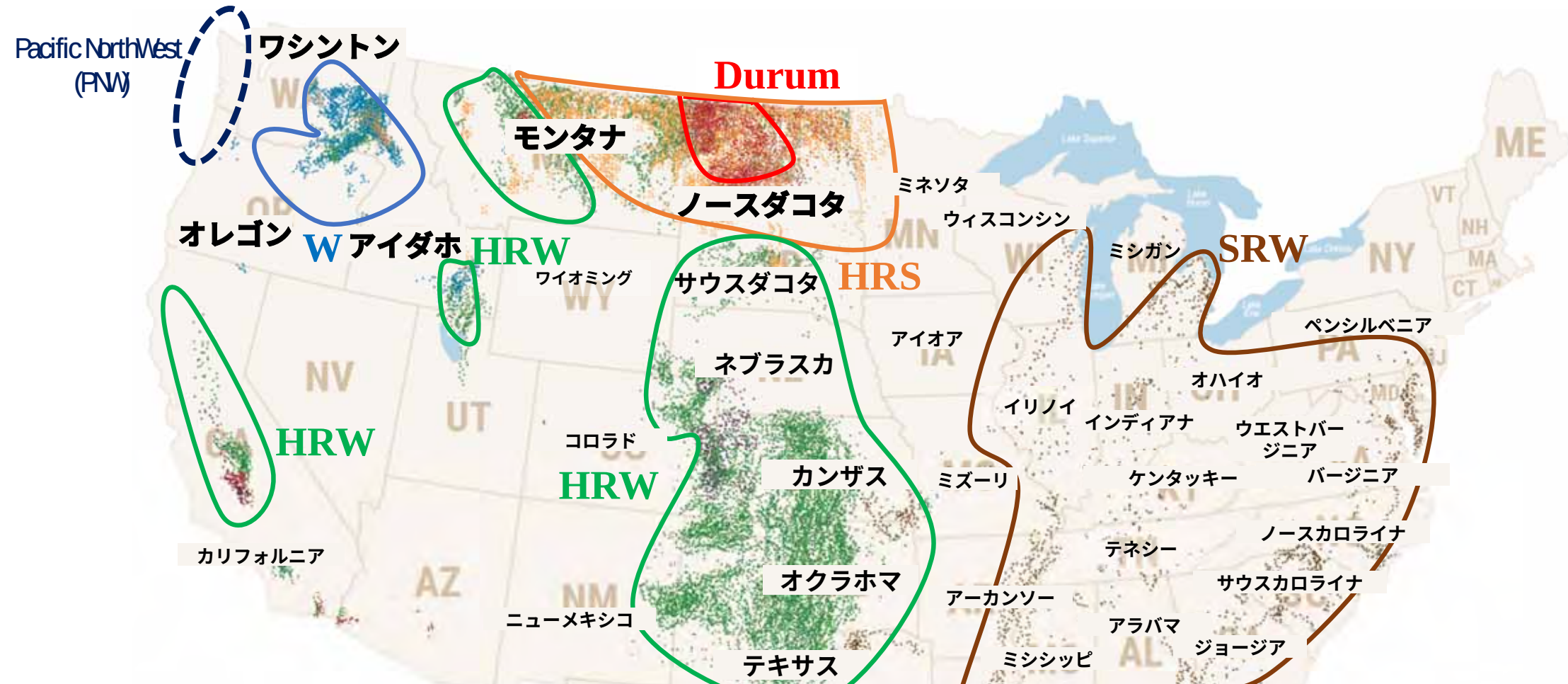
米国輸出時の穀物輸送経路（小麦）

- 主産地である中西部から、鉄道・トラック・バージ船により各港湾に輸送される。
- PNW（パシフィック・ノースウエスト）の輸出量が最も多く、次いでメキシコ湾のミシシッピガルフやテキサスガルフが多く、これら三地域の港湾で総輸出の9割以上を占める。
- PNWはアジア地域への輸出が多く、我が国への小麦の輸出もほぼ全量がPNWである。



米国の小麦産地（主要銘柄別）

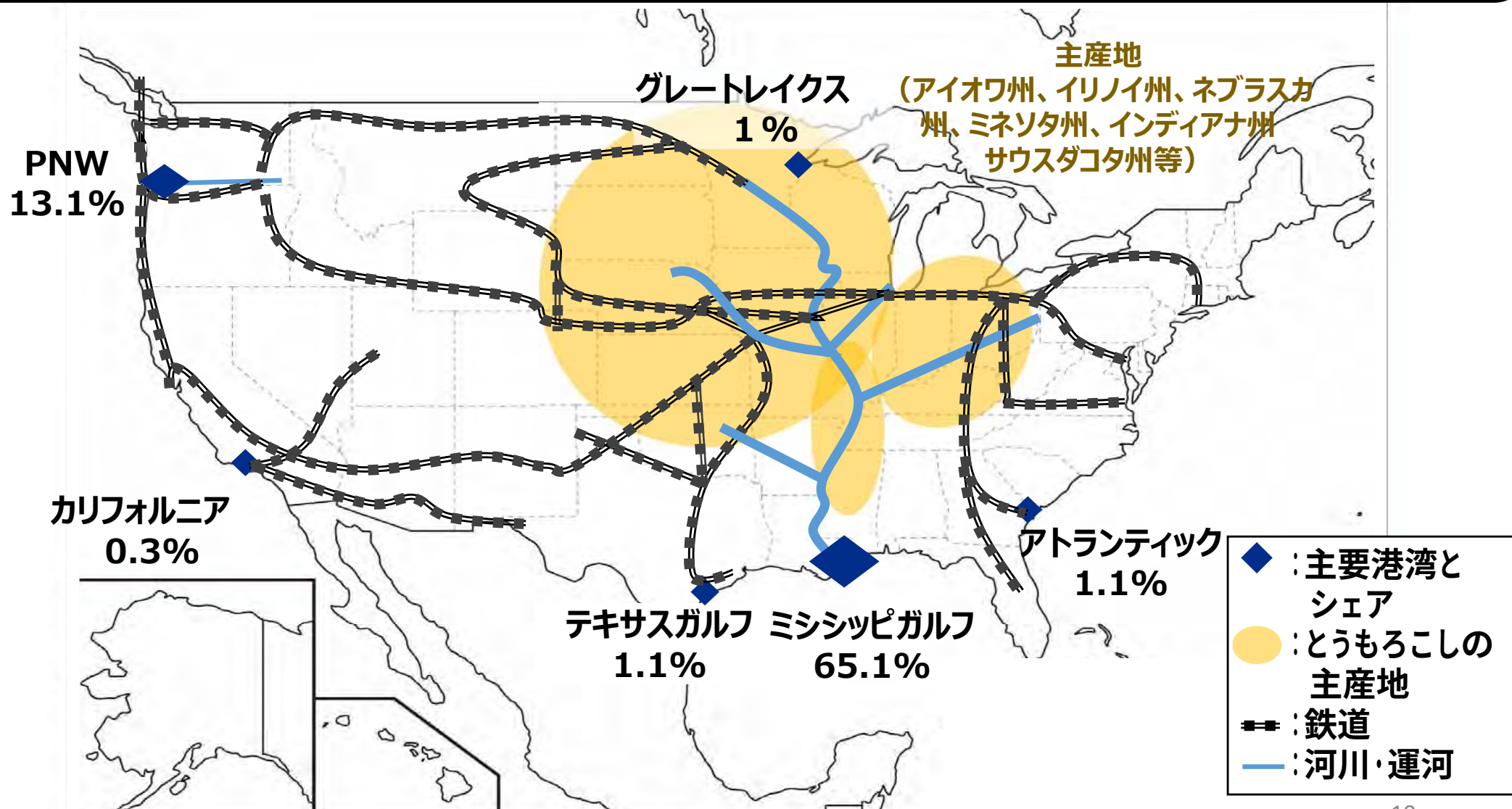
- 米国産小麦のうち、日本向けは高スペック（等級・成分）のものが多く輸出される。
- 西海岸の主要輸出エリアであるPNW(パシフィック・ノースウエスト)から輸出される小麦のうち、日本向けは17%であり、フィリピン(22%) 及び中国(19%) に次いで多い。



- 日本へ輸出される主な小麦品種
 - ・HRW(ハード・レッド・ウインター)：モンタナ州等北部が日本向け主要産地で、2等以上をパン・中華めん用として輸入。
 - ・HRS(ハード・レッド・スプリング)：HRSのうちDNS(ダーク・ノーザン・スプリング)の2等以上をパン用として輸入。
 - ・Durum(デュラム)：パスタ用として輸入。
 - ・W(ホワイト)：SW(ソフト・ホワイト)とWC(ホワイト・クラブ)を混合したWW(ウエスタン・ホワイト)を、菓子用（ケーキ、ビスケット等）として輸入。
 - ・SRW(ソフト・レッド・ウインター)：米国では主に製菓用及び飼料用だが、日本は殆ど輸入していない。

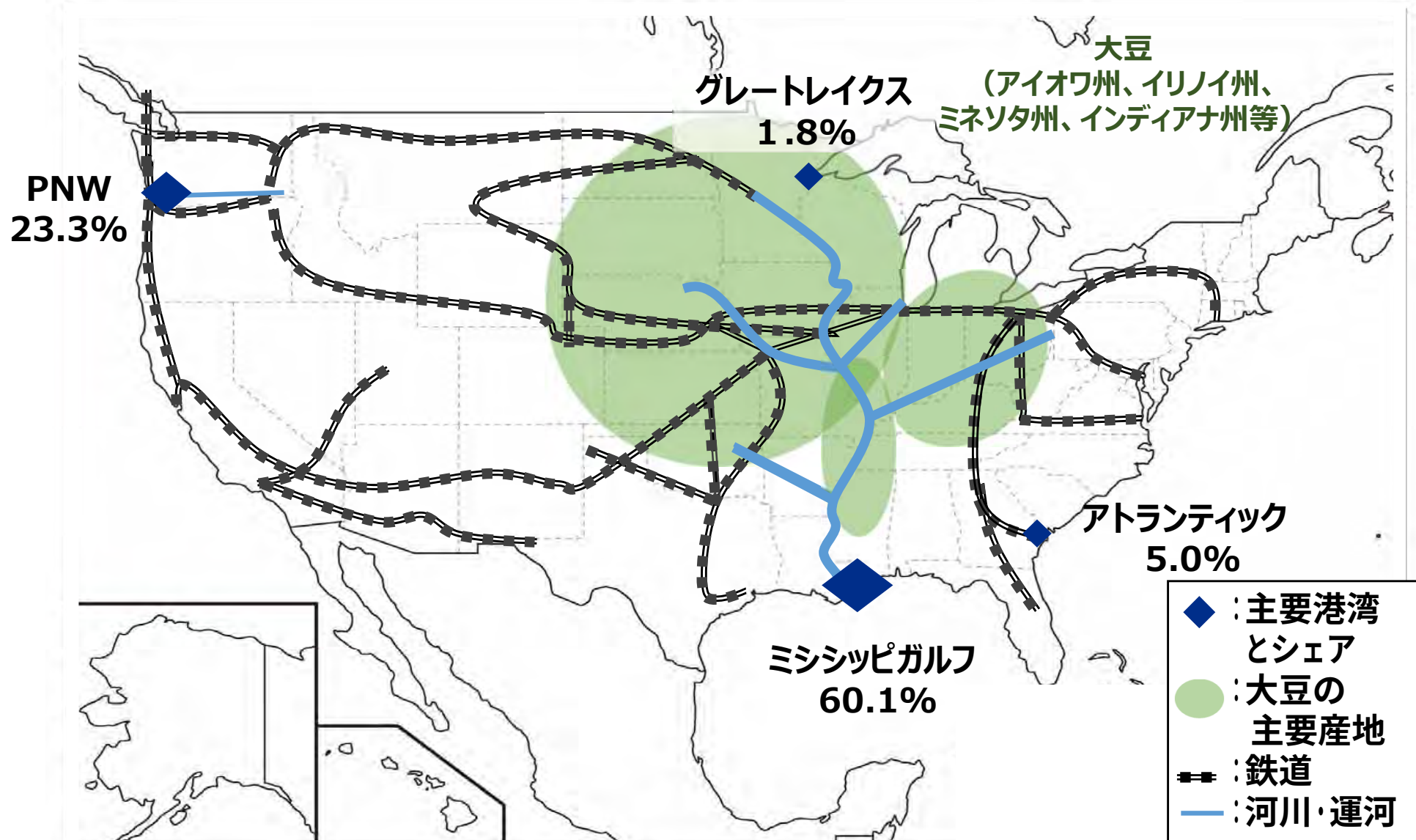
米国輸出時の穀物輸送経路（とうもろこし）

- 降水量の多い五大湖西部が主産地であり、そこから南に下るミシシッピ川を使った^{はしけ}船輸送が多い。ミシシッピガルフが総輸出量の約7割を占める。
- PNWからの輸出割合は小さいが、アジア地域への輸出の場合、海運距離が短くパナマ運河を通る必要もないため、ガルフより輸送コストが割安となる場合がある。我が国輸出への利用港も相場により変化する。



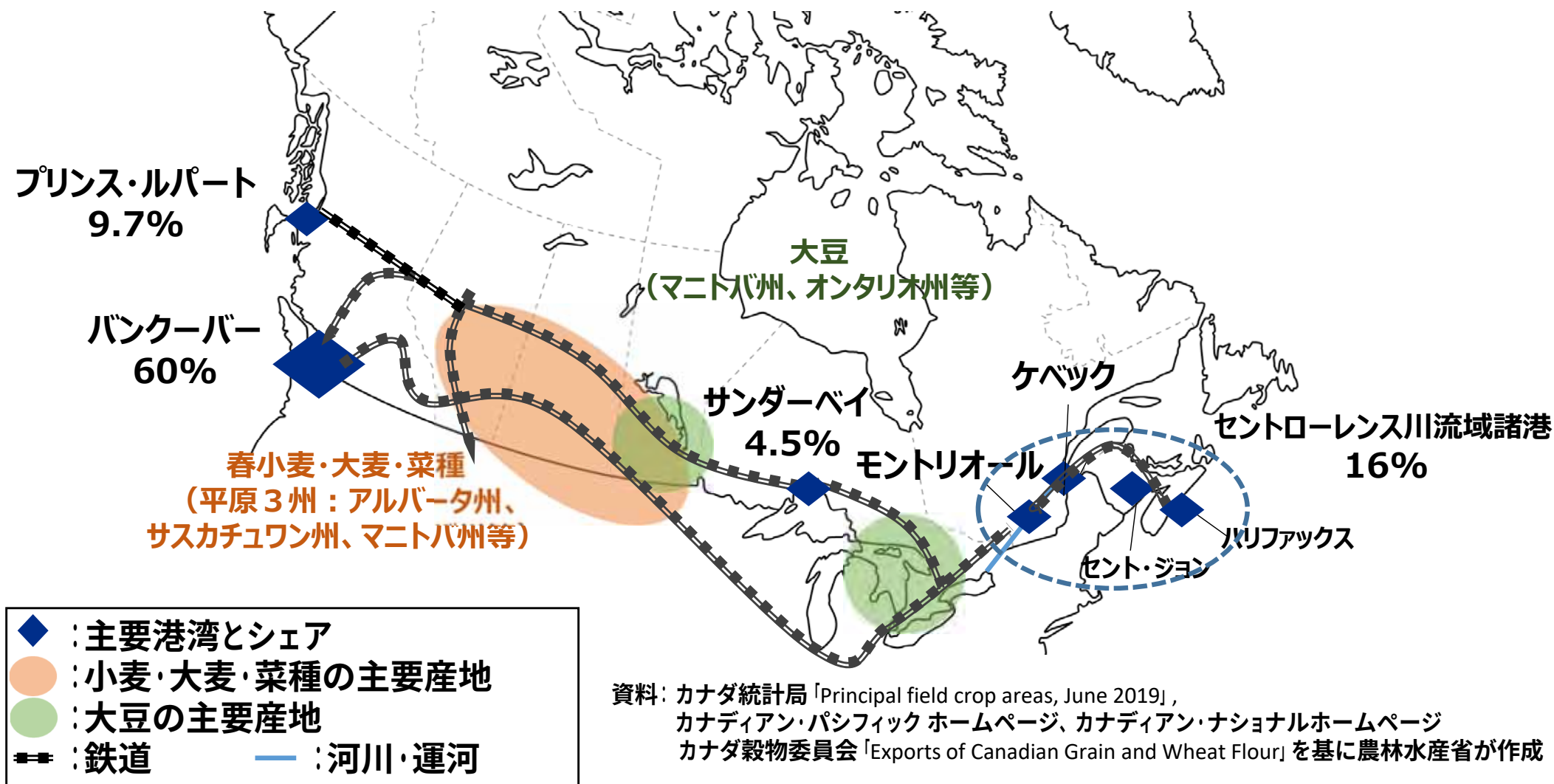
米国輸出時の穀物輸送経路（大豆）

- 産地はとうもろこしと類似しており五大湖西部で、とうもろこし同様にミシシッピ川を使った船輸送が多い。ミシシッピガルフが総輸出量の約6割を占め、我が国への輸出も大半が同地域港湾である。
- PNW経由は約2割だが、とうもろこし同様、ガルフより輸送コストが割安となり利用が増える場合もある。



カナダ輸出時の穀物輸送経路（小麦・大麦・菜種・大豆）

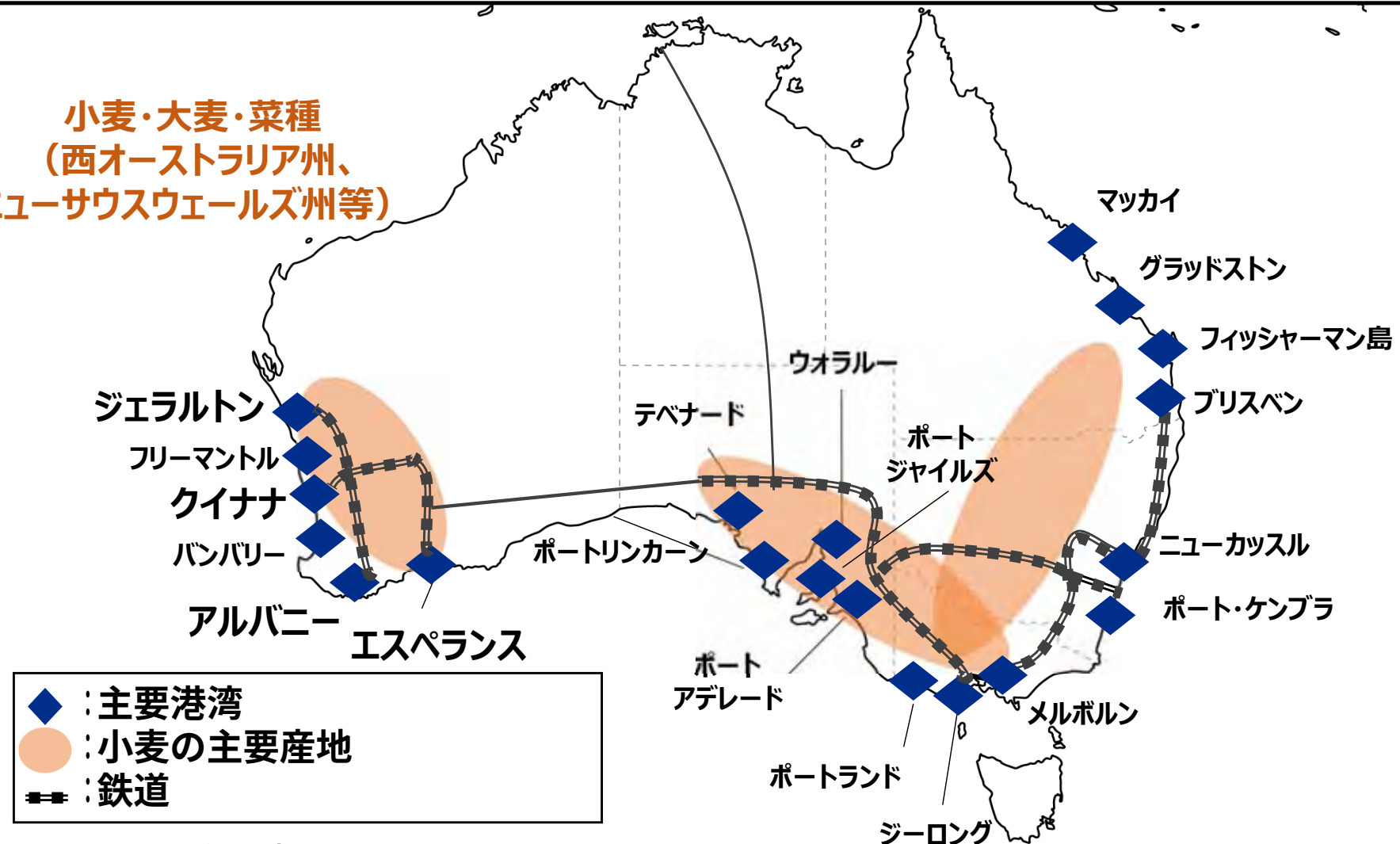
- 小麦・大麦・菜種はカナダ西部の平原3州が主産地である。大きな河川も無く、長距離輸送は主に鉄道が利用される。一方、鉄道は殆どが単線で老朽化も進んでおり、冬季の寒波等による遅延もしばしば発生する。
- アジア地域への輸出が多いため、西海岸のバンクーバー港からの輸出が多く、我が国への小麦・大麦・菜種輸出の大宗が同港を経由している。大豆産地は東部であるため五大湖を南下（一部は東部港から輸出）する。



豪州輸出時の穀物輸送経路（小麦・大麦・菜種）

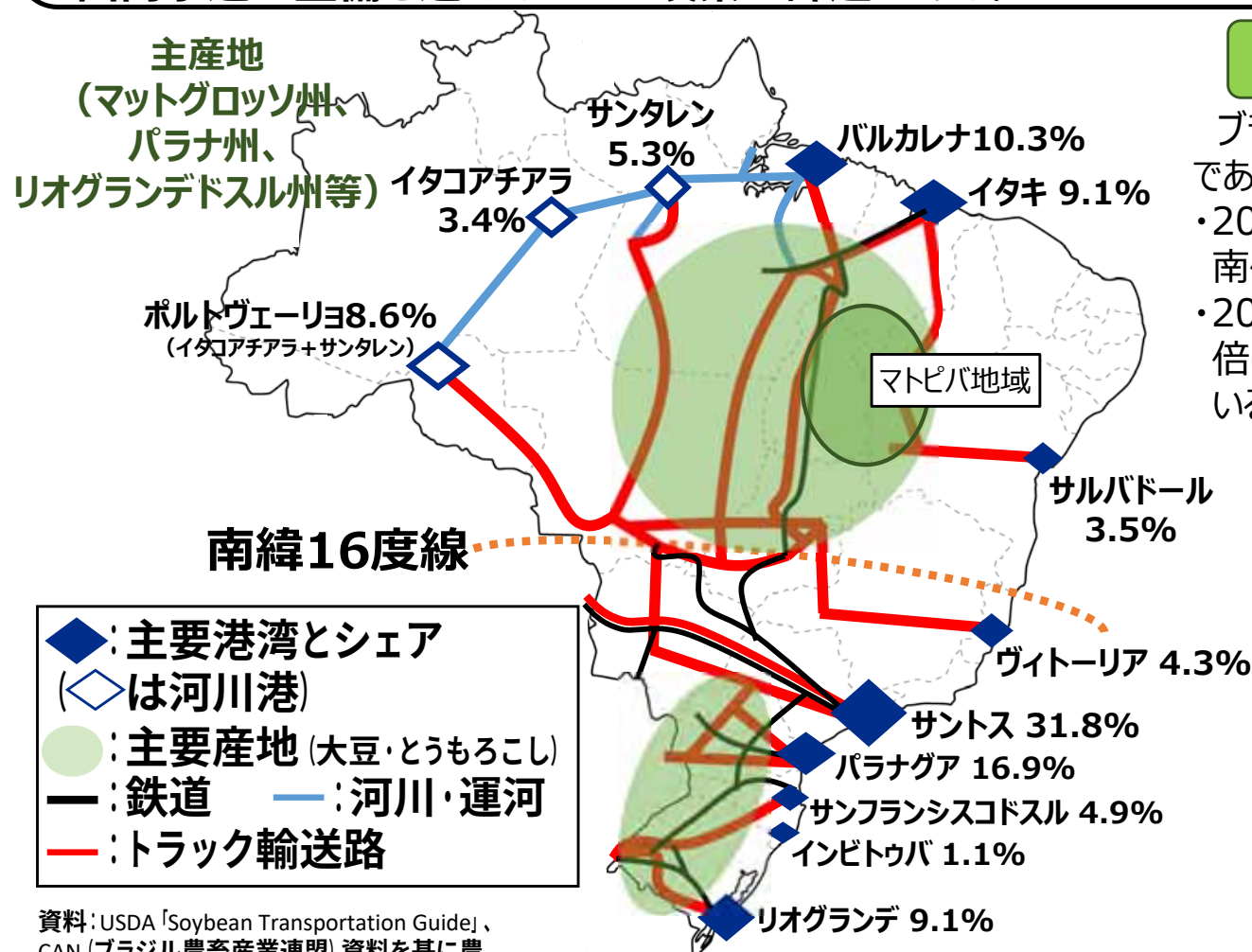
- 主産地は西部と南東部である。我が国やアジア地域への輸出は大半が西部で、東部から輸出される一部の小麦銘柄もある。
- 大きな河川が無く、鉄道網も発達していないため、トラック輸送が主流である。
- 大規模港が西部に集中しているため、収穫期や高相場時期に輸出が集中し、港湾施設の混雑が発生する場合がある。

小麦・大麦・菜種
（西オーストラリア州、
ニューサウスウェールズ州等）



ブラジル輸出時の穀物輸送経路（大豆・とうもろこし）

- ブラジルの農業生産の中心は、広大なセラード地帯※が分布する中西部と伝統的な穀倉地帯である南部。近年は、マトピバ地域を中心にブラジルのより北側へ生産が拡大している。
※熱帯サバンナ地帯。酸性土壌でそのままでは作物の栽培には不向きであったが、日伯セラード農業開発関連事業で土壌改良等を実施することで一大穀倉地帯へと変化。
- 一方、主要な輸出港は南側沿岸に多く、主要農作物である大豆・とうもろこしの輸出の約7割は南側から出ている。近年は、輸出港や国内物流インフラの整備により、より産地に近い北側からの輸出も増加している。
- ブラジルの国内輸送の主流はトラックである。農業生産・輸出の拡大に国内の物流インフラの整備が追いついていないのが現状で、それによる物流の停滞や輸送費の高騰により国際競争力を落としており、道路や鉄道、国内水運の整備を進めることが喫緊の課題である。



ブラジルの大豆・とうもろこしの生産及び輸出

ブラジルを南緯16度線で南北に分けて、主要輸出農産物である大豆・とうもろこしの生産及び輸出を比較した場合、

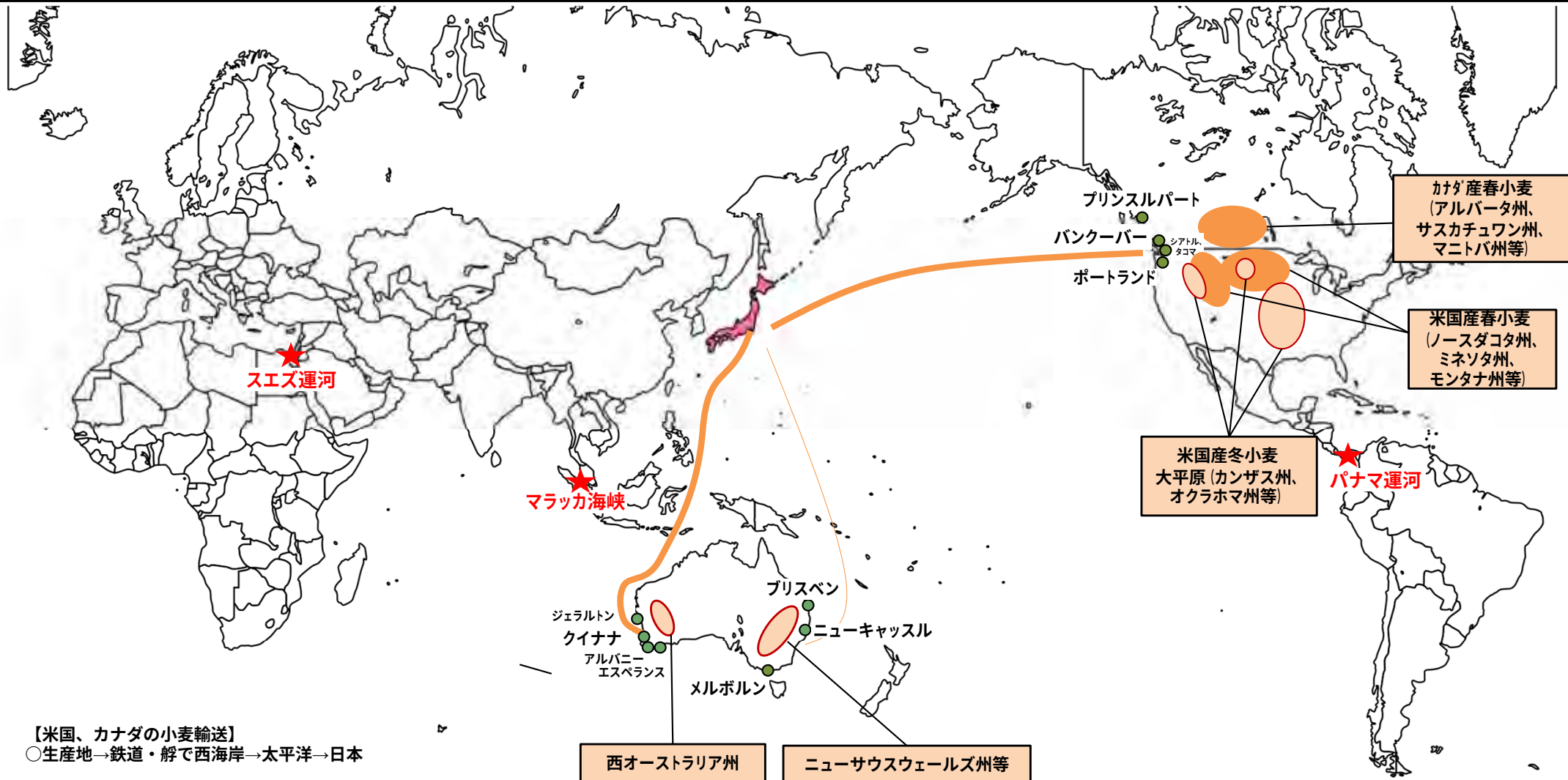
- ・2009年は、生産量は南北でほぼ同じであるが、輸出量は南側が8割以上を占める。
- ・2020年には、南北合計の生産量は2.1倍、輸出量は3.1倍に拡大。いずれも北側が南側よりも大きな伸び率となっているが、引き続き輸出の中心は南側で約7割を占める。

年	(トン)	合計	うち北側※	うち南側※
2009	生産量	1億800万 (100%)	5,600万 (51.9%)	5,200万 (48.1%)
	輸出量	4,340万 (100%)	720万 (16.6%)	3,620万 (83.4%)
2020	生産量	2億2740万 (100%)	1億4,860万 (65.3%)	7,880万 (34.7%)
	輸出量	1億3,270万 (100%)	4,230万 (31.9%)	9,040万 (68.1%)
変化	生産量	+1億1,940万 【2.1倍】	+9,260万 【2.7倍】	+2,680万 【1.5倍】
	輸出量	+8,930万 【3.1倍】	+3,510万 【5.9倍】	+5,420万 【2.5倍】

資料: USDA「Soybean Transportation Guide」、CAN (ブラジル農畜産業連盟) 資料を基に農林水産省が作成

日本の主な穀物輸入経路（小麦）

- 我が国の主な輸入先である米国・カナダからの輸送は、産地から鉄道・^{はしけ}船・トラックを利用して西海岸（PNW）まで運び、太平洋を横断するのが主要ルートである。
- 豪州からの輸送は、主産地である西豪州の場合、トラック又は鉄道を利用して西海岸に運び、インド洋→太平洋を北上するのが主要ルートである（一部銘柄は東部港から輸出）。
- いずれもスエズ運河・マラッカ海峡・パナマ運河等の要路（チョークポイント）は通過しない。



【米国、カナダの小麦輸送】

○生産地→鉄道・船で西海岸→太平洋→日本

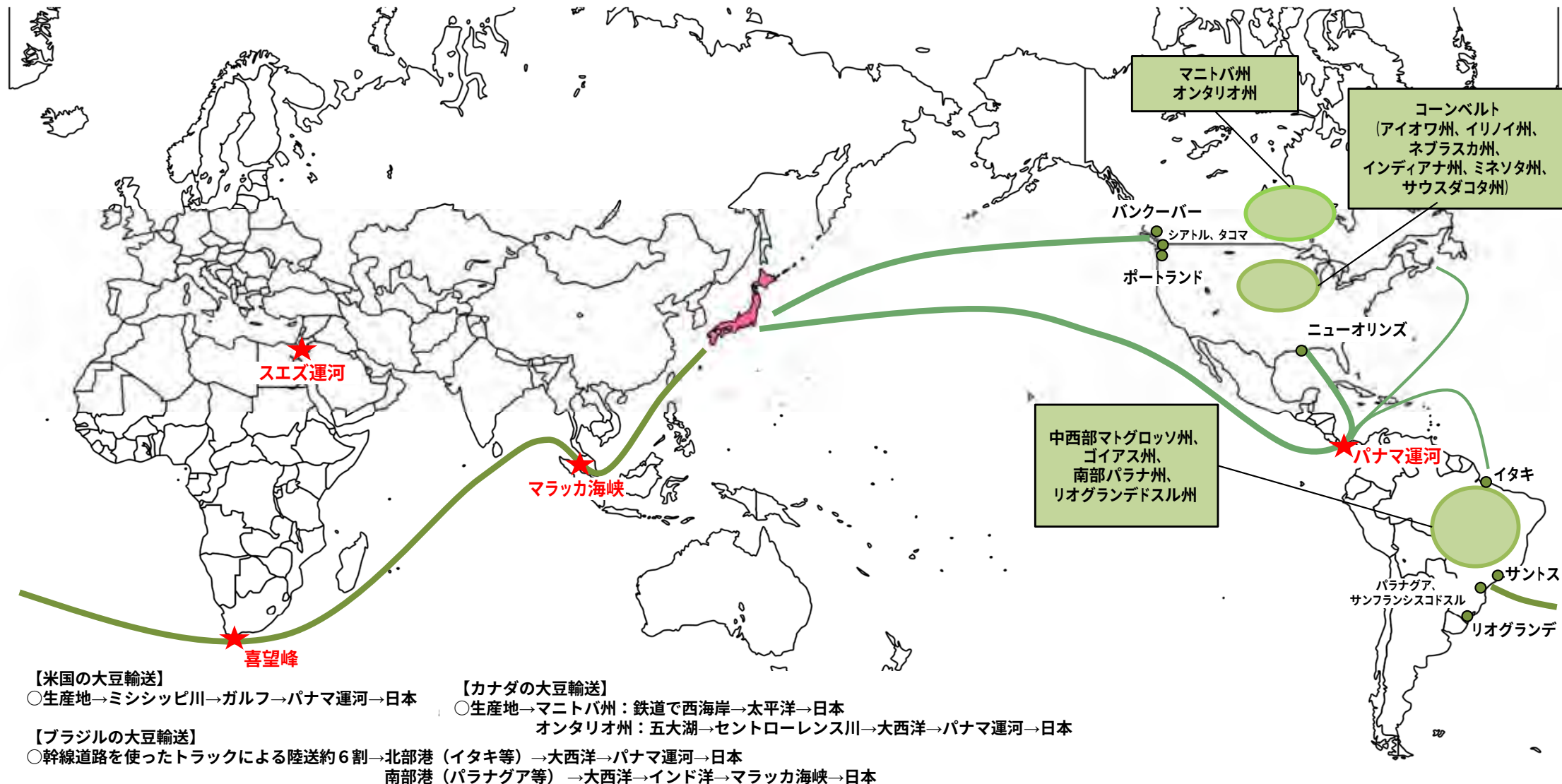
【オーストラリアの小麦輸送】

○バラ積みトラック又は鉄道→主にパース→日本

(西豪州→インド洋→ロンボク海峡(インドネシア)→太平洋)

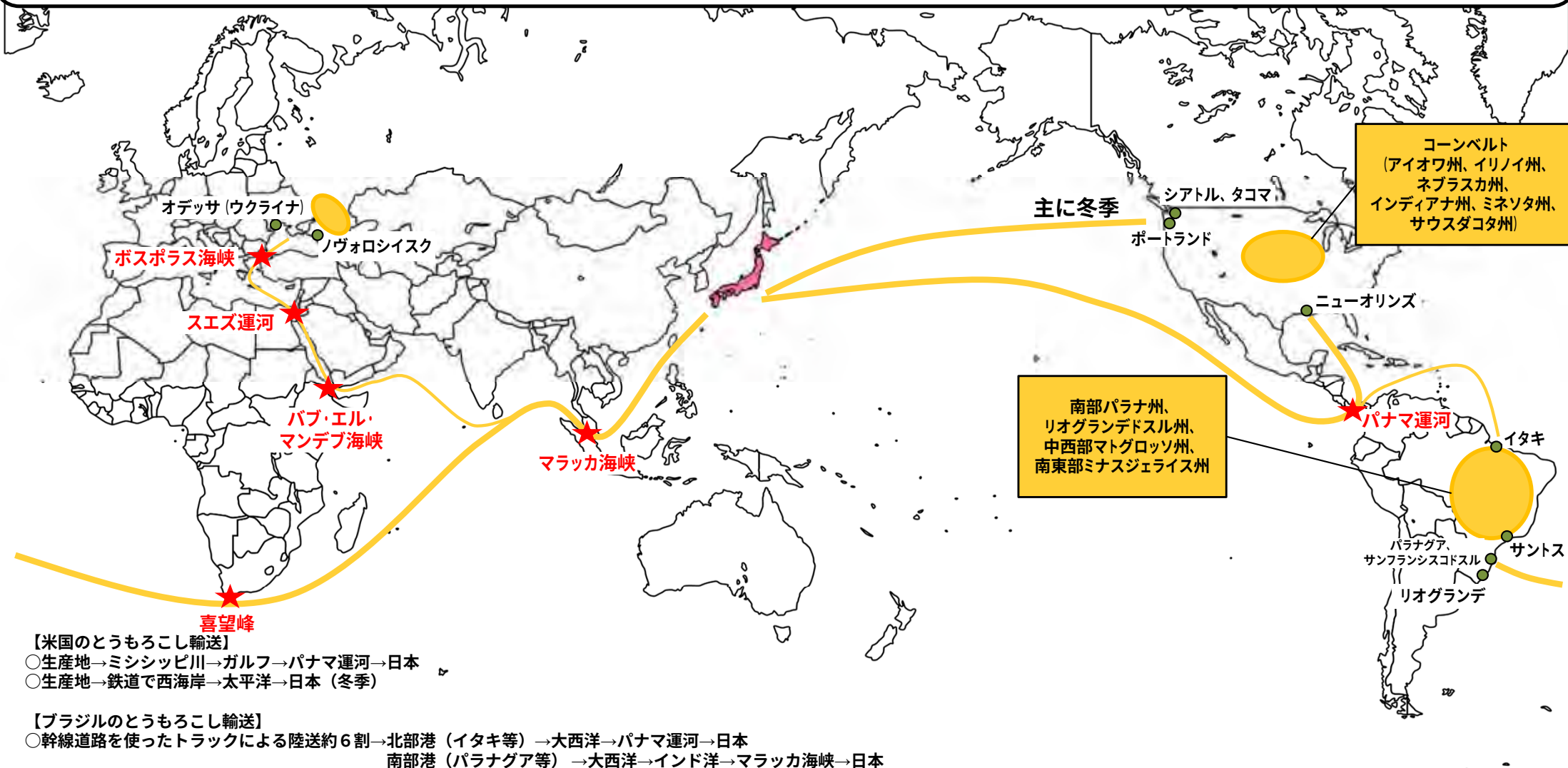
日本の主な穀物輸入経路（大豆）

- 輸入量の7割を占める米国からの輸送は、①ミシシッピ川を下りパナマ運河を経由する太平洋横断ルート、②主に冬季に利用される鉄道を利用して西海岸まで運ぶ太平洋横断ルート、が主流である。
- 米国に次ぐ輸入先のブラジルは、幹線道路を使ったトラック輸送で主要港に運び、喜望峰やマラッカ海峡を経由した大西洋横断ルートが主流であるが、パナマ運河を通過するケースもある。
- カナダの大豆の主産地は東部のため五大湖から南下しパナマ運河を経由する。



日本の主な穀物輸入経路（飼料用とうもろこし）

- 輸入量の7割を占める米国からの輸出は、①ミシシッピ川を下りパナマ運河を経由するルート、②主に冬季に鉄道を利用し西海岸まで運ぶルート、の2つが主流である。
- 米国に次ぐ輸入先のブラジルは、幹線道路を使ったトラック輸送で主要港に運び、喜望峰やマラッカ海峡を経由した大西洋横断ルートが主流であるが、パナマ運河を通過するケースもある。
- 近年生産量が増えているロシアからアジアへの輸出は、黒海からスエズ運河を経由するのが主要なルート（ただし我が国の輸入の1%程度）。



【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

（１） 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

（２） 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

（３） その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2021 年 9 月中旬までに発表した情報を引用しています。

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

英国については、2020 年 1 月 31 日付けで EU を離脱しました。英国の小麦に関する情報については小麦の EU27+英国のコーナーで取り扱います。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-6744-2368 (直通)
------------	--